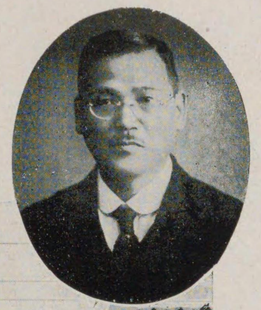
大阪市北區南森町（電車交叉點前）

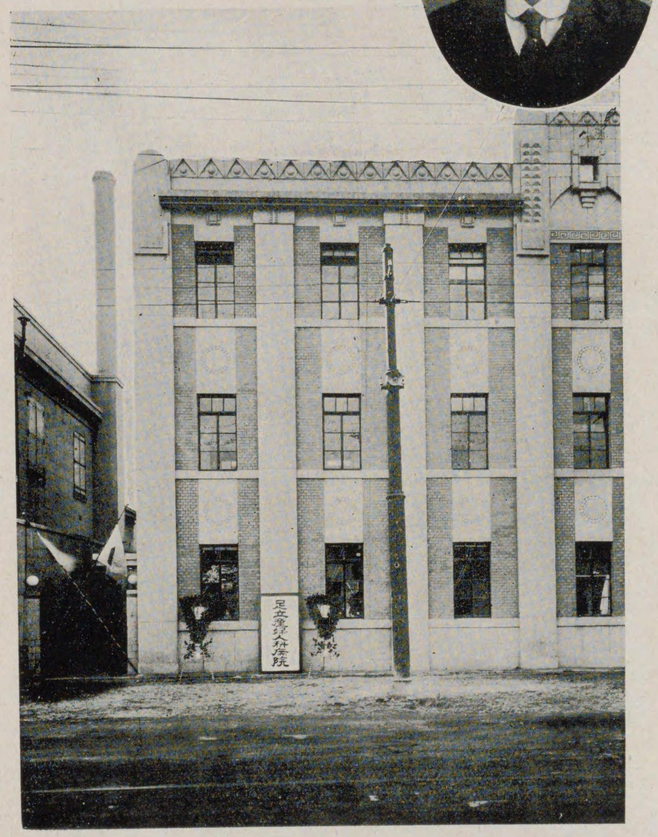
足立婦人科病院長 醫學博士 足立 貫氏

産婦人科專門として名聲嘖々たる足立病院は、足立博士の經營する所、大正七年創立後外來、入院患者逐日多數に上り、同十五年現在の病院を新築して移り一般よりの信望頗る厚くして今日に至る。

足立氏は京都府宮津町の人、明治四十年岡山醫學校を卒業し、爾來産婦人科專門に關する研究を積み、學識技術共非凡、殊に人胎盤注射に依る人工黄體發生に就いて醫學上の業績を發表して斯界に於ける其偉材なるを認めらる、氏は至厚誠實にして患者に對し頗る深切懇篤、以て病院の前途多望なるに想至る、實に産婦人科專門大家として敬するに足る。

院長 足立貫氏





足立婦人科病院

濱地病院長　濱地藤太郎氏

大阪市東區北久太郎町一丁目

同院が耳鼻咽喉科として有名であるよりも濱地氏の蓄膿症手術が我國刀圭界の何人も追從し得ぬ獨特の技能である事は既に世人の知る所であるが、今上唇の裏面からする一般の手術と、鼻孔よりする濱地式手術とを比較すれば、前者は左右兩方を一度に治療する事は不可能であるが後者は一度に手術を施し得又前者は準備の爲共約一時間、メスを握つてから卅分以上を要するが後者は全部で卅分、一度メスを取れば僅々五六分で手術を終るから患者の苦痛を輕減する事大である。

前者は十五日乃至三週間の入院を要し全快迄は約一ケ月かゝるが後者は入院三日で足り二週間後には全癒するから費用頗る低廉である。のみならず前者は十五六歳即ち前齒の揃ふ迄は施術し得ないが後者は七八歳位より之を行ひ得るから年少患者に取つての福音である。しかも同院が院是として再發患者には無料で再手術を施す事を掲げて居るのは院長の人格を最もよく現して居る。

濱地藤太郎氏は肥前唐津の人、金澤醫專出身後京都帝大に助手として二年地方耳鼻咽喉科長として三年を經、明治四十三年現在の地に開業せられた、氏は性剛放豁達で頭腦明晰、研究心篤く獨創に富み、氏の手術技能は何人も其足蹤をふむ事が出來ない。

氏の趣味は角力で少壯病弱だつた氏が今日の堂々たる體軀は全く角力の賜である、だから氏は保健法として又剛健なる氣風を養ふ爲めに常に角力を皷吹奬勵し同好の士を集めて清風會を造り自ら會長として今日も尙角力を廢した事がない、かの病院の屋上に立派な土俵が築かれて有るのは、之も我國唯一の名物である。

濱地病院長

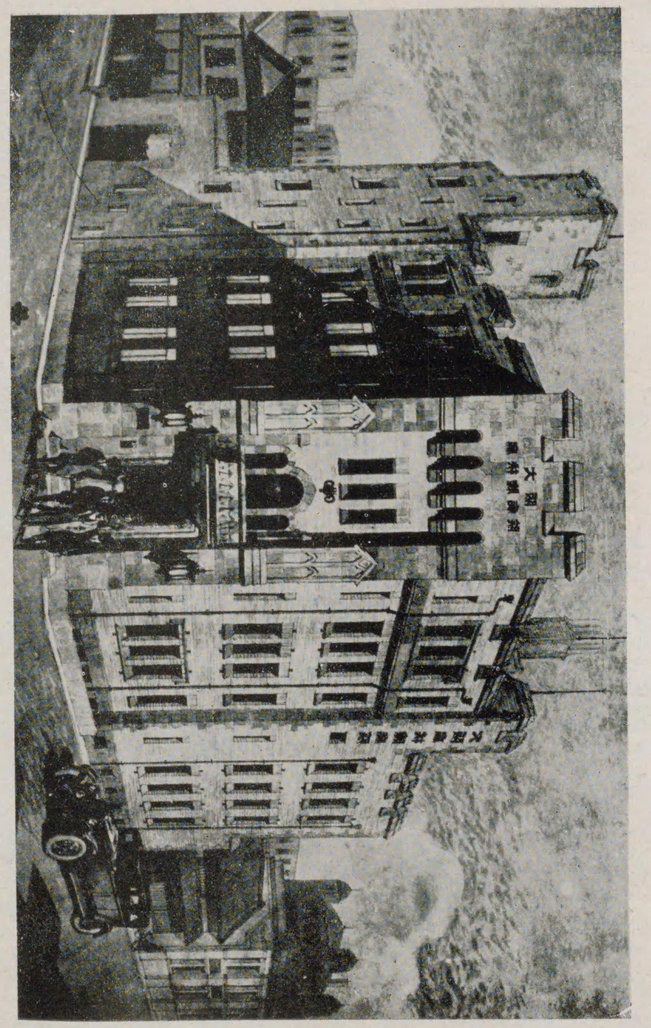
濱地藤太郎氏

濱地病院

日本唯一の大阪扁桃腺病院

院長　濱地藤太郎氏

扁桃腺　は生後二三年の乳兒期を過ぎると何の機能も成さない遺物で却てあらゆる病菌がこゝより侵入し、こゝに繁殖する眞に恐るべき無用の害物である、其齎す病氣としては感冒、結核性疾病、腎臟炎、筋炎ロイマチス、ヂフテリー、猩紅熱、扁桃腺炎等最も怖もべきものが多い、然るに從來扁桃腺に關する智識が無かつた爲め等閑に附せられ只それが病的徴候を呈して肥大した時に其患部だけを切除する切除法が行はれて居たが是は一時的の瀰縫治療であつて根治療法でないから、かゝる無用の害物は全剔出に如くはないのである、此に思ひ至られた濱地氏は嘗て氏特創の手術以て全剔出を試みられたが其成績頗る良好であつたに鑑み漸次多數の患者に施術して偉大なる効果を收められた、時會々高橋ドクトルの歸朝談に米國では小學兒童の大學に扁桃腺剔出證を必要として居る由を聞き、大正十五年巨費を投じて北久太郎町一丁目に大阪扁桃腺病院を建築し扁桃腺の剔出及び之に關する疾病の治療に從事せられた、元より濱地氏の率仕的精神に生れたものであるから諸設備の完全は勿論、氏の獨創的手術技能は濱地病院で既に衆人の知る所、副院長松本博士亦斯界の權威である、其剔出法は極めて鋭利な刃物で扁桃腺被膜の表面を順を追ふてソルので出血もなく苦痛もない、剔出の結果は扁桃腺病に冒されざるは勿論結核病の豫防となり、感冒、中耳炎、腎臟炎其他前記の怖るべき疾病に罹る事少く、健康を增進し、頭腦を明晰にする。



（目丁一町郎太久北區東）院病腺桃扁阪大

所長
衆議院議員　吉津度氏

梅田病院——大阪細菌研究所

大阪細菌研究所製品一覧表

ワクチン類

治療液

品名	種別
ゴノコツケンワクチン	(淋菌ワクチン)
コイヒチン	(百日咳菌ワクチン)
シヤンケリン	(下疳菌ワクチン)
ヒロチン	(葡萄状球菌ワクチン)
エリジペリン	(丹毒治療液)
ストレプチン	(連鎖状球菌ワクチン)
コリチン	(大腸菌ワクチン)
プエルチン	(産褥熱ワクチン)
チフチン	(連鎖大腸菌ワクチン)
パラチフチン	(腸窒扶斯ワクチン)
腎盂腎炎ワクチン	(パラチフス、ワクチン)
メニンゴチン	(連鎖葡萄大腸菌ワクチン)
インフチン	(腦脊髄膜炎菌ワクチン)
ノイモチン	(インフルエンザ菌ワクチン)
カンボイン	(肺炎球菌ワクチン)
オツエニン	(感冒治療液)
	(中耳炎治療液)

豫防液

品名	種別
感冒豫防液(インフルエンザ混合)	(一號—二號)
流行性腦脊髄膜炎	(一號—二號)
虎列刺	(一號—二號—三號)
赤痢	(一號—二號)
腸窒扶斯	(一號—二號)
パラチフス	(一號—二號)
腸窒扶斯パラチフス混合	(一號—二號)
百日咳	(一號—二號)
ワイル氏病	(一號—二號)
狂犬病豫防劑	

血清類

品名	種別
液體ヂフテリア血清	(一號—二號—三號)
乾燥ヂフテリア血清	五〇〇〇、〇免疫單位
液體破傷風血清	(一號—二號)
乾燥破傷風血清	一〇〇〇、〇免疫單位
ワイル氏病々原血清	(一號—二號)
連鎖球菌血清	(一號—二號—三號)
丹毒治療血清	(一號—二號)
産褥熱血清	(一號—二號)
赤痢血清	(一號—二號)
腸窒扶斯血清	(一號—二號)
パラチフス血清	(一號—二號)
腦脊髄膜炎血清	(一號—二號)
虎列刺血清	(一號—二號)
肺炎血清	(一號—二號)
健康馬血清	(一號—二號)

痘苗

診斷劑

品名	種別
窒扶斯診斷液	(甲窒扶斯診斷液 乙パラチフスB型診斷液 丙パラチフスA型診斷液) 一組 各一〇瓩
結核皮反應刺種液	本劑ノ由、乙、丙ヲ各別ニ貴需ニ應ズ壹壜
結核皮反應軟膏	ピルケ式 五回分一瓩
結核眼反應點滴液	モロ式 五回分一瓦
	ウオルフアイスネル式 一具(毛細管五本)

ツベルクリン

品名	種別
舊	(一號—二號)
新	(一號—二號)
最新(結核菌乳劑)	(一號—二號)

所長　吉津度氏
大阪細菌研究所
大阪市北區萬歳町

高橋眼科病院

高橋眼科病院は大阪市東區農町一丁目にあり、院主高橋江春氏、院長氏治祐氏共に斯科の權威者として夙に聞く、又人格に於ても一般より敬せらるゝ。

院長 高橋祐治氏

院主 高橋江春氏

ドクトル高橋祐氏に依りて經營せらるゝ洋館建築にして諸般の設備完全、患者に對して遺憾なく、同院は實に斯科の權威者として夙に見るが如く盲目大

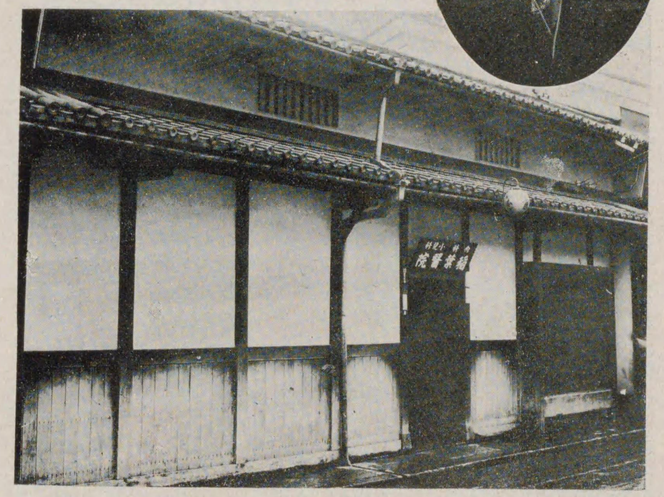
馬志病院

院長 馬志晃氏

大阪市北區樋之口町都島橋西詰各科專門病院は醫學士志馬晃氏、市內北部に於ける保健衛生施設上甚だ介するもの多く、諸般の設備遺憾なく、院長志馬氏は資性明敏の人格者として、而も一般に對し加ふるに親切にして、博く院運盛んなる所以なり、隣の兼氏が院長たる同院の今日あるは實に氏の一身に基る。

院長
稲葉章通氏

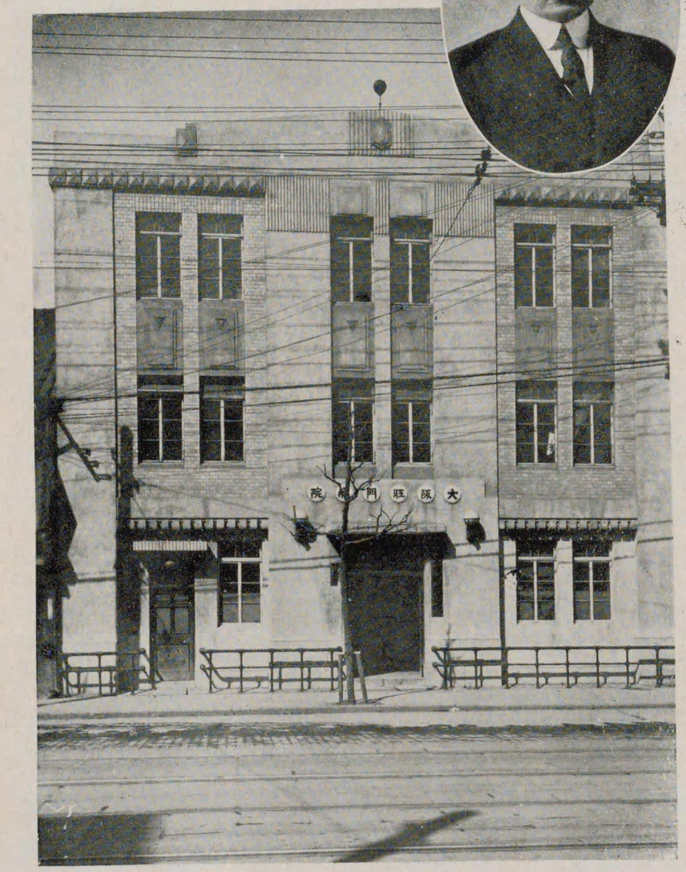
大阪東區今橋二
稲葉醫院



内科、小兒科
稲葉醫院

大阪市東區今橋二丁目に稲葉醫院を開業する稲葉章通氏は岡山縣小田郡の人にして内科、小兒科に於ける臨床大家として知らる、氏寔に溫厚謙讓の人、高くして驕らざる人格は氏の該博なる學識と相俟つて患者の尊敬に止らず近隣の衆望を集めて嘖々たるものあり、一度氏に接すれば必ず敬愛の觀に打たるゝものあり、即ち氏の修養の非凡にして大なるを知るに足る、醫家として又人格の高潔なるを以て良く斯界に敬せらるゝ所以。趣味豊にして讀書、圍碁を好まると聞くも筆者氏の詳細に就きて盡す事を得ざるを遺憾とする所なり。

院長ドクトル
佐々木惟朝氏



大阪肛門病院はドクトル佐々木惟朝氏の經營する處にして大阪市東區京橋二丁目に四階(地階共)建の完備せる院舎あり、諸般の設備遺憾なく、院長の崇高なる人格と豊なる學識は一般患者の尊敬の集まるところなり。

株式會社白井松器械舖は醫療器械學術用諸器械製造業の重鎭なり、祖先以來二百有餘年十二世の間代々和漢藥種商として繼續する老舖なり、明治十年西南の役起り多數病傷者治療用藥品、衞生材料一切の物資調達の命を受け晝夜兼行其任を全ふせんとするに當り、醫療器械器具の不備と幼稚の爲め治療經過を妨げ快復意の如くならず、病者は苦み術者は歎息し戰鬪力補充の實擧らざるの實況を見直に是れが補給の道を考へ應急の策を講じ不完全ながら其大任を全ふするの賞讃を得たり、是れ祖先傳來の藥種商を廢し醫療器械、衞生材料の輸入と製造の專業開始の動機にして、明治十一年四月とす、醫療器械業の嚆矢なり。

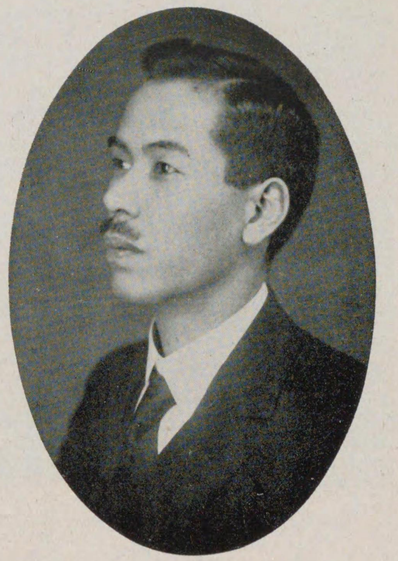
爾來五十餘年輸入模倣、製造熟練輸入防遏、輸出開拓各期に亘り幾多の艱難と悲境に堪へ研究と奮勵其基礎確固たるを得たりと雖も學術の進步世界的にして限りなし是に伴ふ當社の前途洋々たり。

醫療器械・理化學器械・度量衡器　計量器・血清藥品・繃帶材料

株式會社 白井松器械舖

東區道修町二丁目二電話局本局三六〇・三六一・振替大阪五八一

（上）部一の室列陳　（下）景全店同眞寫



大阪扁桃腺病院主事
中川三郎氏

病醫院の經營に就て

大阪扁桃腺病院主事
中川三郎

かつて五六の事業會社を主宰して來た私が、同郷の畏友濱地病院長の懇囑に應じて、その總てと絶緣して一意當院に關係することになつてから、はやくも一年を經過し、本月一日を以つて當院が滿一週年を迎へる日に丁度私もともに在職一ケ年の思ひ出深き日に逢着したのである。

僅かなる體驗しか有さない、私としては、こゝに病院經營などの意見を云爲する資格は全然有してはゐないのであるが、過去十有六年の涙ぐましく、また雄々しくも、濱地病院の外に從來耳鼻咽喉科中の渉たる一局部症として輕んぜられてきた扁桃腺病に關し、一新知見を持つて飽く迄も初一念の達成に直進邁往されつゝある濱地病院長の驥尾に附して來た私としてその間、いつとはなく色々なヒントを得ぬでもなかつた。

そこで、大大阪書報社の森岡主幹から請はるゝまゝに、それを摘記して私のこの紙上での責を塞がうと考へるのである。

一、社會正義の觀念に走脚したい　病院と醫院の差別なく苟くも開業醫としてこれを社會的に宣傳するにつき、醫師法に牴觸するやうな方法を執ることの否なるは言ふまでもないが、一枚の紙にも表裏のあるといふ見解からして、法文にさへ觸れない範圍であればその手段方法を選ばないといふ傾向が、この頃の新規開業の病醫院に多いやうに見受けられるのは唾棄すべきであると思ふ。何も施料をするとか、診察料を取らぬとかいふことがさうであるといふのでなく、また同業を排擊し誹謗するといふことがさうでないとは言はぬ。

二、自己省察の刺戟を少くさせたい　病醫院に來る患者の第一の印象は大變に力強いものである。しかしそこに病院らしくなく、醫院らしくない樣な感じを與へておけば患者の自己省察といふ病苦の聯想が中斷されることゝなる。それが醫療並に投藥若しくば手術を加へずに病患を治癒させる大きな力となるものではあるまいか。私の寡聞或は間違つてゐるかも知れないが、前九大の熊谷玄旦博士の診察を受けにきた一青年が博士から「病氣ぢやない」と頭から叱られて追返へされたのに發奮し、無病の時以上の過激な勞働に從事して、殆んど不活であつた病氣が、反抗療法の自然の結果で治癒されたといふ話などを思ひ浮べるにつけ、病は氣からといふことも參酌し、病院や醫院の施設及び醫師が、あまり神經的で患者に接することは考ふべきことであるとおもふ。

三、醫療期間を可及的短縮したい　內科的病患が時間的に治癒の進度に交渉があることは素人である私などにも首肯されるが、外科的のものでは、施術者の考案如何によつて、その加減が設け得られるやに思はれる。そこで手術料を安價にして、その事前と事後とに相當の入院又は通院を要せしむるのと、手術料は高いかも知れぬがその事前後の費用を省かることが出來るのとに區別される。私の考では新患の感じは前者にあるが、舊患又は過去にそれらの經驗とか、理解とかを持つ人は後者を歡迎することになるから手術科などは過當でない限りにして、入院又は通院期を縮め更にこれに依つて患者の負擔を減少せしめ、寧ろ、その數を殖やすことにする方が、上乘のやり方ではあるまいかと思ふ。

四、大病院の利用方法を活かしたい　全科病院で大規模のものなればそれに越したことはないか、專門的の病院でも、相當の設備を有する病院にそれ自體の醫員がそれに收容されるだけの患者のみを取扱つてゐるのは經濟的に大變まづいやり方である。出來ることならば病院のデパートメント、ストア式のもの、出現を望みたいが、それは急に得難いから、市內散在の醫家は自院では最も簡單な治術を施すだけに止め、或はレントゲンを要するもの或は大手術を要するものなどは、右大規模の病院に出向き、そこから器械やらベツトやらを借り受け、入院を要するものはこれを委托しておいて一定時に往診するといふことにすれば個人の醫家も、その病院も一擧兩得ではあるまいか、もう大阪などの大都市にはこうした時代が來てもよい時分である。

如上の趣旨に依つて經營の衝に當ることができれば、何時かは雲霧を排して、輝やかしい天日を拜するの愉悅に浸ることが出來ると思ふ。盲者蛇に怖ぢずの譬へで、醫家でない私の偏見に大方の叱正を仰ぐ次第である。

By Appointment

WINE MERCHANTS

TO

	A.D
H.M. KING GEORGE V.	1910.
H.R.H. THE PRINCE OF WALES.	1921.
H.M.KING EDWARD VII.	1901.
H.R.H.THE PRINCE OF WALES.	1863.
HER MAJESTY QUEEN VICTORIA.	1837
H.R.H.THE DUKE OF EDINBURGH.	1889.
H.M.KING WILLIAM IV.	1830.
H.M THE KING OF SPAIN.	1886
H.I.M.THE EMPEROR OF JAPAN	1905.
H.M.THE KING OF PORTUGAL.	1907

& OTHER MEMBERS OF THE ROYAL FAMILY.

HEDGES & BUTLER LTD.

By Appointment

Chief Partners and Directors in the House of

HEDGES & BUTLER

from date of foundation to present time.

A.D	
1667-1735	EDMUND HARRIS, born 9th Sept. 1635 at CHARLBURY, Oxon Founder of the business established in Hungerford Street, Strand
1733-1767	WILLIAM HEDGES, of WOOTON Oxon Married KATHERINE KILLINGWORTH (of the same Spinster) 27th Decr 1739, GREAT-GRAND-DAUGHTER of EDMUND HARRIS
1735-1767	WILLIAM KILLINGWORTH, Nephew of EDMUND HARRIS.
1767-1808	KILLINGWORTH HEDGES, Nephew of WILLIAM KILLINGWORTH
1798-1872	WILLIAM HEDGES, Son of KILLINGWORTH HEDGES
1835-1844	WILLIAM KILLINGWORTH HEDGES, Son of WILLIAM HEDGES
1844-1882	JAMES BUTLER, Son in Law of WILLIAM HEDGES
1882 to present day	JAMES WILLIAM BUTLER, FRANK HEDGES BUTLER | Sons of JAMES BUTLER
	LIEUT. COL. H. ILTID NICHOLL, D.S.O. Son in Law of FRANK HEDGES BUTLER

The House of Hedges & Butler, originally Established A.D. 1667, the year after the Great Fire of London, in the reign of King Charles II, has been continuously carried on by the members of one family during the reigns of twelve consecutive reigning British Monarchs

英國産最高ウィスキー

ローヤルバット

ローヤルバット

洋酒食料品

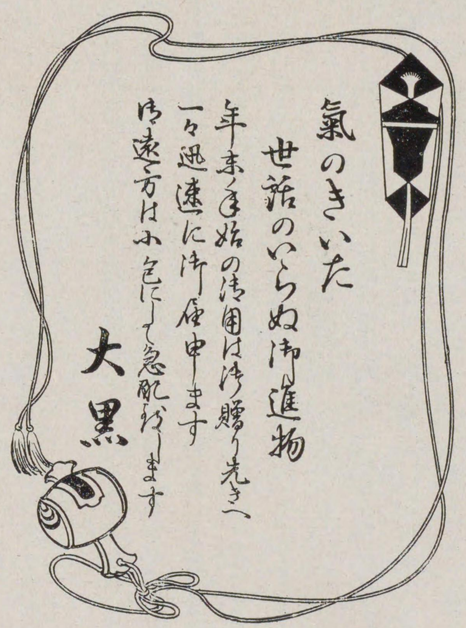
直輸入　横山商店　製造及

大阪市東區豐後町三

大阪名物

あみだ池

栗おこし　福おこし

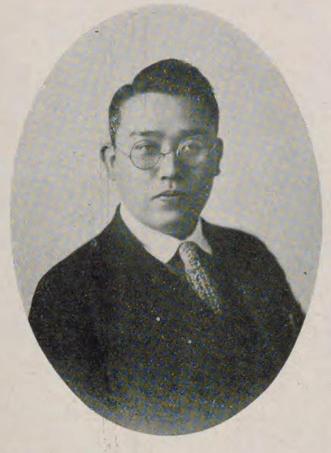


瀬戸内海週遊

（追加掲載）

第一案　所要日數四日、船内三泊、大阪午後五時神戸八時發翌未明多度津經由船上より鞆の名勝仙酔島阿武菟觀音、尾道音戸瀬戸、呉軍港、宇品等を望見し、午後五時宮島着、上陸嚴島神社參拜、午後九時宮島發、翌午前六時別府着、上陸して入湯自動車にのり急がば地獄巡りも出來ます。晝飯後午後一時紅丸又は紫丸乗船、翌午前七時半神戸着九時大阪着所要日數四日なれども（船内三泊）第一日は夕暮御出發、第四日は早朝御歸宅、實際は中二日の休暇で足ります。

第二案　所要日數六日大阪午後五時發、讃岐巡り（其項御參照）午後九時二十分高松發、紅丸又は紫丸に御乗船、翌朝午前十時別府着上陸御一泊、翌午前八時別府發後四時四十分宮島着、上陸御參拜御一泊、翌午前五時三十分宮島發、宇品、呉、音戸、尾道、鞆、多度津等を經由、大阪翌午前六時着、所要日數六日（船内三泊上陸二泊）なれども第一日は夕暮御出發第六日は未明御歸阪に付、中四日の休暇で巡れます。



（追加掲載）
本書發刊功勞者
中大路懐清氏

印刷の需要は文明の程度に正比す、今や我大阪は帝都をも凌がんとする文化の發祥地として東洋に於ける一大文明都市たる事は自他共に認むるところである。

茲に我大阪に於ける印刷文化の紹介に當り斯業に長き歴史を有するカミヤ印刷所を其一に例す、卽ち同店は營業所を此花區上福島に、主要工場を大仁、浦江の二箇所に置き、營業は各種印刷及其附帶事業の全般に亘り、現代に於ける印刷物は如何なる注文と雖も迅速に供給して需要家に奉仕し、其營業及設備に至りては關西有數の同業間に列して遺憾なく、從而逐日愛顧を受けつゝある重なる得意先は住友家、大阪株式取引所、大同電力、京阪電鐵、稅務監督局、大阪府廳、赤十字社病院、大日本セルロイド、各學校及び銀行、諸會社、大商店等にして同店の業勢斯かる隆昌を見つゝある事は一に工場の管理に於て全備せるに依ると雖も亦以て店主源田武藏氏の誠實なる資性に併せて信用第一主義なる其紳士的人格に基因する所最も大なりと信ず、然して店主を補佐するに支配人池田義一氏あり、氏また店主の着實に習ひて得意先の氣受頗る厚く從業員一般に對しても其の範として深く敬せらる、斯る主腦者に依りて顧客本位を目標として孜々として努力を惜まず一路店運の振興に向つて邁進しつゝ同店の今日あるは寔に兩氏の勤勉精實に酬いらるゝに當然たるべきである。

曩に我社は本書「大大阪書報」刊行に際し其の信用實力を調査したる結果同店に大なる信頼を以て印刷、製本、裝禎、の全部を注文し今其の完成を見たるは本社の欣幸とする所にして紹介に併せて以つて茲に敬意を表し同店の增々發展を祈る。

カミヤ印刷所　店主源田武藏氏（中右）
印刷工場の一部　本書大大阪畫報印刷の現況（上下）

土蜘蛛

末吉一郎氏

稽古場　淨照坊

大阪市北區若松町
（大日本製糖　大阪支店內）

咸陽宮

末吉一郎氏

寶生流大阪寶友社々員一覽

野口政吉先生（東京）　竹村又吉（大阪）
二宮　貞（大阪）　竹腰健造（兵庫縣）
西　耕造（同）　辻岡清一郎（大阪）
本郷才一郎（同）　中松竹雄（同）
中條銳一（同）　窪川眞澄（同）
大江專三（同）　前川伊三郎（同）
柏原仁兵衛（同）　牧坂吉三郎（同）
田中一馬（京都）　島村幡彥（兵庫）
田中一郎（兵庫縣）　瀨上弓之輔（大阪）
多田孫七（大阪）　末吉一郎（同）

昭和三年四月十五日
能樂場所　天滿天神能舞臺
（年二回擧行）

蟬丸

シテ　末吉一郎氏
蟬丸　西耕造氏

咸陽宮　シテツレ　瀨上弓之輔氏

末吉一郎氏

趣味の人

「石川文右工門氏と」

「その國際的庭園

趣味は人格を造る、そして趣味はその人の個性に育まれつゝ自己の擴充を豊かにするに從つてその人の情調を潤澤にする。恐らく人々の人間らしい向上といふことは、自己の趣味を遺憾なく行ふことにあるであらう。

今私達はその趣味性の純化に於て當然選ばるべき人格を石川文右工門氏に見るであらう。

春あさくうらゝかな、その日、南海の沿線高師の濱の小驛に下車、眞砂の汀に打寄する小波は耳近き音を傳へて冬の名殘りを偲ばせてゐる。

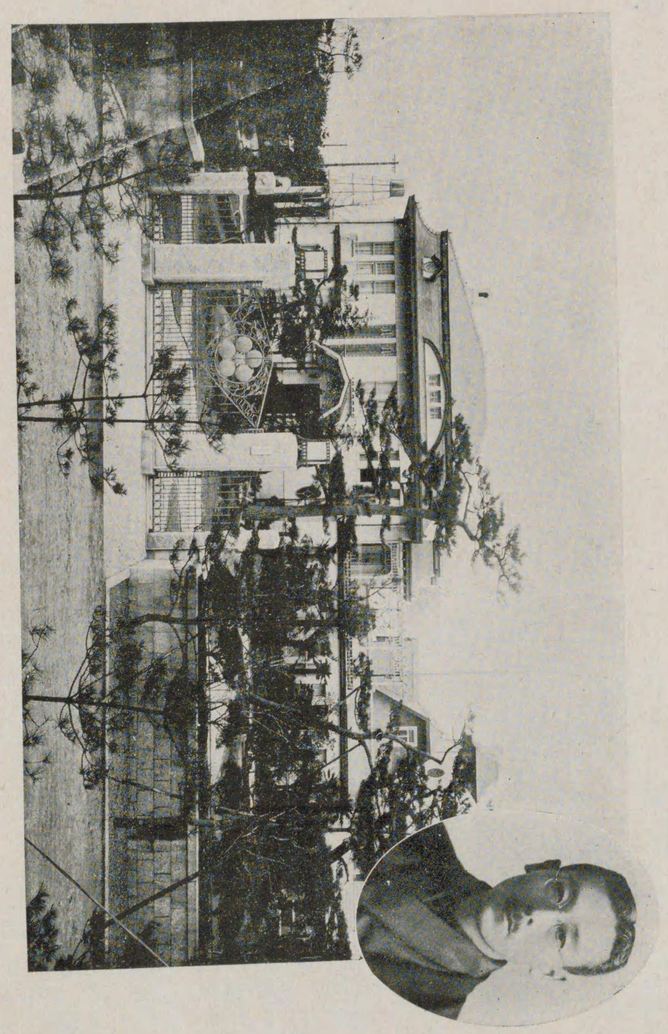
驛の直ぐ側なる並木の通りを隔てゝ宏壯な石造の門關がある。門柱には正しく「石川文右工門」の文字が鮮明に掲げられてあつた。三千二百五十坪の宏大な庭園は流石に氏の趣味性と人格の反映であつて、内外の珍草奇樹に配するに東西の美術品を惜しげもなく雨露にさらしてある。この庭園こそ、嘗ては閑院宮殿下の台覽を仰ぎ、内外貴顯紳士が交遊の園として有名なる庭園で、誰れ云ふとなく「國際庭園」の稱さへあるにいたつたものである。

しかし庭園もさることながらその邸内もまた氏が得意の結晶であるのみならず、その建築構造や、室内の設備裝飾は總て美術的趣嚮として理想的なものである。これは既に定評のあることで、同氏の邸内參觀のための訪客が日々少くないとのことである。

清楚で近世型の當主文右工門氏は、世辭にもまた極めて圓かである。今氏が謙遜な言葉で室内裝置に對する心持ちを曰ふ。

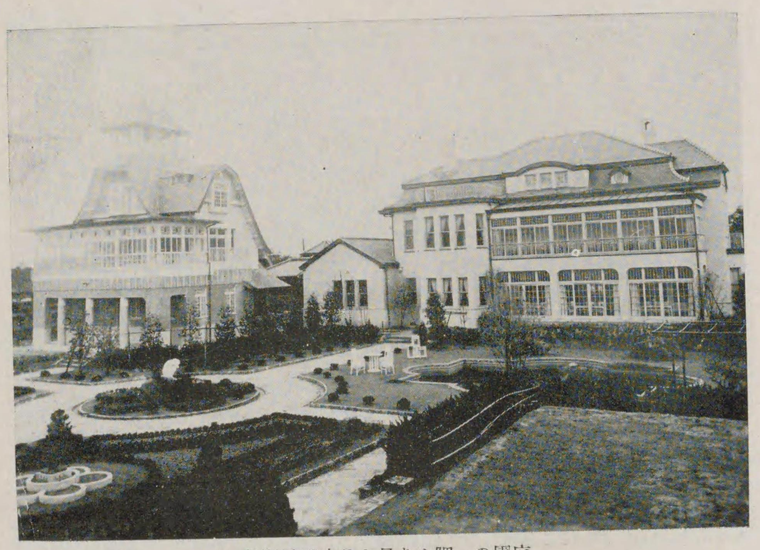
「室の造り方は全體として獨逸式に則りましたが、しかし室の間仕切りは獨逸式ですとどうも暗い感じがしますので、そこはアメリカ式をとりました。これですと三間位透視出來ますので大變氣分が明るくなります。また室内の裝飾は、各室同一の趣嚮では面白くないと思ひまして、その室に應じて裝飾の工夫を變へて居ります。例へば電燈器具の如きものは種々の型や色のものを用ひることにしてゐます……云々」

以下寫眞によつて室内の概觀を紹介することとする。



邸本のそと氏門工右文川石
（濱の師高經海南）

石川氏本邸につゞく別館



庭園の一隅より見たる本邸及別館

園内橋畔

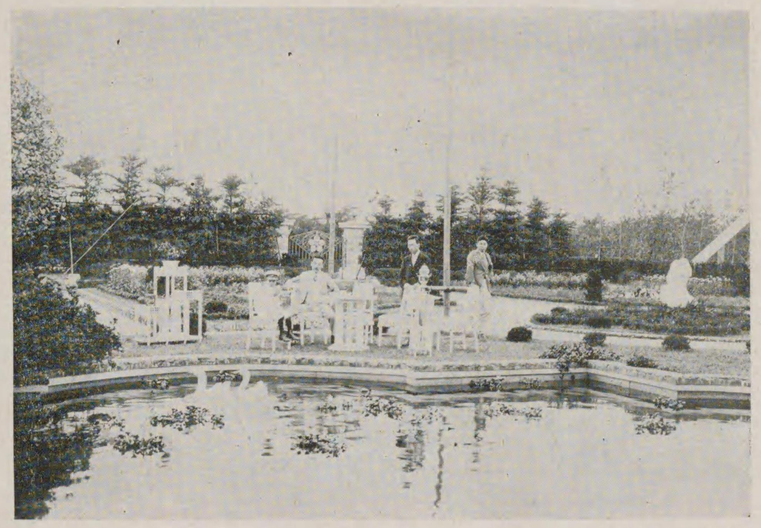
（橋上なるは石川氏夫妻と愛息）

本邸階下の客室
（所謂アメリカ式透視間仕切）

花か人か……窈窕美を競ふ
（所謂國際園庭の一部）

石川氏庭園の一部

石川氏庭園の一部

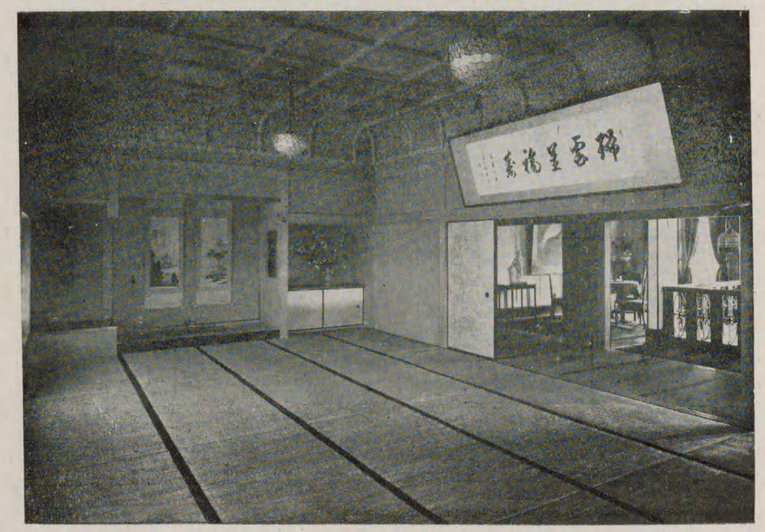


上　同

本邸階下の廻廊

同上玄關口休憩室

變換式和洋折衷の大廣間（上はその洋式 下はその和式）



應接室

一隅に見ゆる收納箱には外國勳章・閑院宮殿下より拜授の金盃賞勳局より受けし銀盃得難き白玉の香爐や珍らしき時計の種々等貴金屬の光り燦然としてねる

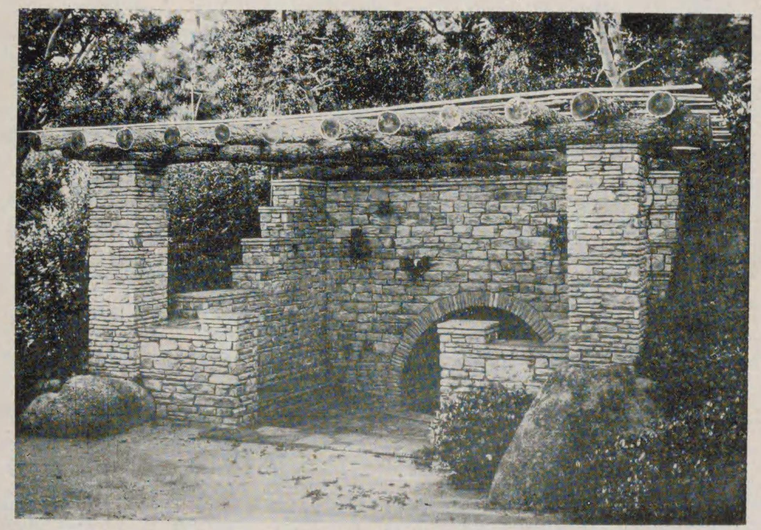
主人の居室兼書齋

堂ビルホテル屋上庭園の一部

全景はビルデイング紹介欄に掲載せるに付き茲に略す

同上裝飾せる大食堂

「スレテ」其及邸氏郎治發本山 (川屋芦)



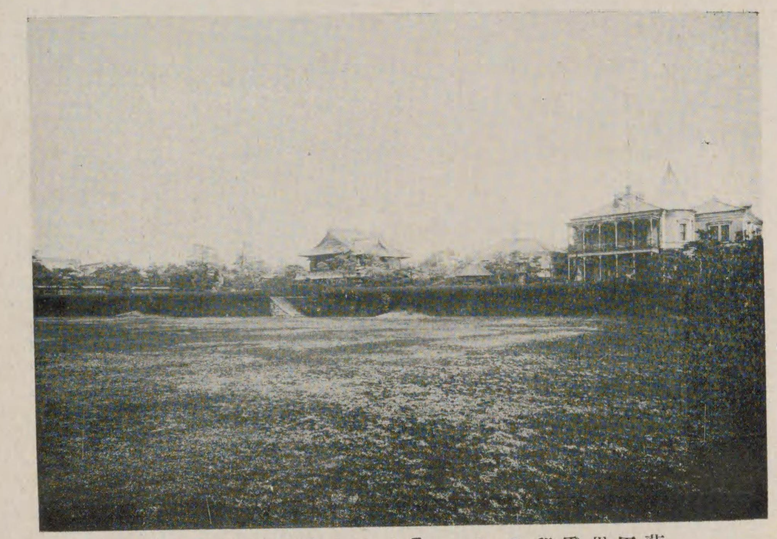
泉壁の園庭邸同 (上 同)

名園 參考寫眞

上 同

藤田男爵邸　玄關の外景

同上　淀川岸より同邸内を見る

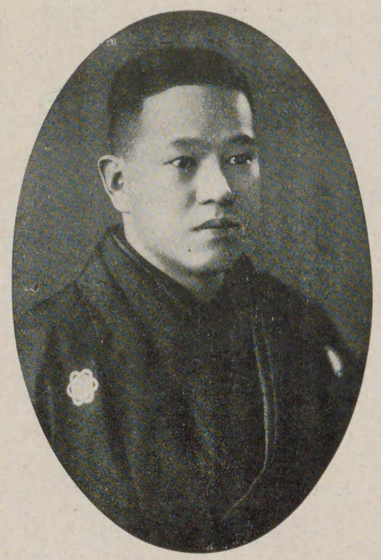


藤田男爵邸の「テラス」より大庭園を見る遠望

同邸庭園の眞中

大正十五年も將に暮れんとする頃、懼くも
先帝陛下御悩の砌六千萬赤子は擧げて御平癒を神社佛閣に祈願した、吾大和屋に於ても常に家憲とせる當主の主義は現はれたのである、卽ち崇神敬佛、皇室中心主義は同家に養生中の小女連全員をして早朝より齋戒沐浴に身心を淨め無言の行を其の儘同家前に二列縦隊を以て整列し同家主夫妻の先導に贈々として當市生國魂官幣大社の社前に到り列を正し同社宮司の祝詞奉奏と共に阪口氏夫妻謹んで玉串を捧げ全員は之れに習ひ默禱に數刻を擧り尙ほも一同は無言謹愼裏に社前を辭したのである。
只此の事を窺ひても同家の斯界に於ける代表として恥かしからぬ事であらう。

浪花の誇り
大和屋の經營ぶり



阪口祐三郎氏

紅灯ゆらぐ春の夜の軒端に佇めば、誰か心の柔がない者があらうか。況して若芽だつ柳の繭より、窓の匂欄に背を凭らす艶女の仇姿を垣間見て、誰かその優美に打たれざる者があらうか。
誠に人の世の創めよりこのかた、男性の健氣な活動の、其の蔭にかくれて力を効す者は、星の如く輩の如き女性美とその優し味である。今は故人となられた牡丹公が、殖民政策の先頭に娘子軍を用ひられた事は、一面に於て道理ある大卓見といはねばならぬ。
さればこそ、我が大大阪が、東洋に於ける商工業の中心地として嘱目さるゝその裏面を觀ても、陰然この文化を援くる優しき力の潜めることを否定することは出來まい、世人はその世界を溫柔郷とも、花柳界とも稱してゐる、政事のこと、商取引のこと、及び其他の事柄が、殆どそれ等料亭の座敷で結ばれるのも偶然の事ではない、斯くて大大阪文化の潜勢力も、紅灯綠酒の中より胚胎するといつて、決して過言ではあるまい。
こゝに我等の三唱して、敬服の辭を惜まない模範的料亭を拉し來るのも、蓋し大大阪文化の隱れたる偉功を表彰する意味に於て、大々的意義あること〻信ずるのである。而して我等はこの意味に於て、その模範的讃辭を、劈頭先づ南地の大和屋に捧げねばなるまい。
大和屋の第一歩は、明治三十年頃、當主祐三郎氏の母堂阪口千代氏が藝妓店を開きし事に創まる。その當時千代氏は自ら藝妓家業をしながら、その經驗上感ずる所ありてか、新に大和屋藝妓店を開き、種々苦心の結果、漸く四十名ほどの藝妓を扱ふに到つたが、逐次老境に入るに從ひ、家業に勵精するの根氣も薄らぎしと見え、遂に其息祐三郎氏に家業一切を譲らうとしたのである。
然るに祐三郎氏は、關西實業界の大恩人たる、故松本重太郎翁の膝下に、十三歳の頃から薫陶を受けながら、將來大實業家となるべき自負を持つてゐたので『お茶屋家業の引繼なんか眞平だ』と駄々を捏ねて、母堂を手古摺らせたものである。

所が、その事が端なくも
松本翁の耳に入つたので、翁は一日祐三郎氏を招き、料亭が必ずしも不眞面目なものでないといふ意味を懇々と說き、それから總ての會合に卓を圍んで、理屈ばかり捏ねてゐては、お仕舞に衝突するやうな事があるよりも、藝妓が杯盤の間を周旋して、和氣靄々の裡に、要件が纏まるといつたやうな意味で、料亭が社交上大に必要であるといふ事にまで教示せられたのである。
翁を崇むること神の如くであつた氏に取ては、その一言一句が天籟の如くに聞えたので、茲に飜然意を決して、家業を繼ぐことになつたのである。

新銳祐三郎氏の大和屋は、耀かしい榮光を望んでスタートを切つた、かうした事情から、いよ〳〵家業を母から傳へらるゝやうになつたが、併し元來自主獨立の氣風に富んだ祐三郎氏は、假令親子の間柄とはいへ、母のものを無償で受けるといふ事は濟まぬやうな氣持がしたので、氏は四十人の藝妓づきの大和屋を、一定の價格で買取ることゝなり、全部償還する迄の間、法定の利子をも洩なく母に支拂ひ、三年間に皆濟し了つたといふ事柄は、他に類例のない極めて美しい挿話といはねばならぬ。
嘗て松本翁の膝下に在つた時代、日々翁の許へ二三十人の紳士紳商が會見を求めに來た、その時主客間の種々の談話を耳にした氏は、それを馬耳東風とは聞き洩さないで、一々之を自家藥籠中のものとして、常に社會の表裏を考へ、財界の機微を察したる結果、今日まで投機事業に指を染めても、一毫の損失をも招いた事がない。

貨殖の道に明るい氏の頭腦は、德義を尊重する點に於ても、又決して人後に落ちないのである。
曩日、東京大震災の時にも、鐘紡其他の株券が大暴落をした、その時氏は令閨に向ひ、關東地方が、如何に慘憺たる狀態になつたとしても、鐘紡の如きは內情が堅實で、重役も亦お歷々のお揃ひだから、頓て間もなく以前の價格に復するは明な事實である、今ウンと買へば四五十萬圓は確に儲かる自信はあるけれど、人の苦んでゐる時に金儲けするといふやうな、浚義道な事は決して爲ないと、令閨に語つたが、それが間もなく氏の豫想通りになつた、かうした考を持てゐた氏は、更に當時の罹災者に少なからぬ同情の淚を濺いだ、そこで大阪府下遊廓聯合會の取締達と相談の上一二日の間に五萬餘圓の寄附金を集め、夫等の人々と同伴にて府廳へ、その分配方を依頼しに往つた事がある。
それから其の當時、罹災者が續々梅田驛に下車するやうになつて、着せる衣服に不足を告げた時府の係官から一夜の中に單物五百枚の義捐を依頼された、氏は早速之を引受けて平素心安い高島屋の細原重役に依頼し、元價で生地を分けて貰つて、五花街のお茶屋一軒に一枚宛の仕立方を依頼した所が、常々針を持たぬ女將さんや藝妓達が震災に遑慮して休んでゐたが、元來この人達に假令一枚の仕立賃を十圓二十圓出すといつても、中々手にさへ觸れて呉れないのに、この傷ましい同胞の災禍に對し、同情の淚があつたればこそ、お互に寄合ふて、片袖やおくびを引ツ

つけ合ひ、喜んで仕立てゝ呉れた事は、氏が衷心から感激した所である。噫、世は情、かうした順序で、五百枚の單物が一夜の中に出來上つた翌朝氏は之を府當局へ差出し、係官より非常な褒詞に與つた事もある。
氏は先師松本翁の衣鉢を受けて、財界の消息に通じてゐながらも、多涙多感の人であつた、現在多額納稅者の一人である氏の情操は、又別に信仰の點に於ても遺憾なく發揮された、往年氏が軍隊に在つた頃、秋山將軍の麾下に騎兵として、日露の大戰に參加し深く蒙古の地に入つたが實姉きぬ氏が氏の爲に多幸なれと祈つての優しい心から、金毘羅さんのお守を氏の軍帽の中に潜めて置いた、そして氏はミスチエンコの率ゆる哥薩克騎兵を前にまはし、數度の斥候戰に參加して彈丸雨飛の間を跳驟した、迚も危險な場所を踏んだに拘はらず、身に微傷さへ負はず、無事に凱旋したのは、全く金毘羅さんの御利生だといふので氏は戰後に勳彰と賜金とを給はつたが、その時下賜された金を全部社前に奉納して報賽の禮を盡し、尙ほ閑ある毎に參詣を續け、その後數回に幾萬金を献納して神德を拜してゐる。それから一家の冥福を祈る爲に紀州高野山に巨萬の資を投じて、祖先の碑を建てゝ之を祀り、併せて身後の處置までも執つてゐる、此等を考へても、氏が敬虔の人である事がわかるでないか。
かゝる閱歷を有する祐三郎氏は、その生來の燗眼と、不拔の信念と、卓出せる智能とを以て、常に新しき經營法を案配しつゝ、一般斯業界の麒麟兒として、こゝに愈々獨立の地步を固め得たのである。
『收入以內の生活を守本尊とせよ、收入以外の生活をする輩は注意人物だ』と敎示された恩師松本翁の訓戒を祐三郎氏は經營上處世上唯一の標語として、終生遵奉すべき絕對のものとした。そして翁の肖像を自分の室內に揭揚して、舊恩を忘れざる爲め、朝夕に合掌禮讃するのである。
努力の功は次第に社會の信望を得、從つて氏が案出したる優良藝妓の養成は頗る良好な成績を示すに到つた、併しそれには氏の令閨きみ子氏が經營上のみならず、藝道發達の爲にも、自己山村舞の名取であるその上に、他流の舞踊をも研究し、日夜營々、苦心に苦心を重ねて多數の少女を親ら敎養しつゝ、多大な貢献をなしたる內助の結晶もある。
かうして多くの藝妓が養成されるのであるが、陳列棚に立派な品物が飾つてあつても、買手がなければ眞價が現はれないといふ事實に考へて氏は『本家大和屋』としてお茶屋を開業したが、大阪の紳士連から非常な愛顧を受けて、瞬く中に大阪斯業界の第一位を占むるに到つた、併し養成妓は段々と殖えるばかりだ、隨分立派な家庭からその子女をこの養成所へ托しに來る、そこで益々その捌け口を作らねばならぬ、かうした機會から、氏は本家を姉に讓つて、更に『新大和屋』なるものを新築して、層一層業務の擴張を圖つた、それがまた奇功を奏して『大阪名物』と謳はれ、他府縣の人々よりも愛顧を受け、今では遠く外國の紳士達にもその盛名を喧傳さるゝに到つた。
本家を姉のきぬ氏に委任し、氏自らは『新大和屋』の開拓的經營に邁進したのである、所が不幸にも大正十二年に前記本家大和屋の女將たりしきぬ氏が病歿したので、その妹はる氏が代つて業を繼いだのである、然るに一年半の後數萬の缺損を背負ふて經營難に陷つた、そこで他へ賣却

せうとの話も出たが、敬虔の念深き氏は、母の苦勞して建てた家を他人の手に渡すのは、亡母の靈に對しても恐多い事である、濟まない事であると思ふて、泉下の母に對する追善孝仕の積りで、時價よりも高い四十五萬圓の巨資を投出して、適法に之を買取り、總ての經營は終に全く氏の掌中に歸したのである。

往年自ら無條件で委任した家を、今度は男らしく巨資を投出して買取つたといふ事實は、氏の人格を裏書するものといふばかりでなく、氏が如何に情熱に富んだ多血男子であるかといふ事までが明に證據立てられた、而もそれは肉親に對するのみでなく養成妓に對しても同樣であつた。

卽ち昭和二年七月の事である、家業に對する務を全うして氏の膝下を離れ獨立の婦人として、社會に出た藝妓に對し、氏が池田の所有地一万坪を一人宛て約七十坪の割合で割與するといふ事を聲明した、そして第一回の贈與は間もなく實行された、此等の事柄は氏の崇高なる人格の表現として讃美すべき社會的事實といはねばならぬ、この美しき事實は當時已に新聞紙上で報道されたのであるが、人情紙よりも薄き今日、一服の淸涼劑として、近頃爽快を覺ゆるのである。

氏は以上の如く、經營上の敏腕家であり、情熱の人であり、人格の人であり尙ほ又趣味の人である、種々の藝道の中でも鳴物は望月師匠の名取で松月と稱して氏の得意とする所、嘗て『新大和屋十二集』といふ舞踊を立案して上演せしめたが、それが非常な好評で、その妙技は實に斯業界に一大センセーションを惹起せしめた、之に自信を得たる氏は、やがて演劇の將來に就ても新生面を開かんとの意氣、誠に沖天の勢である。

斯の如く多樣に力を伸し得る氏は、業務多端の傍、五花街遊廓の副取締として、多年貢獻する所あり、その間藝娼妓及び貨座敷に對する紛雜なる諸問題を解決すること夥しく、尙ほ藝妓の修養に關する冊子數千部を私財を賭して購入し、それを藝妓やお茶屋へ悉く頒ち與へ、その他廓內の事に就て少なからぬ私財を惜氣もなく出してゐる。

そして藝術の方面ではその熱心の極絢爭を持つた事もない氏が、別項寫眞にある通り、南地芦邊踊の仕組の舞臺面などを丹念に畫いたり、舞踊に關するあらゆる圖書を集めて常に研究してゐるなど、奇特の行少なからず、此他南地一流藝妓の技藝を向上せしめる爲め、氏自ら會長となつて南枝會なるものを起し、已に十數回を重ねて好事家の耳目を聳動せしめつゝある外に氏は演舞場の理事に任じ更に一步を進めて、最近に勉強會なるものを新設し、南地貳千の藝妓をして自由に技藝を練磨せしめ居れるが、是亦頗る好成績にして、會合日淺きにも拘はらず、着々として技藝は洗鍊せられつゝあり。

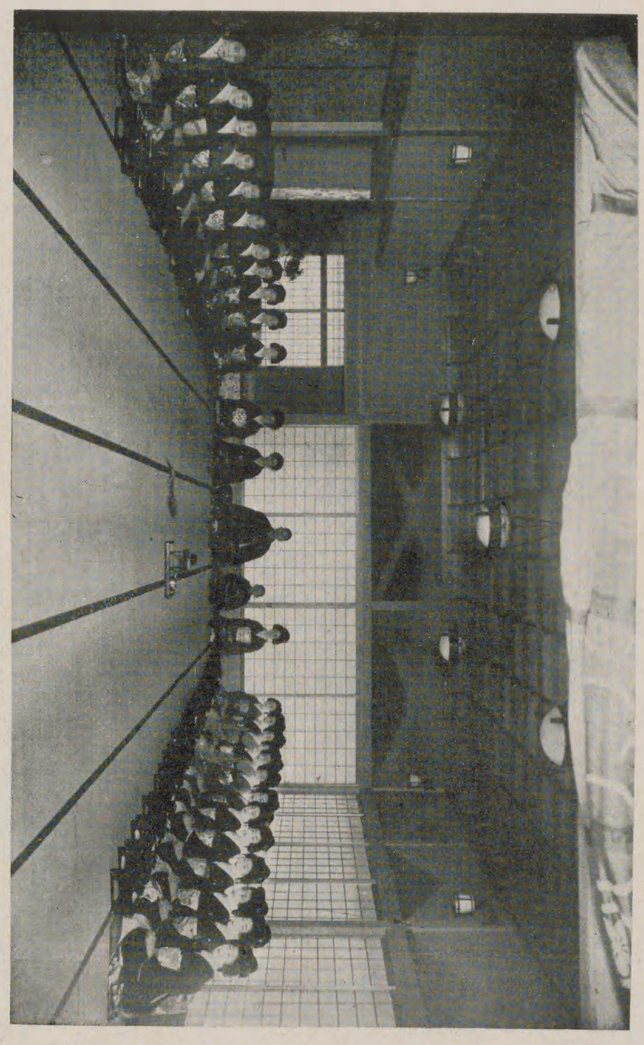
以上陳べたる如く、氏の行藏は何れも皆男性的にして、その潑剌たる所實に天馬空を行くもの、懦夫をして愧死せしむるに足るではないか。『大阪名物』としての大和屋は、斯の如くにして浪花の誇りであり、尙又グレート大阪文化の華である。

（完）

新大和屋女將　阪口きみ氏

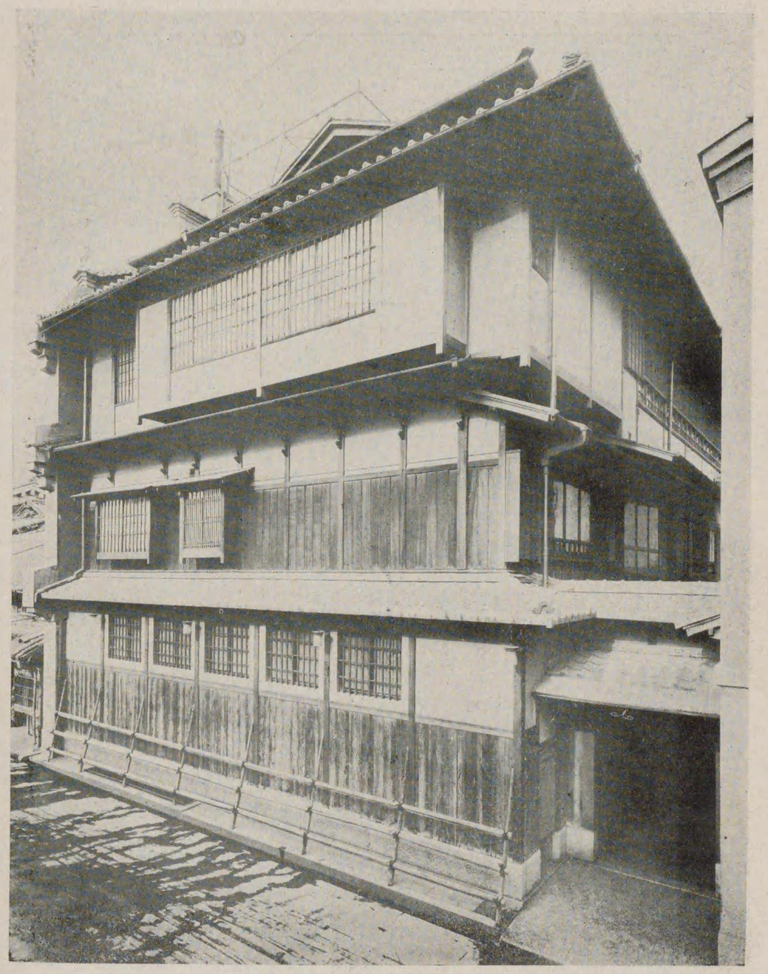
大和屋女將　阪口ゆき氏

大和屋藝妓養成所出身者にして分家したる數十名に對し祖先石碑供養の
紀念としての分割贈與地府下池田町所在同氏所有一萬坪の內に於ける
養成妓慰安蜜柑狩（年中行事の一）

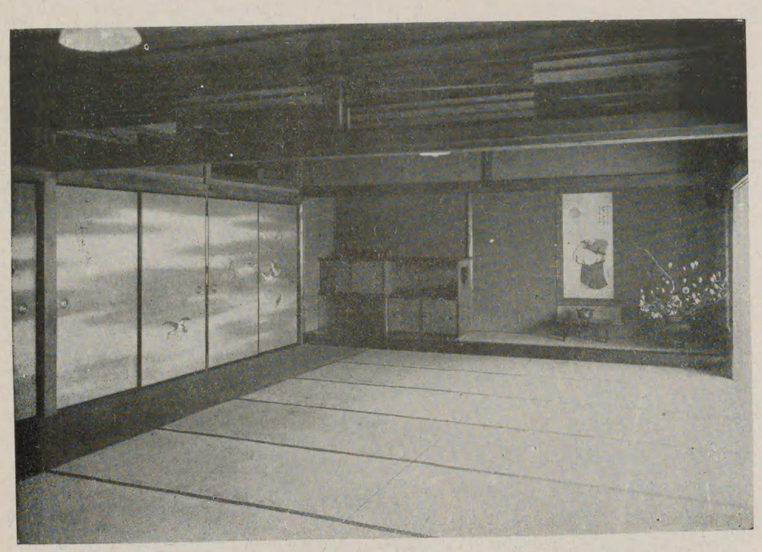


儀祝御の旦元るけ於に間廣大屋和大（一の事行中年）

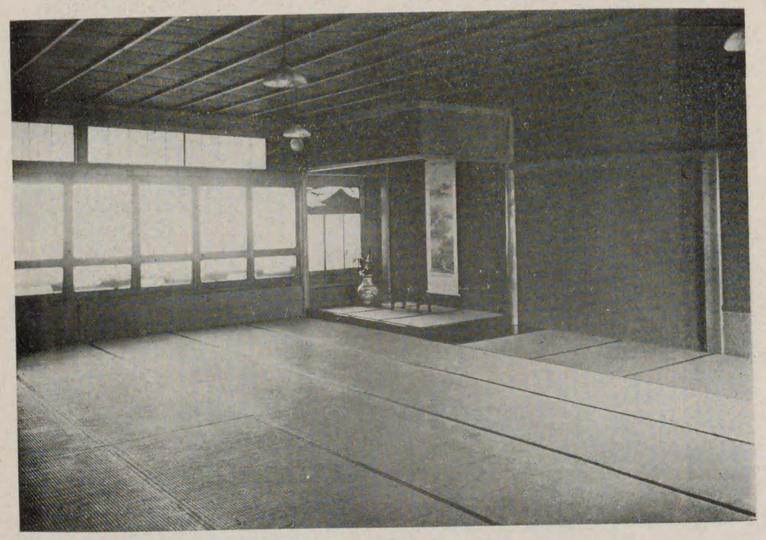
景雪の園楓松屋和大（一の底名阪大）



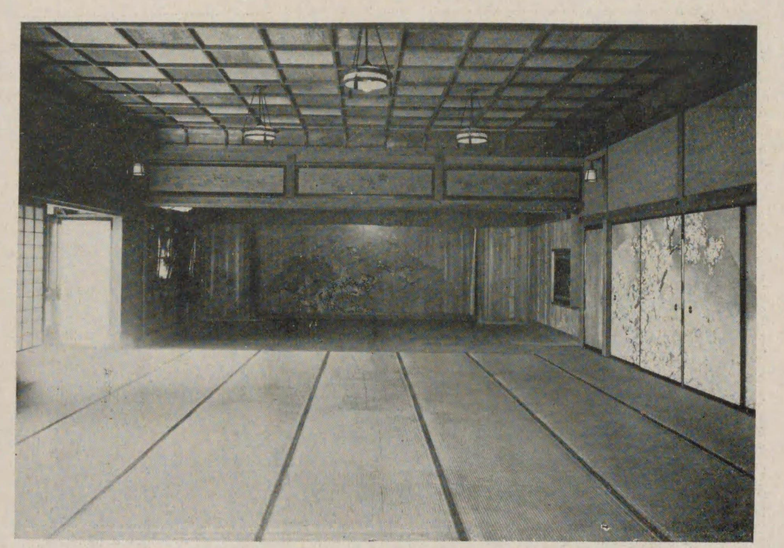
新大和屋外觀（大阪名物）



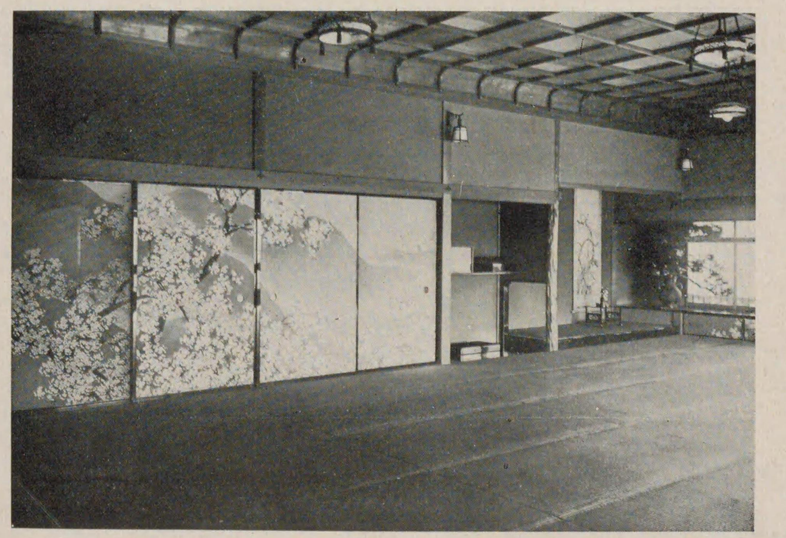
大和屋大座敷（掛軸は舊主松本杢藏氏より開業祝として贈與されたる吳春筆の逸品）



大和屋新座敷



新大和屋大座敷　櫻の間　本舞臺

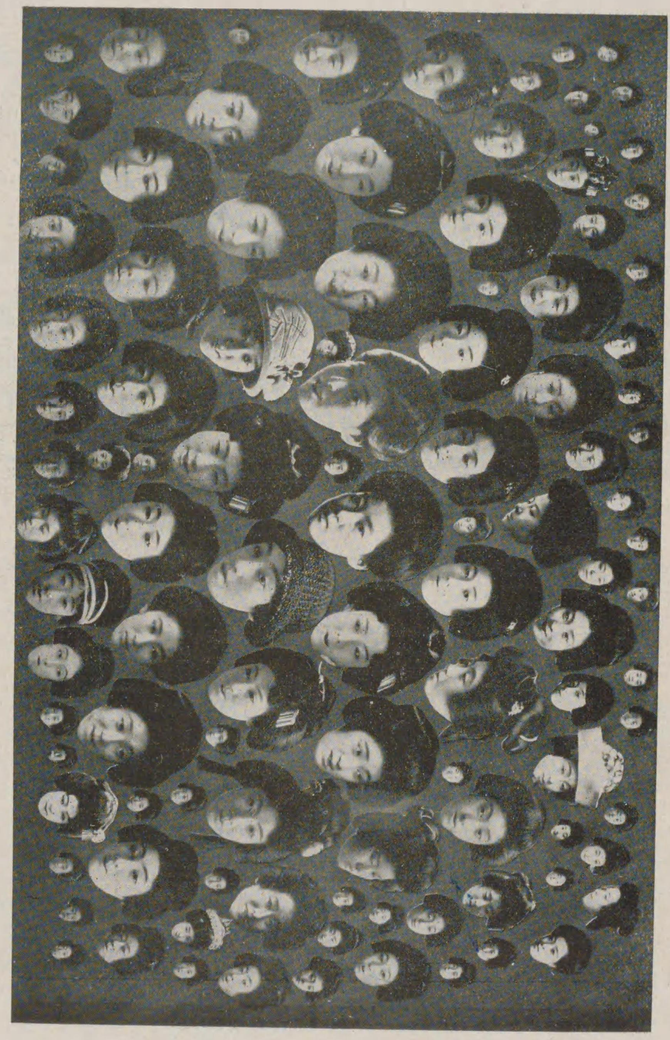


新大和屋　同上　雲嶺筆　吉野山之圖

大和屋年中行事の一

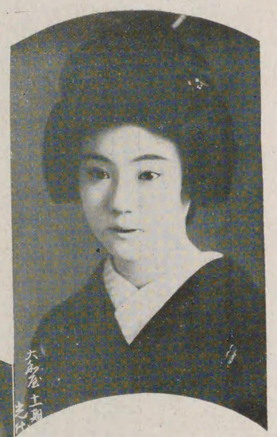
お鏡餅据の儀式

毎年十二月十三日の事始めに當り大和屋藝妓養成所出身者にして分家したる者必ず來りお鏡餅を据ゑ舊主に對する繁昌を祝ふ儀式。



ひ集の花名的表代るけ於に阪大大

邊門の旦元屋和大



?

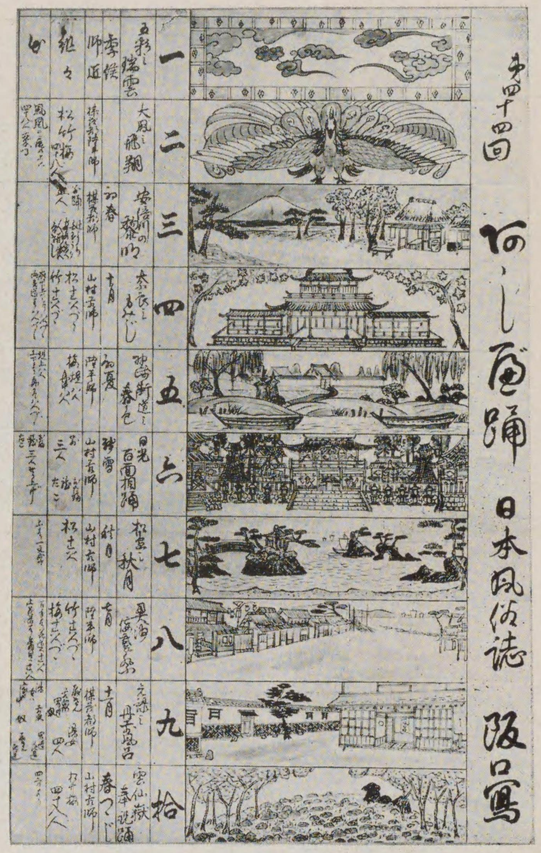
?

勢獅子　（大和屋小女連）

新日報社十五週年紀念四遊廓代表的出演番組中大好評を
博したる大和屋小女連の越後獅子　（一枝・笑龜）

先年大分市に開催された博覽會に就ては、その生れ出る迄に少なからずイザコザがあつた。……不景氣……政黨の反對……等々……その爲め前大阪在任中親交のあつた當時の高官が非常に苦しんで居られると言ふのを聞いた當大和屋主夫妻持ち前の任俠何んぞ默して居らるべきや、妻女自ら陣頭に立ち軍船紅丸に娘子軍一團を率ひ同地に渡り不景氣の暗雲を拂ひ拔け見事博覽會の大盛況を見たのは獨り大和屋の誇りのみならず大大阪斯界の誇りとする所である。

——船出の勇姿ひ——



大大阪五花街の年中行事最も多衆の囑望の的となつて居る南地あしべ踊の今年の成功に就ては同演舞場理事阪口祐三郎氏の功績を特筆大書せねばならぬ、氏は氏獨特の「熱心は成功の基」の信念に基いて諸事を處し而かも必ず効果を納めて居る。——家業にも然り投機にも然りである。

そは信念に依つて同演舞場理事就任以來其の經營に就ては寢食を忘れ日夜熱誠實に目覺ましきものばかりである。その一例を擧ぐれば今年のあしべ踊の計劃に當ては氏自ら各踊の背景は勿論衣裳、歌曲にいたる迄創造を遂けたる點等實に本職をして顏色無からしめたのである。右圖は即ち氏の筆に成れる原圖である。尙他例を擧ぐれば同踊、特、壹等觀覽者に贈呈せる菓子皿など可成廉價にして良品を得ると言ふ點よりして自費を投じ名古屋に到り竈元に就き親しく皿類を物色して選定し仲買の手をはぶき直接購入せる等氏が如何に確固たる信念に基き事業に熱誠なるかを窺ふに足る僅々の例に過ぎざるものである。斯くして昨年缺損を見たる南地あしべ踊も今年の決算に依れば一萬數千圓の利益を得たると聞く。

大大阪の名物として氏の統率せる大和屋の名を屈指させたるは至當と謂はねばならぬ。

大和屋藝妓養成所鳴物稽古場

(一) 禮儀を正しくして何事をも叮嚀ふするのは女としてのほんとのねうちでありますから常におとなしく、やさしき心がけを以て居ると云ふことを忘れてはなりませぬ。

(二) 此芦邊の稽古中によく勉強すればめだつて上達して試驗の折に餘程手助けになりますから稽古を待つて居る間に無駄に時間を過さぬよう人の稽古を見聞きして覺えるのが一番後に立ちます。

(三) 試驗委員として、試驗の折、ひかたがたの試驗を見るより此稽古中に見る方が實力がよく判りますから參考としてそれぞれ帳面に控へて居られます注意なさい。

(四) 自分の稽古に遲ると云ふ樣な不心得な人はたの迷惑になりますから將來演舞場に出てもらぬ樣になるのも知れませぬ故遲れぬ樣なさい。

(五) お稽古の往復、電車、自働車には注意なさい。

南演舞場理事　阪口祐三郎

上版は阪口氏よりあしべ踊出演藝妓一同に配付せし注意書

三人片輪（大和屋小女連）

節分のお化け（太夫は よし・まつ・喜代）

鼻取り角力（大和屋十二集の五）

大和屋名物　どせうすくひ

雪子　　次んは　　んたぼ

東京名優福助丈へ篤ぎるく　久子夫人
（元大和屋　五期生　梅彌）

大和屋　は ん 次

大和屋　秀　菊

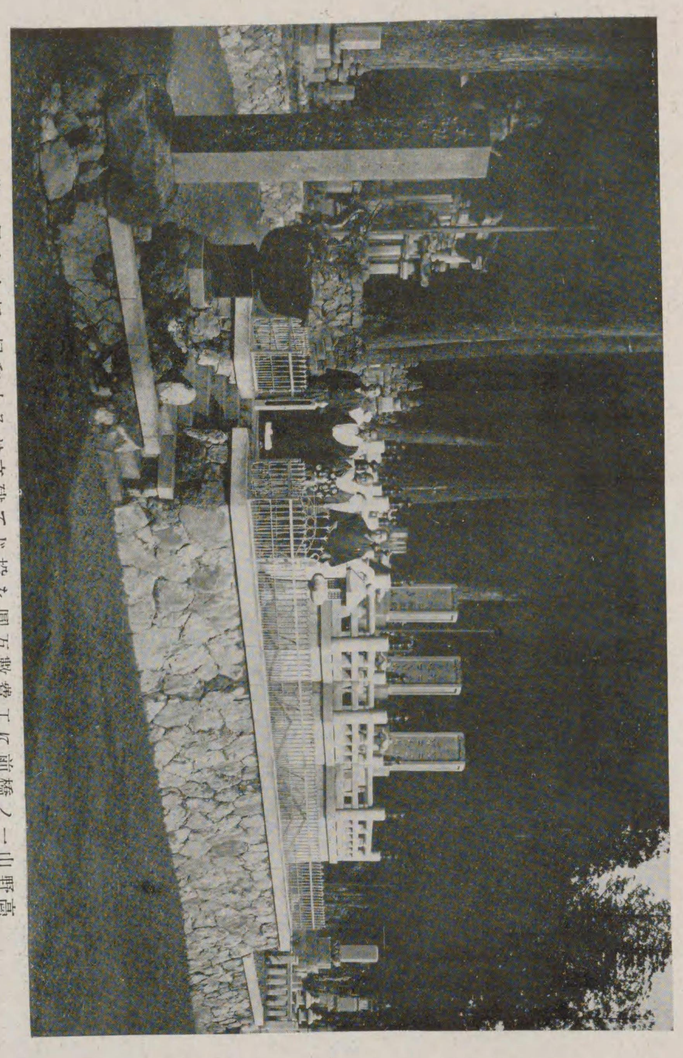
（菊秀）姫垣重八

千代千屋和大

千花屋和大

童話劇　星の世界　（大和屋小女連）

童話劇　雀の孝心　（大和屋小女連）



高野山一の橋前に工費數万圓を投じて建立せる大和屋の墓
（りなのもるたし爲を養供に裡の嚴崇てし招を名十五百五個の山一野高はて就に養供碑石當）

「心中天綱島」

紙屋治兵衛は舅五左衛門の爲に少からぬ金子を融通したが、わざと茶屋酒に浸つて自ら消費した樣に見せかけた、そのうちに曾根崎新地紀の國屋小春といふ遊女と馴染を重ね今宵も揚屋の河庄で江戸屋太兵衛と身請の張合、小春は死ぬほど惚れた紙治樣だが其の兄の粉屋孫右衛門や女房のおさんに泣いて賴まれ、涙を呑んで治兵衛に愛想づかし、治兵衛は腹を立てゝ歸る、小春は一人で死ぬ氣であた、紙治の宅では女房おさんは、炬燵を溫めて待つてゐた、死ぬほど思ひつめた男と切れるといふ小春の心底を思ひやると、おさんは自分の義理が濟まなくなり、衣類身のまわりのものを入質しても小春を家に入れ自分は子守なりとして三人仲良く暮したいと言ふ、治兵衛も女房の貞節に泣き、小春の實意も見えて今は板挾みである、所へ戀敵の太兵衛が小判を鼻にかけるのが癪にさわりついに刀物三昧に及んで人殺しの罪を犯してしまふ、縄目の生き恥をさらすよりはと、丁度死出の旅路の暇乞にきた小春と手に手を取つて大長寺を指して死にゝ行く。

「近江源氏先陣館」

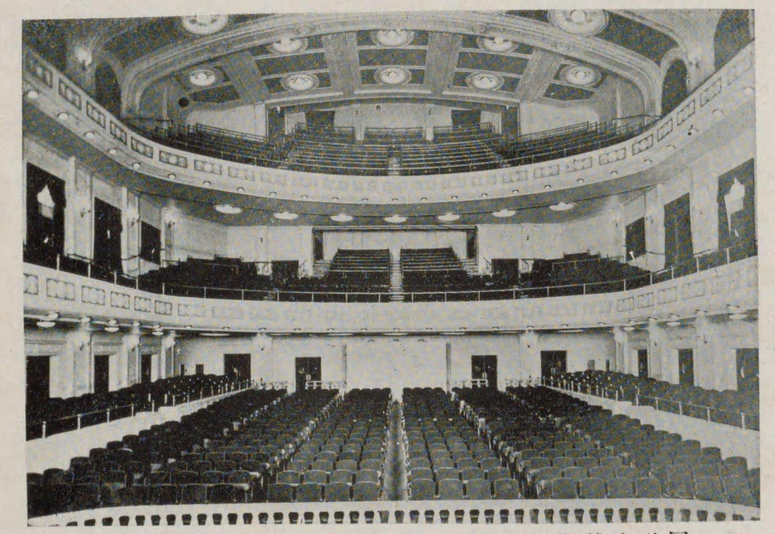
佐々木盛綱は鎌倉方、弟の高綱は坂本方と兄弟は敵味方に分れた、石山の合戰に初陣の功名を爭つて高綱の一子小四郎は盛綱の子小三郎の爲に生け捕られて盛綱の陣所にひかれる。坂本方の敗戰で高綱は討死との噂、首は時政公の御前で兄盛綱に眞僞の實驗に供されるが、だが高綱の一子小四郎が母かざり火と牒し合せて、誠らしく首に取ついて切腹する、あまりのいたはしさにひかれて盛綱は時政公を欺いて高綱の首に相違ないと言ひ切る、君を欺いた盛綱は切腹を覺悟したが、和田兵衛に止められ、最後には實朝と賴家が目出度和睦する。

「土屋主稅」

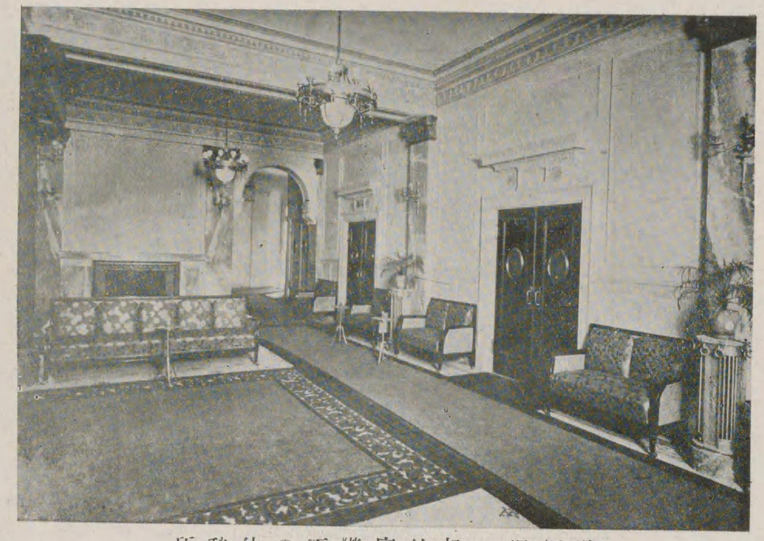
向島の寶井其角の家に大高源吾が討入の前日暇乞ひに來て西國の大名に仕官するといふ、そして其角の「年の瀨や水の流と人の身は」の發句に「あした待たるゝその寶船」とつけた、一座の者は源吾の二君に仕へるのを罵しつた、其角は其夜松坂町の土屋主稅邸に招かれて行つた時その話をした、土屋は膝を打つて感心した。すぐ隣家の吉良邸からは夜陰を破つて物凄い劒戟の音が聞える、四十七士の討入は遂にこの夜決行されたのであつた。

大阪市南區久左衛門町八番地
松竹合名會社
電話南一二四〇・六六八五

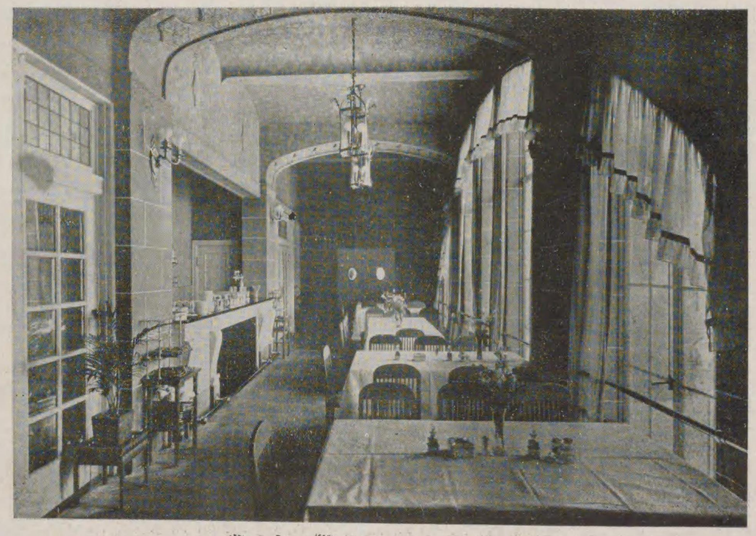
社長　白井松次郎氏



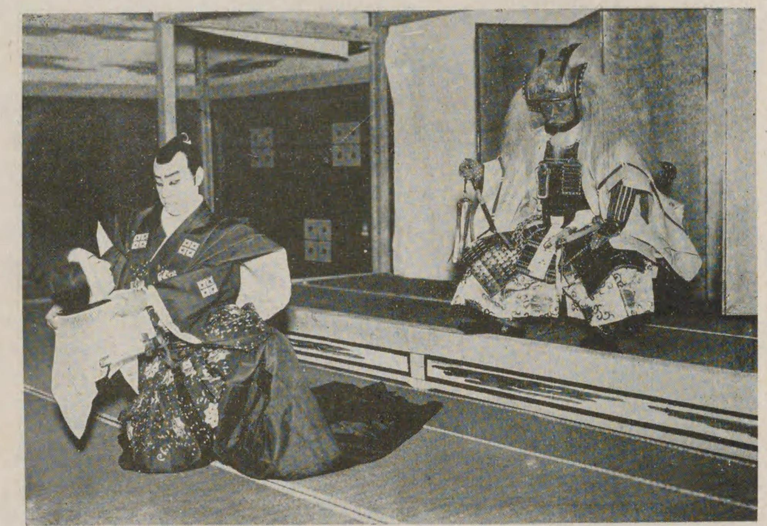
同社直營關西に於ける模範的活動常設館松竹座
（舞臺より客席を望む）



所憩休の下階座竹松・堀頓道

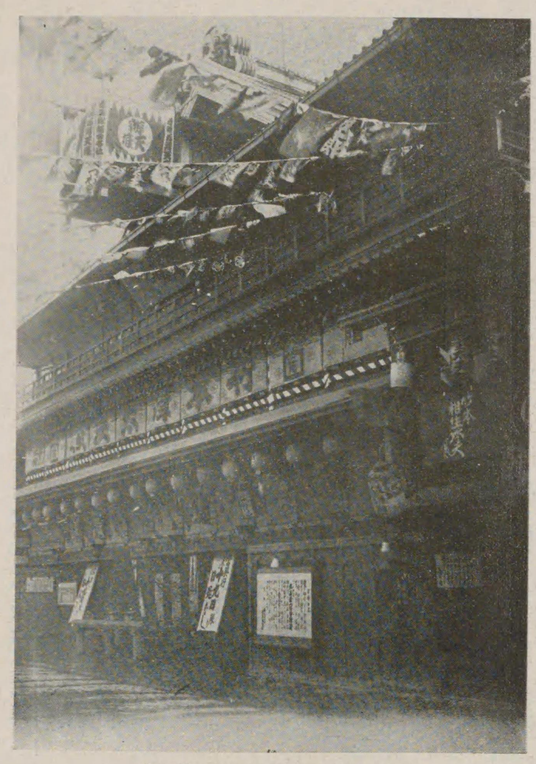


堂食階二　　上同



「館陣先氏源江近」（丈郎三卯上尾故政時條北・丈郎治鴈村中綱盛木々佐）

「税　主　屋　土」（丈助福村中のそお女侍・丈郎治鴈税主屋土）



道頓堀　辨天座外觀

「心中天網島」（紙屋治兵衛中村鴈治郎丈）

「金色夜叉」（間貫一梅島昇氏・お宮花柳章太郎氏）

「修善寺物語」（源の頼家片岡我童氏）

吉田奈良丸師と其事績

浪界の俠兒吉田奈良丸もまた浪速の土地に育まれた寵兒である。奈良丸といへば如何な山間僻地の人々にも、古代大和民族を象徴する民衆的な藝風と、あの朗らかな肉聲の音律を連想せしむるに十分なのである。

明治の末、大正の初めにかけての浪花節全盛時代には、西に奈良丸、東に雲右衛門、東西の二雄互に覇を唱へて國民の愛國的熱情と感激の血潮を湧かしめたものである。

しかるに日露戰役の印象、戰爭に對する國民的興奮も次第に薄れて、平和の夢に墜せんとする折柄、かねてその間隙を狙つてゐた西洋の感覺的音樂が猛烈な勢で流行して來た。器樂、聲樂、演劇皆從來の面目を塗りかへねばならぬ時代が來たのである。古い傳統の藝風に立つ浪速節の打撃は云ふまでもないことである。

嗚呼我が吉田奈良丸こと廣橋一功氏の劃時的公憤の季が來た。氏の人格と、藝術と、俠氣は熱して一大雄圖を創造し、奮然として大使命の自覺に立つたのである。同友雲右衛門逝いて孤軍奮闘、落ち行く國粹藝術の保存振興に苦闘する氏の功績は實に涙ぐましき立志傳であらねばなるまい。

去れば茲に同氏の健闘を祝福する意味に於て、氏の閲歴及び現在の動靜を紹介することは大大阪の矜持として、蓋し當然のことゝ云はねばならぬ。

氏は十七才の時、先代吉田奈良丸の門下に入つたのであるが、師の慧眼に忽ち非凡の才を認められ吉田小奈良と名乘つてその藝道に精進したが次第に不世出の藝風を發揮して師も古を危くに至つたといふ。氏が二代目吉田奈良丸を襲名したのは二十三才のときで、襲名と同時に小奈良の名を實妹に讓つたといふことである。

かくて奈良丸の名聲は國内は無論のこと、朝鮮滿洲の天地にまで朗々と普く、而かも人心の機微をうつて國民的興奮の持續に努め、大いに國粹藝術の名をなしたのである。

既に近隣に冠絶した氏は、洋を遠く隔てゝ英米の地に到り、獨特の藝道を持つて祖國の爲め大いに氣を吐き、米國民などは熱狂的な喜びをもつて迎へたといふことで、當時氏は時の大統領ウイルソン氏に接見して日本刀一振りを贈つたのであるが、ウイルソン氏もま

吉田奈良丸師・故弘田士・公爵徳川圀順・故男爵阪谷芳郎（以上右より）　記念撮影紀念碑幷千水

た大いに氏の風格を多とし貴重な逸品を贈つて氏の健全を祝福したと云ふことである。

しかしながら時代の大勢は如何ともしがたい、洋風の新らしき感覺藝術や映畫の勢いは強い魅力を以て民衆の感興を唆り、可惜ら國粋藝術の誇りをもつ浪花節も次第に民衆の影を失ふやうになつた。かくてはいかに奈良丸非凡の天稟ありと雖もこの大勢を支へることは出來ない。茲に蛟龍は一先づその翼を收めて三冬に蟄することゝなり、やがて來たらむ一陽來復の春を待つことゝなつたのである。

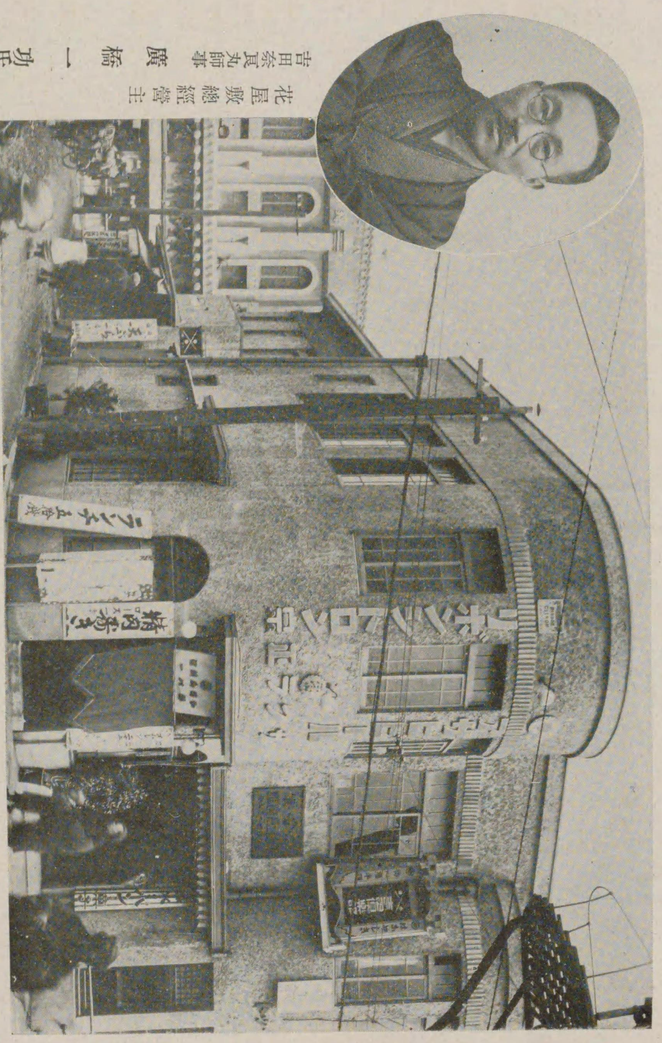
氏はまた一面企業に對しての興味深きが故にこの機會に際會してその鬱勃たる事業熱が擡頭して來るのも止むなきことである。即ち北大阪の觀樂場を現出せんとの企圖のもとに、大正三年の夏、スミレ館、小櫻館、大和座の三館を建設し、附屬遊園地には電氣應用の瀑布や動物魚類草木を配して一日の清遊に備へる如く設備し、この三館共通の入場料僅々七錢にて一般民衆に供したのである。この計畫は更らに進んで新世界や千日前に比肩する一大歡樂境を成す目的であつたが、遺憾ながら地域の關係意の如くならず、終に今日の花屋敷マーケツト、錦座等に變遷したものである。其外氏の手に成されたものでは、東京の南明座、神戸の大正座、京都の祇園倶樂部、三笠館、其他寄席數箇所に及んでゐるが、その實蹟はあまり振はないといふことである。

於此氏は最近大いに自己を内觀して飜然天職の上に新たなる發奮を喚起したのである。即ち這般、奈良春日神社の宮司正二位二條基弘公より「これを身にして大いに人教に盡せよ」と水干を贈與せられた、これは浪速節の緣起が藤原中納言澄憲卿より出でたるに因んだもので、宛かも相撲道の九條家より横綱を授與さるゝと同樣に、昭和三春の維新を卜し、制服拜受を機會に、國粋藝術の進出をもつて國民風敎に精神作興に、大いに晩年の天職を全うせんことを自覺したのである。

その第一歩として氏は兵庫縣武庫郡住吉村八甲田に浪花節學校を建設した。それに就て氏は謙讓して語る。

「甚だ僭越ですが、元祿時代には荻生徂徠、新井白石先生等は巧に斯道（浪速節の先驅たる澁氏節等）を利用して民衆敎化に資したとの一說もありますから私は國粋藝術の保存といふばかりでなく、日本固有の道德の廢頽を防ぎ、古來の良風國民的精神を作興する思想宣傳を徹底的に完成する意味で、從來の浪速節の如く單に聽衆の興味本位とせず、民衆の思想的動向を研究して、最も適切な專門知識を修得せしむるためにこの學校を設けたのであります」。

氏の心中に再燃した、この發奮に對して我々は萬腔の敬意と期待を惜まぬであらう。



花屋敷總經營主　吉田奈良丸師事　廣橋一功氏

座錦及敷屋花トツケーマ的範模るけ於に阪大北

帝國キネマ演藝株式會社

本社　大阪市南區鹽町四丁目
電話船場一七四二・二五一六・二八二八・三六三九

社長　山川吉太郎氏

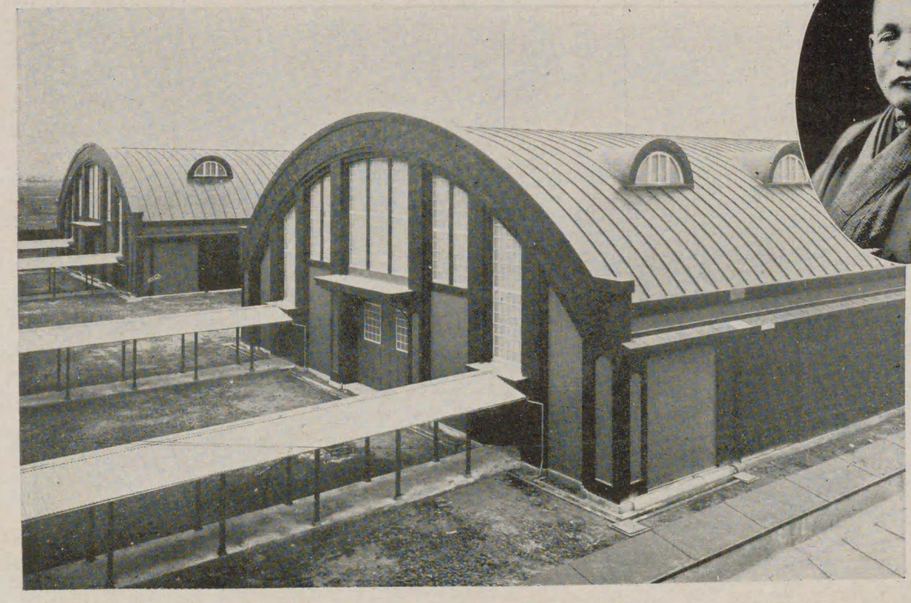
帝キネ　長瀨撮影所（建築中）

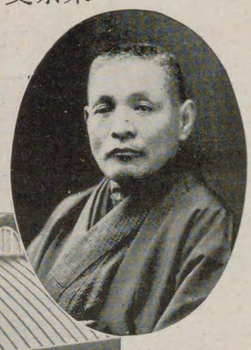
東京支店

東京市下谷區車坂町
（電話下谷一〇四七・二三〇九）

九州出張所

門司市幸町八丁目
（電話一四二六）





同社重役撮影所主
石井虎松氏

同撮影所の一部

日本名物

クラブ化粧品各種

純良無鉛
生地まで白く美しくなる

クラブ煉白粉
クラブ固煉白粉
クラブ水白粉
クラブ粉白粉
クラブはき白粉
クラブ打粉白粉
クラブ紙白粉
クラブ白粉錠
クラブ天瓜粉
クラブタルカン
クラブ新水白粉

素顔の美を増す

クラブ洗粉
クラブ美身クリーム
クラブバニシングクリーム
クラブコールドクリーム
クラブ乳液化粧水
クラブ美身ゼリー
クラブ美身化粧水
グラブビシン
カテイフード

齒の爲に最もよい

クラブ粉齒磨
クラブ煉齒磨
クラブ水齒磨
クラブ齒ブラシ
カテイ齒ブラシ

香りゆかしき

クラブルブラン香水
クラブキヤラ香水
クラブキニーネ香水
クラブベーラム香水
クラブオードコロン
クラブ洗面香水

お顔のアレない
美しくなる

カテイ石鹼
クラブ石鹼
カテイ石鹼新型
クラブ石鹼新型
太陽堂石鹼

美髪に最も適する

クラブ香油
クラブ良髪香油
クラブブリ、アンチン
クラブ良髪香水
クラブポマード
クラブコスメチック

品質優良なる

クラブホヽ紅
クラブまゆ墨
クラブつぼみ
クラブ口紅
クラブワイス
クラブ爪化粧品
クラブマツセー溶液
クラブシヤムプー

美を養ふ

カテイフード

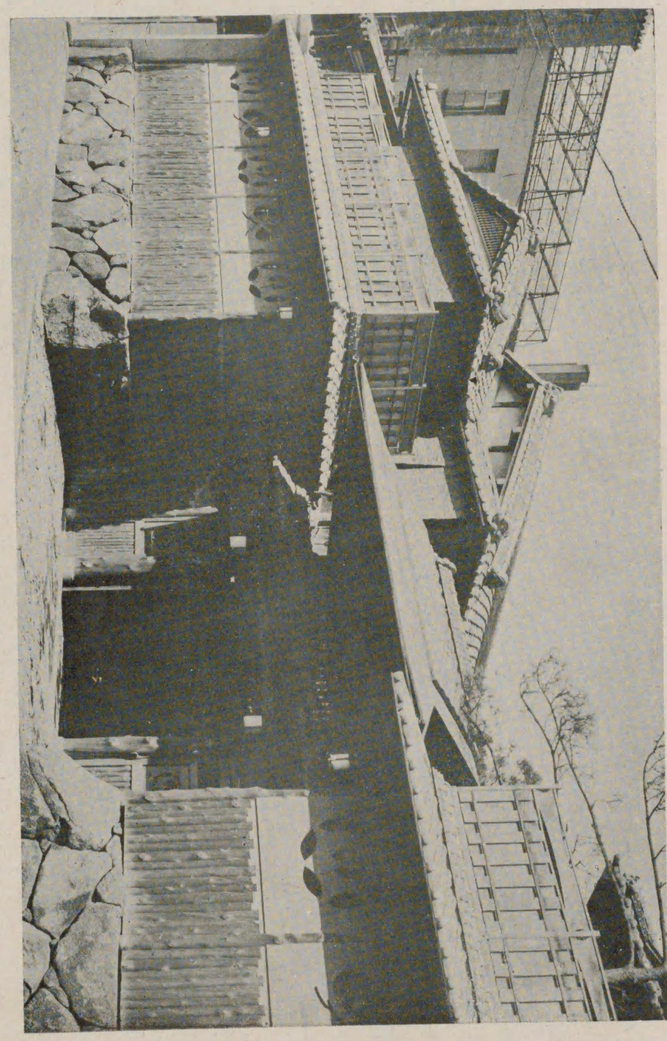
カテイフードは**クラブ**化粧品本店研究部で藥學上衛生學上あらゆる研究を遂げ完成した最新の美身料であります。

本品は皮膚に營養を與へ其衰へを防き使つた後の爽快な艶々した肌觸りと清新にして淡白な化粧美は他に類を見ない逸品で御座います。故にお化粧料とし床しい氣品を高め皮膚を滑かにし艶を増しお化粧を一層よく引立てます又紳士方の鬚剃後の御用品として皮膚を保護し剃負等の憂へもなく日焦止めアレ止めにも卓効のある美身料で殊に目立たぬ美しさを保ちますから女學生方の通學時の御用としても**カテイフード**は最新最良の美身料で御座います。

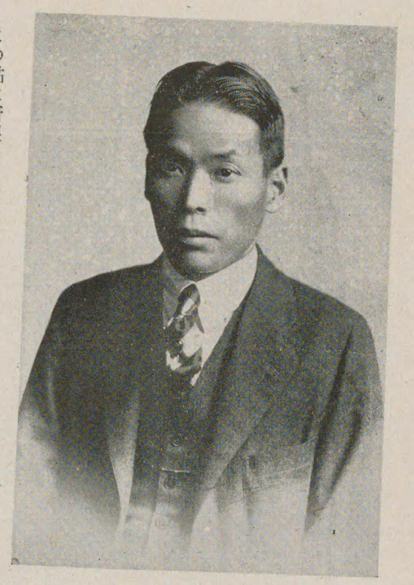
使用上の御注意

一、御使用の際はよく瓶をお振り下さる程きゝめがあります。

一、御つけになる時にはなるべくよくすりこんで下さい。



やるつの濱北威權の界理料るけ於に西關



河合ダンス創始者
河合幸七郎氏

河合ダンス

河合ダンスは近代舞踊界に黎明の警鐘を撞いて傳統的迷夢の覺醒を促した新局面への進出である。

寔に文化灼光の現代に於ける、我國在來の舞踊はあまりにみじめなチヨン髷姿であつた。無論我國在來の舞踊そのものの素質から云へば世界に誇るべき情的表現の藝術である。さればこそその形式美の表出に時代的進出の要求が起るのである。

彼れは西洋舞踊の眞髄を我國民に紹介し、進んで是れが徹底的理解を得せしむるの重大なる使命のもとに、日本固有のそれと各その立脚點を異にして、理想に向はんとするのである。今左に河合幸七郎氏の語るところに依つて氏の意圖を窺つて見よう。

「舞踊が從來のまゝではどうも客の感興に適せぬので、何とか時代に適應した局面轉換の道を考へねばならぬと思ひましたのでありますが、それにはどうしても、民衆的な西洋の舞踊でなくてはならぬと考へつきましたので其實現に向つて、努力しようと決意して爾來その使命に向つて邁進して居ります。

何分今日では何れにしても外人との接觸が多いのですから、その興味に投合するためにも、心要なことゝ思ひます。尚一つは從來の日本舞踊は料金が高いので民衆的でないといふことが、私の不滿な點であります、こうした考へから大正十年十二月今の河合ダンスを創めた次第であります。

しかしやつて見まするとゝ、いろ〳〵不滿な點がありまして、殊にダンサーの肉體に至つては迚も外人のそれと比較にならぬ程劣つてゐるので、この方の向上に非常に苦心を要して居ります、けれ共此の難點の打開は次第に、熟練の埋合せに依つてゞき得るものと信じて居ます。

私は前述の意味から、先頃歐米に於ける斯界の情況を視てきましたので、その着意に依つて、却色したものを今年の秋公開したいと思つてゐます、若し洋行歸りの人々がそれを御覽になつて、その批判を受けるとすれば、結局體格の劣るといふことに歸するのであろうと考へます。そして其の演技に於ては敢へて遜色のないばかりでなく、むしろ腰から上の線の働きは、西洋人のそれと比べてはるかに優れて居る事を自信して居ります、これと反對に日本人は足が短かくて、胴が長く體格として見劣りがあるため、前述の樣に私が想像した批判は避けがたいだろうと思ひます、勿論この體格の改造は一代や二代では出來ぬ問題でありますが、私は技術上の進歩でその欠陷を補つてゆけるだらうと考へてゐます。要するに日本在來の舞踊は藝術的ではあるが非民衆的であり、外國では寧ろその反對であります。私は全民衆的舞踊を指標として猛進したいと念じて居るものであります。

最近の同ダンス

五月十日上海香港銀行神戸支店の招聘によつて同行樓上に河合ダンスを開演せり、時に會堂するもの外人男女二十餘名、樂音徐々と進むに從ひて妙伎至境、滿堂醉へるが如く、拍手と讃嘆の辭降るが如く湧くが如し。

聽がて來客の請はるゝまゝにソシヤールダンスを始めた處增々興に入る、終りしころ、外人觀衆交々氏に對して語る。

「西洋のダンスが日本人に依つてかくも妙伎に達したることは實に意外にて唯々驚嘆の外なし云々」と、此時河合氏が本ダンス創設以來の會心の笑みを浮べしならん、想へば此の苦心努力大に敬するに餘りあり。

卽ち河合ダンスの進歩が、かくまで至妙の域に達したるに係らず、內國人によつてあまり理解されざるは何んたる皮肉ぞや、蓋し、日本人は未だダンスを鑑賞し理解するの明を缺くの證左であると云ふべきである。

榮政子しよ　榮きゆ子きせ子三子千三子三二豐松枝花（りよ右）スンダ合河

河合ダンス

花の如き少女中特に將來に於て大なる期待を囑されつゝある、せき子嬢

菊　駒　　スンダ合河

子菊子し　スンダ合河

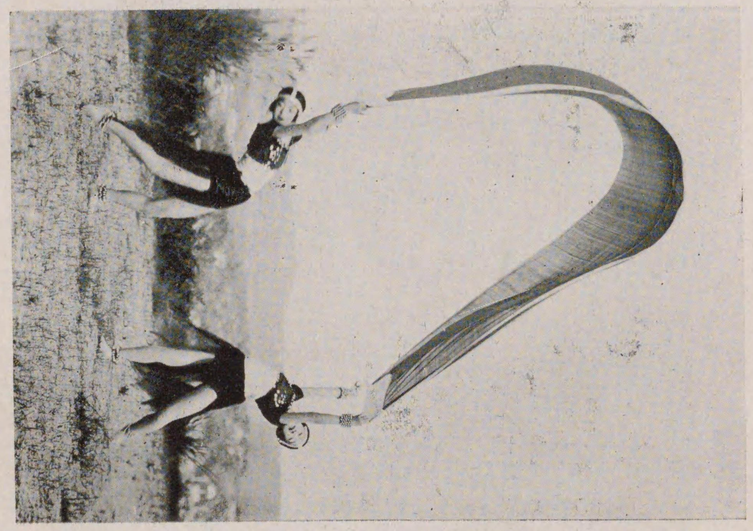
菊駒　鳥白の死瀕　スンダ合河

彌菊　ンホロシ　スンダ合河

子るて イーボ　子君 イーボ　ユシバア スンダ合河

（同上）　ンホロシ　　やさ子

榮きゆ　上　同



榮きゆ　菊駒右　スンダルタンエリオ　スンダ合河

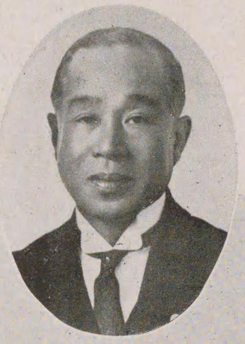
河合ダンス　菊　彌

新興藝術に對する近代人の注目は其等文化の向上に比例して、既に生活に伴ふ一つの條件とまで認めしむる時代となつた。

茲に紹介する河合ダンスは、創始者河合幸七郎氏の熱心なる指導と彼女等の眞面目なる訓練に依り此藝術的使命を全うしたのである、尙孜々として其演技の向上、研究に邁進しつゝある河合ダンスの代表的諸孃を拔萃して紹介する。

日本正義團本部と其主盟

酒井榮藏氏



總本部　大阪市東淀川區豊崎四通一ノ二〇
關東本部　東京市外大井町北濱川一〇三〇
關西本部　大阪市東淀川區豊崎四通一ノ三〇
九州本部　福岡縣八幡市通町五丁目

我團の主義

我團の精神は道德本意とす

酒井榮藏

他を愛せんとせば、先づ以て、自愛を忘るべからず如何に國の爲め、社會の爲め、盡くさんと、口に唱へ或は主義綱領に、正々堂々と書き現はしても、自家の生活に、苦しみつゝある者が、決して他を顧みる、暇あらざるべし。故に我正義團員は、相互に助力の仕合ひを旨とす。助力の仕合ひとは、相倚り、相扶くるの意義にして、我團員の職業は、米商、炭商、呉服商、其他殆ど總ての、職業を網羅し居るが故に、品物を買求めんとする時は、互に他人より、求むるよりも、團員身内より、求むる事となし。譬へば出入先きに、庭の手入に付、仕事あらば身内の植木屋を、又壁の塗替等あらば、左官を紹介して、共に利することに努む。尚遠方に在る者は、大阪より九州或は東京なり、其他何處なるとを問はず、離れし所に、用事ある場合は、各々本部より與へられし、全國團員名簿を繰り、職業住所等、詳細に記載せられあるを以て、それにより、書面にて、依頼又は紹介せんとする時は、必ず自分の名を認めし下に、記章の番號を記入すべし、之れ團員にあらざる者に欺かれ、間違ひの起ることなからしむるが爲めの用意なり。

要するに、恒産なき者は、恒心あらざるを以て、先づ團員をして、恒産を得せしむるを第一の本義とする。

第二は、斯の如く、先づ以て、各々自家の生活に、困らざる樣、基礎を造り置けば、世間にある團體の如き、金錢上に付て、人に不義理をせず、法律に觸るゝが如き、間違ひも出來ざるべし、依て極めて強固なる團體をつくり、而して後ち他愛に移るべし。

他愛とは第一國なり。今や歐洲の戰爭後次第に惡思想の侵入多く、人心日に險惡にしてともすれば過激の行動に出づる不心得者あり又は普選實行の曉如何なる不平の徒に依て、亡國者の出づるを保し難く然る時は何に依て防止せんか唯我正義團あるのみ、畢竟するに義を以て成る正義團なるが故に、上皇室の御心にも副ひ奉るべく、下國民も等しく之を庶護すべし、世間近頃善惡を問はず、只徒らに何々團と稱し、良民に對し强迫の材料に利用するものあり斯る行爲は絶對に之を爲すべからず、是卽ち吾團が正義團と稱する所以なり之を要するに我團の希望は、邦邊に在るやと云へば他なし、此世に善き事を爲して我々末代迄も其名を止め、子孫にまでも其德を遺さんとするにありて、金錢の德は滅することあるも、義の德は永世滅することなし。此目的を達するには第一恒産を得るにあり、其恒産を得るには世間に信用を得て、家業に勉勵するにあり、是れ我正義團の目的を達する上の基礎なりとす。故に我團員たらんと欲せば先づ綱領及細則を熟讀せられたく、苟くも團員に加盟せし上は、斷じて變心を爲さゞる覺悟を要す、世上往々にして何々會員と稱する者、其入會後幾何もならざるに、厭氣を生じ忽ち脫退する者ありと雖も此等は意志の薄弱を示し、到底何事をも成し遂げ得ざることを告白するものなるを以て一旦加盟したる上は、絶對に脫退を爲さざるべく又主盟に於ては、團員に對してに其非行を懇切に說き、尚改めざれば除名の止むなきに至るも、只人の中傷位に動かされ除名するが如きことなかるべし、之れ皆精神の誓ひにして、神前に於て宣誓の盃を取交はす所以なり。

朝日乾電池

創業　明治四十二年

主製品　ラヂオ用、燈火用、通信用、朝日乾電池朝日式燈火用器具及豆電球製作

數量　年産額　ラヂオ用三十五萬個　燈火用　四百萬個　通信用　三十萬個

販路　陸海軍公省、諸官廳、會社、工場、放送局及一般需要家
海外輸出、支那、印度、南洋、カナダ方面

主所賞狀　大阪優良品協會推選品金銀牌其他

關西工場及營業所　大阪市西成區鶴見橋北通八丁目十番地　電話櫻川四五〇五・四五〇六番

關東工場　東京市外池袋一一三〇　電話大塚(86)六六二番

名古屋出張所　名古屋市中區西堺町四丁目八番地

滿洲出張所　奉天江之島町六番地

從業員　五百名

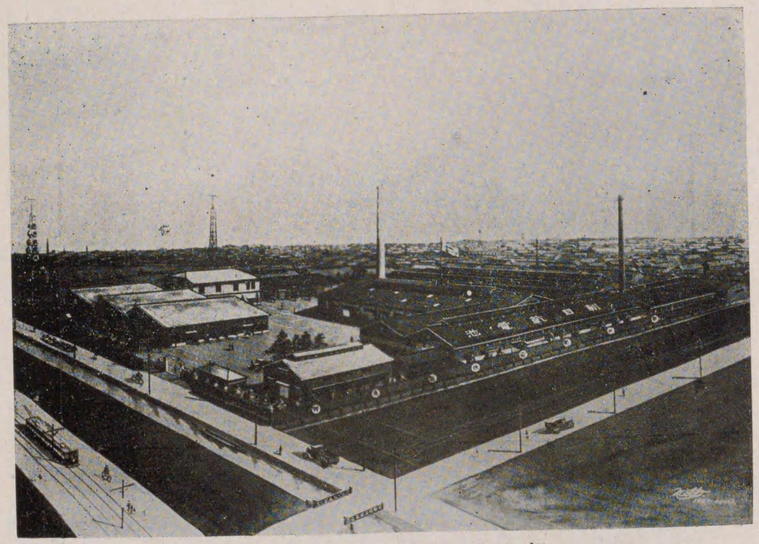
専賣特許　ラヂオ用　通信用　燈火用

携帯電燈
豆電球製作類

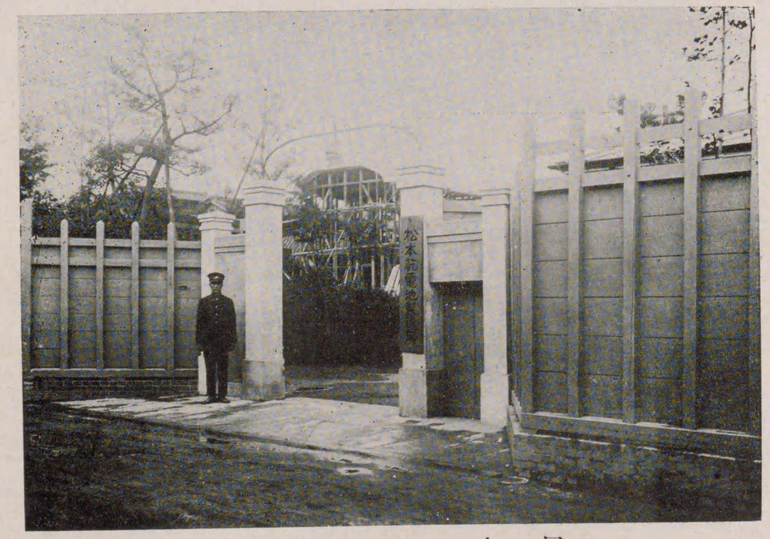
松本乾電池製造所

朝日乾電池小賣部

工場及營業部　大阪市西成區鶴見橋北通八丁目
（大阪市西區あみだ池電停前
大阪市南區戎橋筋難波驛北
東京工場　東京市外池袋
出張所　滿洲奉天



朝日乾電池　工場
（松本乾電池製造所）



同上　正門

同本社全景

本店　大阪市北區堂島濱通二丁目八番地

名古屋支店
東京出張所
上海出張所
商事課姫路出張所
商事課大會根出張所
職工課鹿兒島出張所
職工課新潟出張所
職工課富山出張所
職工課熊本出張所
職工課靜岡出張所
四日市工場
愛知工場
津工場
尾張工場
名古屋工場
津島工場

西成工場
桑名工場
知多工場
王子工場
栗橋工場
三軒家工場
四貫島工場
伏見工場
川之石工場
富田工場
姫路工場
濱松工場
山田工場
上海工場
宮川工場
大會根工場
堅田工場

東洋紡績株式會社概況拔萃

當社は斯界の權威並に先進者と稱せられたる舊三重紡績株式會社と舊大阪紡績株式會社の相互解散合併により大正三年六月新たに東洋紡績株式會社として成立したるものにして一貫せる堅實なる經營振りと確固不動の基礎とに於て嶄然斯界に卓越し現在に於て二十三箇所の大工場と四萬有餘の從業員を有す。

爾來社運の隆盛に伴ひ鋭意事業の擴張を計り優良なる綿糸布の外絹糸及び人造絹糸の製造をも兼ね、内地需用は勿論國外輸出亦最も其力を用ふる所にして今や世界に於ける屈指の大紡績會社たり。

財産總額　壹億壹千八百七拾貳萬圓

資本金　五千百八拾五萬圓

積立金　參千八百六拾五萬圓

社員恩給資金　壹百參拾貳萬六千貳百圓

職工保護資金　參百〇六萬七千七百圓

精紡錘數　七拾七萬五千百四拾八錘

撚糸錘數　拾萬四千九百七拾六錘

絹糸錘數　四萬五百九拾六錘

紬糸錘數　九千貳百四拾錘

織機臺數　壹萬參千七百〇貳臺

產額（一箇年）

綿糸　壹千八百八拾萬貫

綿布　貳億貳千參百五拾四萬碼

絹糸　拾四萬八千貫

紬糸　七萬壹千貫

人絹　壹百萬封度

從業員總數　四萬參千餘人

工場數　五拾七（二十三地方ニ分布）

（大正十五年末調査）

罐詰用の鉄力罐を作る自動製罐機は大正貳年堤清六氏が**セール・フレザー**商會の**エフ、エス、ブーズ**氏及阿部三虎氏と露領**カムサツカ**の鮭罐詰用のために**アメリカン、カン**會社の製罐機を輸入し翌年函館に据付けられたのが初めであります此機械は現日本製罐株式會社の專務取締役菅宮清吉氏が其當時堤商會の技術者として渡米して撰定されたもので其運用は現北海製罐倉庫株式會社の松下高氏が最初から其術に當つて居られました。

東洋製罐株式會社が專門の製罐業者として創立されますに就ても此創立に關係した人々が自動製罐機に就て全々無智識でなかつた爲に會社の成立が出來たのであるが故に若し日本に於ける製罐業の嚆矢は誰であるかと云へば堤清六氏を初め**エフ、エス、ブーズ**氏、阿部三虎氏、菅宮清吉氏、松下高氏の五氏を推すべきものと考へられます。

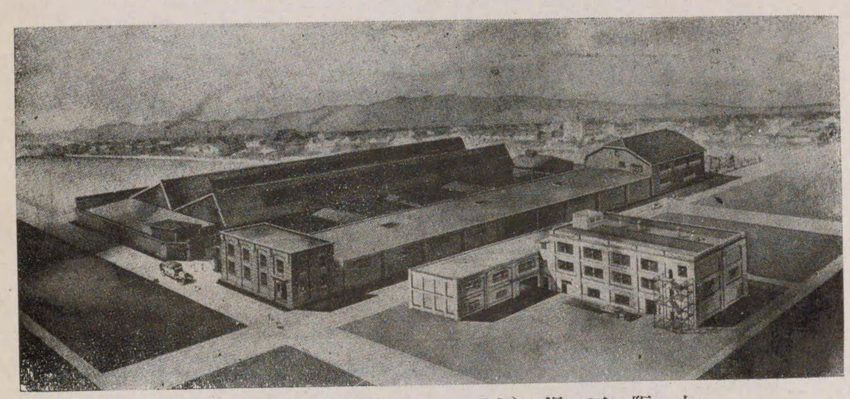
堤氏の製罐工場は大正九年東洋製罐株式會社と合併されたが大正拾年に再び分立して北海製罐倉庫株式會社（資本金百萬圓）が成立され小樽に工場を置き檀野禮助氏を社長とし松下高氏が專務取締役となつて居られます菅宮清吉氏は大正拾四年函館に日本製罐株式會社（資本金五拾萬圓）を創立し和田治五郎氏を社長とし同氏が專務取締役となり主として蟹、鮭の空罐を供給して居ます。

大阪市此花區草開町三〇
東洋製罐株式會社

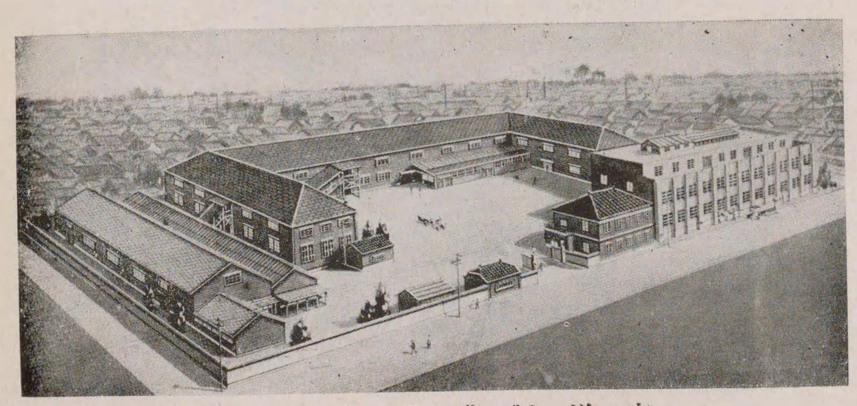
社長　小野耕一氏

相談役　小林一三氏

常務取締役　高崎達之助氏



大阪工場（上）　東京工場（下）



東洋製罐株式會社

吹田工場の全景其一

吹田工場は大阪を距る七哩東海道線吹田驛に沿える交通至便の地に在りて敷地五萬六千坪我社最大の工場にして麥酒釀造所清涼飲料水製造所製瓶所を有せり

此工場は元大阪麥酒會社アサヒビールの工場にして明治二十年の創設に係る其後明治三十九年三社合同と共に大日本麥酒會社吹田工場と改稱せり

同上其二　大日本麥酒株式會社

（寫眞上下共續く）

アサヒビール	札幌・アサヒ黒ビール	ナポリン
サツポロビール	青島ビール	シトロン
エビスビール	ミユンヘンビール	ズラリー
		タンサン

大日本麥酒株式會社沿革

大日本麥酒株式會社は明治三十九年三月二十六日日本麥酒株式會社（ヱビス）札幌麥酒株式會社（サツポロ）大阪麥酒株式會社（アサヒ）の三會社の合同したるものなり。當時我國に於ては前記三會社の外に日本醸造（キリン）日本第一麥酒（カブト）東京麥酒等の諸會社ありて製品供給の過剰を來し販賣競爭激甚なりき、此狀態にして永續せんか、漸やく其緒に著きたる我國麥酒醸造業の前途又寒心に堪へざる狀態を呈せり。此に於てか同志大いに之を憂ひ、相會し交渉を經て終に明治三十九年三會社の合同に決せり。當時資本金五百六拾萬圓なりしも、爾來經濟界の發展と共に益々隆盛に向へり。

明治四十年三月東京麥酒株式會社を買收し保土ケ谷工場と改め、清涼飲料水製造に着手し、明治四十一年七月資本金壹千貳百萬圓に增加せり。

大正五年十月在支那青島英獨麥酒醸造會社を買收し青島工場と改稱し、支那滿鮮方面に於ける販路の擴張に備へり。

次いで大正九年六月資本金を參千八百萬圓となし、同年七月日本硝子工業株式會社を合併し四千萬圓に增資したり。當時歐洲大戰酣にして東洋南洋市場に於ける麥酒の需要は殆ど全部我國に向ひ從つて巨額の輸出を見るに至り、爲めに國内に於ける供給に不足を來し、之に應ずべく九州博多に新工場を設置し大正十年七月より新醸麥酒の賣出を開始せり。

大正十二年九月關東大震災に際し當會社吾妻橋工場は事務所製瓶工場玉冠コルク工場を除くの外大半倒潰せり、本社竝に目黒工場は多少の被害ありたるも輕微なり。以上の損害額を總括して巨額に達したり。工場復興に付ては災後直ちに着手し目黒工場は九月十三日より、吾妻橋工場は十一月十四日より製品作業を開始せり、保土ケ谷工場の清涼飲料水工場は十三年一月十五日より製品作業を開始せり。

更に大正十四年一月名古屋工場を新設し、將來市場の電燈に應ずるため最新式の設備を施し、以て醸造能力の擴張を計れり。

今や我大日本麥酒株式會社は、本社、東京出張所、大阪支店、名古屋支店、札幌支店、九州支店に分割して多岐に亙れる事務を分掌し、その管下に目黒、吾妻橋、吹田、札幌、青島、博多、名古屋の七麥酒醸造場と、保土ケ谷、吹田の二清涼飲料水工場と、尼ケ崎、保土ケ谷、吹田、札幌、博多の五製瓶工場を統べ、我國産業中重要の地位を占むるに至れり。然して我社の理想たる自給自足國産麥酒の面目を確立し、原料機械設備等すべて自國製のものを使用して、年額壹百萬石を醸造し我國醸造高の六割以上を占むるに至れり。

大日本麥酒株式會社主要生産品一覽

同社役員

取締役社長	馬越恭平
常務取締役	植村澄三郎
常務取締役	高杉晋
常務取締役	武内常太郎
常務取締役	橋本卯太郎
常務取締役	高橋龍太郎
常務取締役	薬學博士 馬越幸次郎
取締役	藤田昌
取締役	大倉喜七郎
取締役	内田恒太郎
監査役	大橋新太郎
監査役	宅徳平
監査役	薬學博士 上野金太郎
監査役	仲田慶三郎
監査役	農學博士 矢木久太郎

日本麥酒鑛泉株式會社の沿革

大正拾年初夏の頃財界の巨頭根津嘉一郎氏がその主宰せるカブトビール株式會社と故和田豊治氏が當時相談役であつた三ツ矢サイダー製造者である帝國鑛泉株式會社及びその姉妹會社である日本製壜株式會社との合併を行ひ資本金を九百萬圓として成立したものが日本麥酒鑛泉株式會社であります。

當時日本實業界の兩巨頭が麥酒會社を基礎として提携されたといふ事は誠に興味ある問題として世間の注意を惹きました夫れは此事業そのものが都て化學的基礎と科學的經營の上に立つて居ること及び需要增加の前途洋々たる麥酒界の大勢に鑑みて此事業の將來が有望と認められるゝに至つたからであります。

かくてカブト麥酒會社時代に於ける三十有餘年來の研究は獨乙人技師ハンスダン(Hans Dahn)氏を迎へて以來遂に釀造技術の完成を告げその品質の點に於ては獨乙本國の專門大家より獨乙に於てすら尙稀に見る優良品なりとの定評を與へられ茲に初めて確たる自信を得當社の生ひ立ちが合併によりたるものであるから和合協調延いては共存共榮の意味を表徵してその名を(ユニオン)と冠し大正十一年廣く江湖の需要に應ずることゝなつたのであります。

需要は品質の延長であります當社の自信は愛飮家によりて裏書せられ噴々たるその高評は同種製品中に強固なる地位を獲得し遂に從來の工場規模を以てしては不足を感ずるに至りました。

一方又當社の製品である三ツ矢鑛泉は世人に用ひられてより一千年の歷史を有し本邦に於ける唯一の皇室御料品といふ譯で三ツ矢平野水及サイダーの賣行きも亦倍加するの狀況を呈するに至りましたから新に麥酒飮料水の倍額製產能力を有する新工場を東京市外川口町に新設することゝなりました。

當社の發展は更に東都飮料水界に於て三ツ矢に對峙して業界の双璧と云はれた金線サイダーを買收して茲に淸凉飮料水界に於て壓倒的勢力を形づくるに至りました。

然るに「ユニオン」と三ツ矢飮料水の需要は累進的に激增して新工場の增設能力を以てしても尙不足を告ぐるに至りましたから更に大正十五年に資本金を貳千萬圓に增資し灘五鄕水の聖地である西ノ宮に東京工場と同能力を有する最新式工場を建設することゝなり最近將に竣工せんとして居りますかくして當社は業界の一勢力として認められるゝに至つたのであります。

ユニオンビールの特長

「ユニオン」麥酒は其材料の大部分を國產品に仰いで居ります只「ホップ」だけは獨乙及「チエックスロバキア」等の本場より之を輸入し當社に在職せる獨乙人技師と當社專門技術家とが互に協力し不斷の努力を拂つて製造して居ります、從つてその風味その香氣等は彼地專門家の間に於ても本場もの以上なりとの賞讃を博し本邦在留の歐米人は「ユニオン」を飮用する時に於てのみ國境を超越して故國にあるの思ひあらしむとの讃辭を發し

て居ります。

茲に面白い挿話がありますが夫れは最近當社の販賣店となられた人の實話ですが昨今麥酒の販賣戰は白熱化して參りましたその第一線に立つ販賣店は混沌たる戰況に往々惑亂されて何れの麥酒を賣つてよきや迷路に立つ者が往々あるそうですその方は神戶橫濱等に在住せる外人が如何なる麥酒を尤も愛用するかを探査した結果外人間には主として「ユニオン」が愛用されてゐることを知つて「ユニオン」販賣の腹を決めたといふ事であります。

麥酒の本質と申せば別紙の分析表の通りで之を說明するには專門的に亙りますので省くことに致します。

麥酒としては勿論純眞なる麥酒としてのうま味がなければなりませんが嗜好品たる性質を持つて居る關係上時代嗜好に適せねばなりません處が嗜好は最近世界的に新しきものへと流れて居ります。新しきもの必ずよいとは斷定出來ませんが出鱈目でない限り新しきものは過去の製品と過去の經驗に立脚して生れて居ることは事實であります勿論御試飮の上で御批判を御願ひする次第ですが品質そのものが惡かつたならば如何にも販賣の成績は擧りませんが幸ひ當社製品は賣出以來累進的に賣行數を增加して居りますので時代嗜好に適して居るものとひそかに喜んで居る譯で敢て諸賢に御すゝめする次第であります。

麥酒界の趨勢

序を以て麥酒界の趨勢を述べて見たいと存じます

麥酒の濫觴は今を去る數千年前「エジプト」に於て初めて釀造飮用された事に胚胎致します。

「エジプト」文化は「バビロン」に次いで「ギリシヤ」「ローマ」より「ラテン」を經て近世文化の建設に至る迄その時代の人の嗜好に應じて轉々として進步の跡をたどり遂に今日の麥酒を釀成するに至りました。

その時代その國の亂れたると治まるとを問はず人間生活の必要品として消費公衆を背景とし文化のある處に麥酒あり偉大なる國際商品の一として流轉したのであります。

之を用ひて以て產業振興の一助としたものに北米合衆國がありますが廣大なる沃野に植付けられた小麥は麥酒と化して南北アメリカに分布し遂に世界の市場にも顯はれたことがあります合衆國の曠野が沃野に化したのは麥酒の力も亦與つて居るといふ事を一考する時にそこに無限の興趣が湧くではありませんか。

かつて北米合衆國は麥酒釀造量に於て世界に於ける製產量の半額を占めたのでありますが數年前禁酒令の布かるゝに及んで昔日の盛大を見ることが出來なくなりました然し今尙多量の麥酒が密造され禁酒法は法文の威力を發揮するものなりとの聲高く撤回は時日の問題の樣に見うけられます人間の嗜好を奪ふ事は人間の作つた法律では出來ないのであります。

すなはち現在に於ても合衆國人は尙且つ麥酒を飮用して居ります其他歐洲各國に於ては地味風土風俗習慣の異なるによつて多少の相違はありますが平均一人一ケ年四斗乃至一石三斗を飮用して居ります我國に於ては一人當り約一升でありますから今後尙數十倍の增加を來す可きことは誠に

明白なる推算だと信じます。

一方に於て需要は日々に増加し製造は合理化組織化されたる科學的基礎の下に益々進歩發達し文化人のある處如何なる僻遠の地にも麥酒を見ざることなく文化人の高尚なる嗜好的飲料の一つとして前途洋々たるものであると信ずると共に之れに適應し之れに先驅して優秀高雅なる麥酒を製造販賣するのは吾等當業者の本質的責務なることを痛感して努力して居る次第であります。

分析表

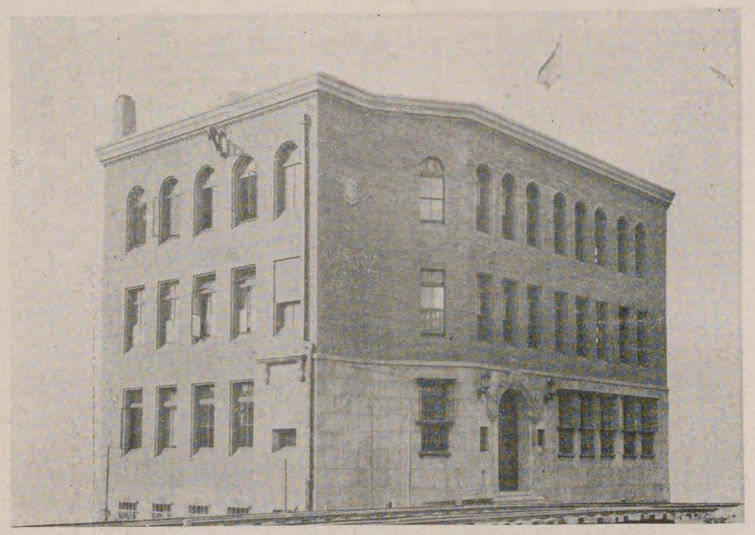
	ユニオン	アサヒ	キリン	サクラ	サツポロ	獨乙ビルゼナ
比重	1.0100	1.0105	1.0121	1.0106	1.0138	1.0116
眞正エキス%	4.25	4.40	4.45	3.25	5.12	4.69
酒精	3.95	3.70	3.30	4.20	3.33	3.65
麥芽汁濃度	11.91	11.59	11.13	11.87	11.59	11.93
眞正醱酵度	64.01	62.04	60.20	68.40	55.82	61.20
糖分%	1.54	1.38	1.85	1.20	1.61	3.96
糊精%	2.01	2.14	2.34	2.17	2.21	3.96
酸%	0.12	0.17	0.20	0.22	0.237	0.106
蛋白質%	0.42	0.51	0.56	0.51	0.42	0.38
壓力ボンド 攝氏	25/15	25/18.5	20/18	22/15	20/20	

備考

麥酒は釀造の都度分析に多少の變化は免れません大體の標準にはなると思ひます。

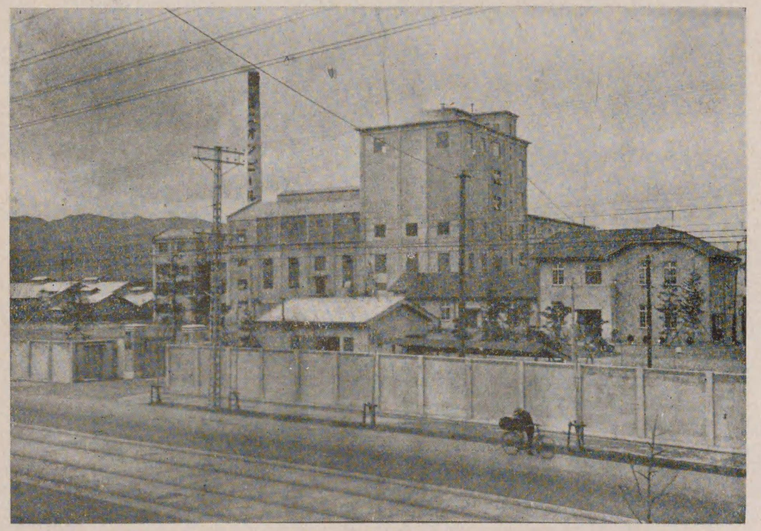
同社製産品一覧

取締役社長　根津嘉一郎
常務取締役　龜田寅吉
同　山本爲三郎
取締役　中埜良吉
同　中根虎四郎
同　濱口錄之助
同　山本久三郎
同　上遠野富之助
同　稻畑勝太郎
同　太田清藏
同　近藤直一
同　篠本鼎
同　根津寅吉
同　吉田傳吉
同　中田重勇
監査役　村上定
同　宮島清次郎
同　木村平右衛門
同　高田正一

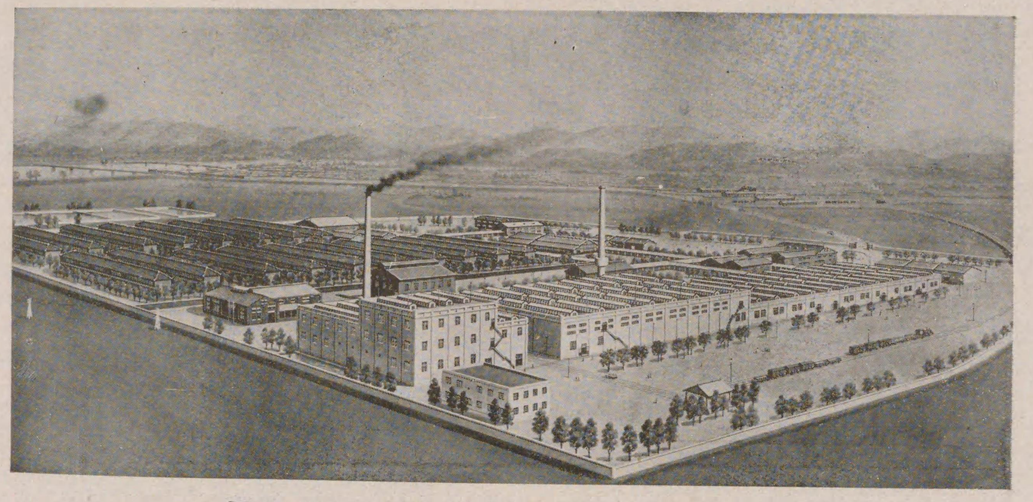


日本麥酒鑛泉株式會社大阪支店

(西區立賣堀北通一丁目)

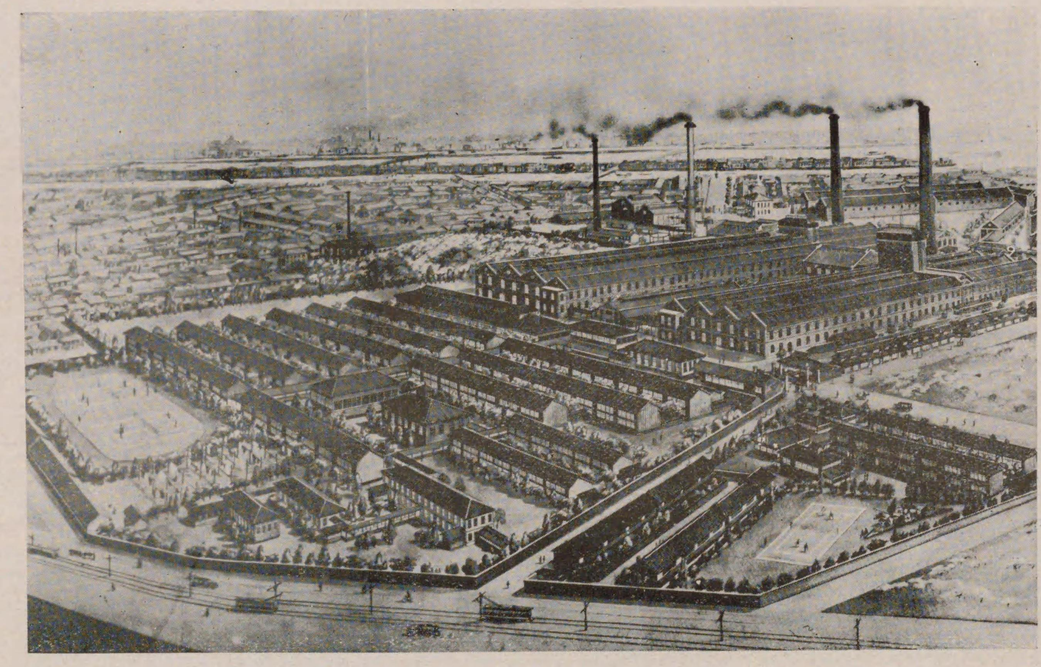


同社　西宮工場



日本レーヨン株式會社宇治工場全景

（大阪市東區備後町三丁目　社本）



大日本紡績株式會社福島工場

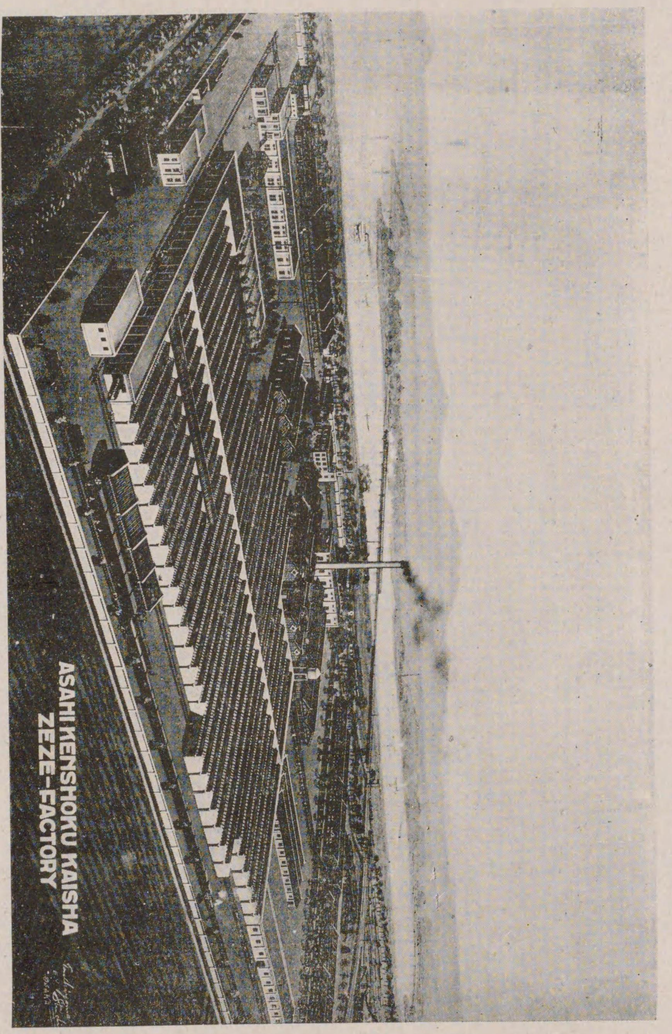
（大阪市東區備後町三丁目　社本）

旭絹織株式會社の沿革拔萃

旭絹織株式會社は大正十一年五月二十五日の設立に係る。

當時現在の社長喜多又藏氏は當社の前身とも稱し得可き旭人造絹糸株式會社の社長として斯業の前途に對し大いに畫策す所あり。同社の取締役上畠五一郎氏は海外にありて人造絹糸に關する研究調査の歩を進めつゝありき時を同うして現在の專務取締役野口遵氏亦歐洲にあり夙に人造絹糸業の好望なるに着目し我國に於て一會社設立の意圖を藏しつゝありき。然りと雖前途ある新工業に對し二社併立して相角逐するが如きは徒らに國家經濟上の損耗を招くのみ。卽兩者の企圖は機を得て一致結合し一新會社組織の運びには到れり。かくして生れたるものを旭絹織株式會社となす。

抑旭人造絹糸株式會社は大正八年八月廿五日の創立に係り之が企畫は現旭絹織株式會社の常務取締役田村順吉氏が大正六年以來人造絹糸工業に關する諸般の事情を調査研究しつゝありしに基き大正七年八月、伊藤長兵衛、下鄕傳平、北川與平諸氏の協贊を得て當時大阪高等工業學校應用化學科長にして同校教授たりし工學士朝比奈晃十氏に之が試驗製造の研究を依囑し其結果に從ひて旭人造絹糸株式會社の設立を見たるものなり。然るに當時は未だ人造絹糸に對する一般消費者の理解薄きと而して又同工業に特殊なる技術上の困難との爲所期の製品を得る事難く、得ると雖生產費嵩みて消化意の如く行はれず加之大正九年の財界恐慌により當時商工業者が一樣に襲はれたる經營上の困難は同社も亦免る能はざる所となりて製造を一時中止するの止むなきに立到れり。喜多又藏氏は當時の社長伊藤長兵衛氏に代りて社長となり歐洲に於ける斯業の新知識を流入して局面打開の畫策に腐心しつゝありし時茲に野口氏との提携一致を得て同社は一旦解散し新たに旭絹織株式會社の設立を見る事となれり。



(所膳) 場工社會式株織絹旭

(目丁二通南堀戸江區西市阪大) 社本

福助足袋株式會社

の前身辻本福松商店は明治十六年壹月堺市甲斐町東壹丁に創業致しました。當時堺市は畿内における物貨集散の中心市場として殷盛を極め、主産物は清酒、河内木綿等は其名を弘く知られて居りましたが、同じ主産物の堺足袋は非常の衰頽に陷つて居ました。當店は其挽回策につき研究を重ね、品質改善に着手致しましたが、當時の足袋といへば紐付でありまして頗る不體裁な至つて不便なもので、偶々甲馳付の足袋がありましても、縫付方法が拙劣で數多き缺點を持つて居りましたので、考究の末鎧の仕立方から材料を得、甲馳に被せ縫ひを施し、堺㊙改良足袋として弘く販賣するに至り聊か面目を施しました。此の縫付法は現今一般に行はれる甲馳卷縫の方法でありまして、當店が此の方法を發見實行する迄は他に一も此の種の製造を見る事が出來なかつたのでありました。當時我國には特許法登錄法等の制定がありませんでしたので、之れが保護を受ける途なく、遂に全國同業者皆此の方法を執り、一般の製造方法となるに至つたものであります。

明治二十二年の頃、堺足袋の基礎を固むるため當店主は卒先して、同業組合を組織し、相提携して研究を續け、一方組合員の製作する足袋は皆「堺足袋」の名稱の下に販路を弘め聲價挽回に勉めましたが、其の効果著しく意外の進歩を見るに至りました。

偶々明治二十七年に從來の足袋の手工業に機械を應用し得るならば、必ず生産能率を高め得る可能性ある事に着想致しまして、最初先付作業に或る機構を加へた獨逸製ミシンを應用しましたが、故障頻發して一時は其の効果が疑はれた位でありました。然し二十八年にも最も完全な縫機の特許權を受けまして、漸次豫期の能率を高め得る事を得ましたので、三十三年㊙堺足袋と改稱し「手縫に優る機械縫の足袋」を標語として販路を擴めました。三十四年に至り始めて工場を甲斐町東壹丁に新設し從來幾分を家庭工業として居りましたものを悉く此處に集めましたが、製産の增大するにつれ次第に工場の狹隘を告げ、熊野町東三丁、大町西壹丁を經て、三十八年宿院町西壹丁に移り縫機の動力運轉を初め、愈工費低下、品質向上の實を擧げるに至りました。

四十三年には既に當店の素志を實現するの域に達し、新案特許權四件を加へ在來品の遠く及ばざる斯界の絶品として群を拔く有樣となりましたが、此秋にあたり、店主辻本福松は不幸業央にして歿しましたので、幾三(大正九年歿)、豊三郎(現社長)兄弟はその後を繼承し戮力事に當り、尙前途に横はる當店初期の眞目的を達すべく邁進しました。

大正四年市之町西貳丁に小學校跡を買入れ、工場を此處に移し、翌年合名會社に組織を改めてより、事業は着々として進展しました。

光榮錄

明治天皇御買上	二回
今上陛下御嘉納	大正三年
今上陛下御買上	大正八年
皇后陛下御嘉納	大正十一年
皇后陛下御使御差遣	大正十三年
皇后陛下御買上	大正十三年
皇太子殿下御嘉納	大正六年
攝政宮殿下御嘉納	大正十四年
英國皇太子殿下台覽	大正十一年
秩父宮殿下台臨	大正十二年
久邇宮殿下台臨	大正十四年
伏見、華頂、梨本、朝香各宮家御用命數回	
宮內省御買上拾數回	
紺綬章御下賜(社長辻本豊三郎)	大正十一年
大阪府ヨリ表彰(同)	大正十一年
綠綬褒章御下賜(同)	大正十三年

八年十月百五拾萬圓(全額拂込)の株式組織に改め安井町に現在の工場建設に着手致しました。越えて九年三月百萬圓を增資して貳百五拾萬圓となり十四年七月更に貳百五拾萬圓を增資して五百萬圓と致しました、而して「能率增進並に優良品期成工場」の認定を受け、科學的管理法を徹底的に遂行する爲、拾壹年能率課を新設し能率技師をしてその施設に遺憾なきを期して居ります。總ての規模及び縫機の數に於ては裁縫工場として世界一の稱があります。

製品種目

福助絹足袋	家庭黑繻子足袋
福助黑繻子足袋	家庭紺繻子足袋
福助紺繻子足袋	家庭白キヤラコ足袋
福助白繻子足袋	家庭ベツチン足袋
福助紺キヤラコ足袋	家庭白眞岡足袋
福助白キヤラコ足袋	家庭紺メク足袋
福助紺メク足袋	萬歲黑繻子足袋
福助白眞岡足袋	萬歲紺繻子足袋
福助ベツチン足袋	萬歲白キヤラコ足袋
絹綾福助足袋	萬歲白眞岡足袋
福助アンダー足袋	萬歲ベツチン足袋

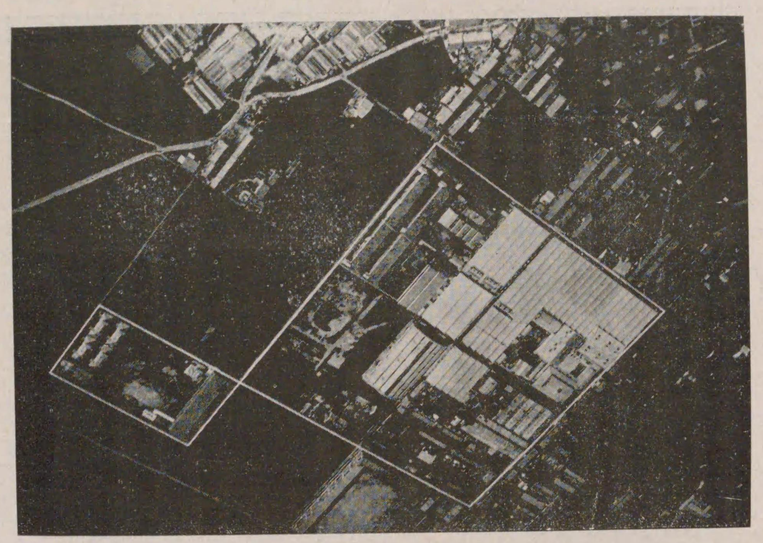
觀外所務事

大阪府堺市安井町

福助足袋株式會社

敷地面積　一万六千五百餘坪
建坪數　九千百四坪七合
總延坪數　一万五十七坪四合五勺五、

社員　六百八十人
男工　參百拾人
女工　參千人
小店員　參百人
合計　四千參百六拾人



飛行機から見た工場全景

工場施設

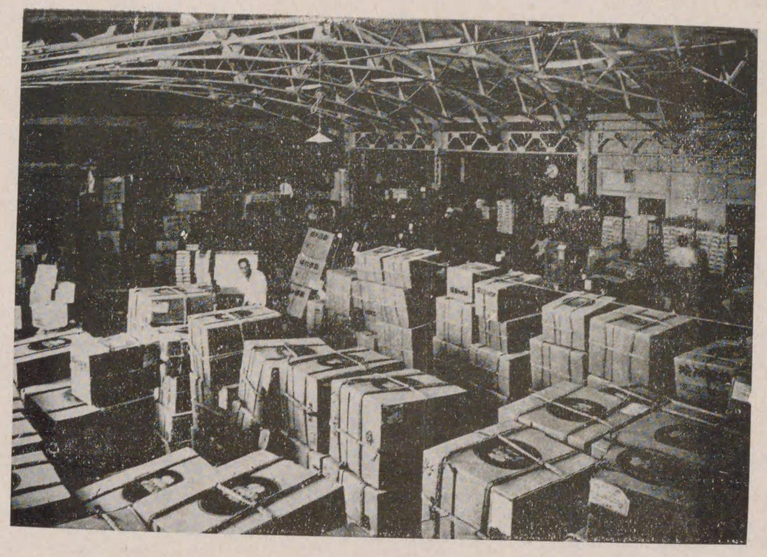
能率增進を目的とする科學的工場管理

産業能率增進に關しては數年前から着手し著しい效果を治めつゝありますが、勢力的、工學的、事務的、心的、生理的の五方面の能率增進につき充分の研究を續け、目下之を實行しつゝあります。又工場管理上貴重なる諸統計表を多數作りました。

△機械器具の改善　足袋製造工業は我國特有の産業ですから外國の樣式を模倣することが出來ません。私共の會社では他に先んじて手工業から足踏へ、足踏から動力掛へと着々改善の方法を講じまして傍ら能率を高めることに多大の苦心を拂つて居ります。唯今では縫方や機械に類のない特許を多く持つてゐますが、外國製ミシンで高率なものがあれば直ぐに其れを採用することにしてゐます。

此の外、裁斷機、生地の仕上整理機械、染色機械、紡織機械、漂白機械、紙函製造機械及び雜機械器具に至るまで夫々專門技術者に依つて研究をつづけて居ります。

△機械器具の配置　裁縫ミシン機械の配置は特に注意し、モーター及び傳導裝置は總て床下に据付くるか又は「ギヤーカツプリング」に依りて危險を防いでゐます。すべて機械の配置は再整乾燥場におきましても裁縫工場におきましても悉く工程の順序に配列して運搬の便を圖つてあります。特に裁縫工場内では壹足の足袋を仕上げるのに數拾回の工程を經るものですから之に應じて機械を配置してあります。其の外原動力は皆電働機を用ひまして各機械毎に又は各列の機械に直結し齒車減速裝置、ベルト掛け等の方法を採用し安全裝置其他採光の障碍、音響の發生等の事のない樣に特別の注意を拂つて居ります。



生産能力

壹箇年生産能力　八千萬足
現今ノ年産高　五千萬足

原料使用高（壹箇年）

綿布　貳百七拾萬六千五百四拾壹反
即（巾壹尺、長壹億五千〇六拾萬參千百貳拾尺）
縫糸　全長　貳拾八億壹千四百貳拾貳萬四千呎
甲馳　合計　貳億九千萬枚

製品に對する特許權

專賣特許　第四二七七〇號　（爪先縫付法ノ改善）
專賣特許公告　第六〇一九號　（先付縫着機械）
專賣特許　第六三五三〇號　（毛足袋ノ製造）
實用新案　第四八七一一號　（受糸ノ押ヘ方ノ新案）
同　第七二七三二號　（アンダー足袋ノ製造）
新案特許　第九〇一二六號　（丸形襞縫裝置機械）
同　第九〇一二七號　（セルロイド甲馳）
特許出願中　（受糸ノ自働押ヘ裝置）
實用新案出願中　（毛足袋ノ製造）
同　（先付ミシンノ裝置考案）
同　（地下足袋製造ノ方法）
同　（先付機械停止裝置）

縫工場（ミシン機臺二千五百臺　從業員約三千人　寫眞は第一縫工場内部）
寫眞は三個共一室内の續けるものなるも掲載の都合上切斷せしものなり

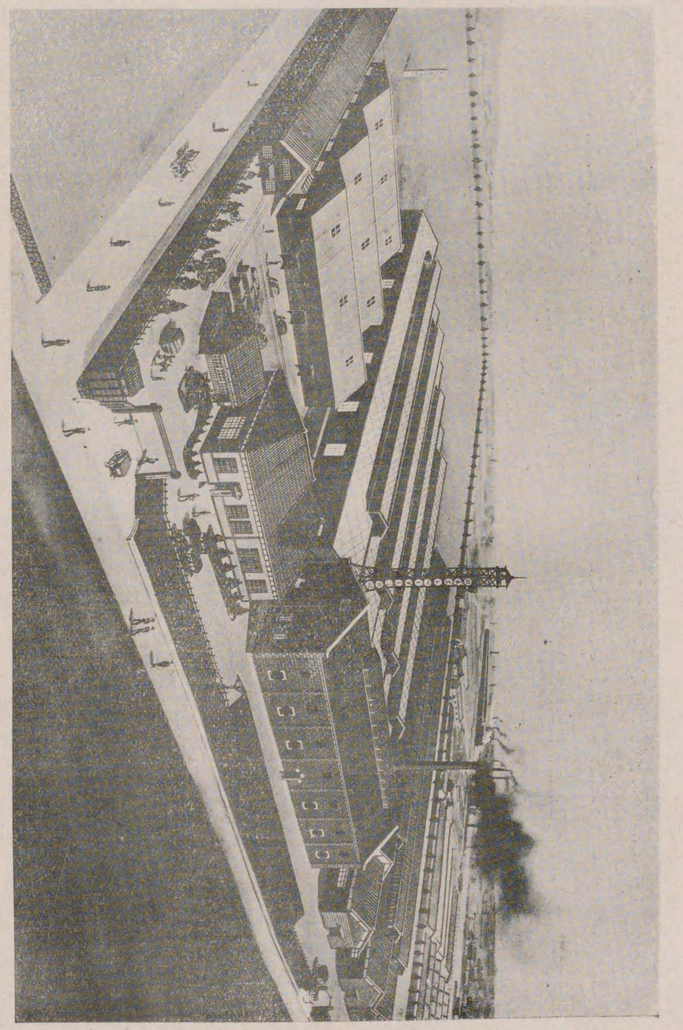
日本エレベーター製造株式會社

本　社　大阪市東區中道川西町五六一　電東（三三六七／三八〇五／五六四二）
東京支店　東京驛前丸ノ内ビルディング四階　電丸ノ内二三（三七〇三／三七〇四）
第一工場　本社所在地ニ同ジ
第二工場　大阪市東成區中道町七二三　電南四二六三
神崎工場　東海道線神崎驛北側　電話架設中
　　兵庫縣川邊郡小田村潮江

從業員　三百名

一營業科目　各種エレベーター、各種コンベヤー、ケーブルカー、エスカレーター、ホイツプホイスト、其他一般輸送諸機械の設計製作

同社は大正八年四月工學博士片岡安、東松孝時、谷民藏、立川勇次郎、久保田權四郎の諸氏に依り創立せられ曾てエレベーター製作を專業とせる東松工作所を買收繼承したるものであつて爾來大學、專門學校卒業生より多數選擇採用し研究部を設け着々改善を加へ現在の如き優秀品を製作するに至つた京都帝國大學の講師である工學博士堀寛太郎氏は專務取締役として大正十一年入社以來熱心研究部を指導し且つ設計製作兩方面を監督して居る而してエレベーター、コンベヤー、ケーブルカー等の主要部分には專賣特許二十四件を取得し就中ワイヤー切斷落下保安裝置、各種ブレーキ保安裝置の如きは斯界の賞讃を博して居る更に主要材料には特種合金を採用し一々嚴重なる試驗を行ひ優良製品の供給に腐心しつゝあるを以て今や一般に同社製品の眞價を認識せられ宮內省、鐵道省、海軍省、遞信省、大藏省、其他官公衙又は民間銀行會社等著名の大建築物には既に壹千數百臺を納入し殊に昨年來某省に艦船用として八十馬力以上百二十馬力「ケージ」の大さ百疊敷以上のもの數臺を納入しつゝある斯の如く立體的運輸交通の機關として一分時の不慮停止なく而も落下等の危險を絶對に招致せず圓滑に使命を全ふしつゝあるは確に同社の誇りとするに足るものである製品の納入先は東京大阪は勿論內地一般に亘り次で滿鮮臺灣にも供給する等同社の目的とせる「エレベーター」の國產自給の素志は貫徹せられ船來品を凌駕すると云ふよりは寧ろ之に優れる良品を製作し國產振興輸入防遏の實績を擧ぐるに至りたるは眞に國家の爲め同慶に堪へざる次第である因に工學博士片岡安氏は同社創立以來社長として統率の任に方て居る。



場工社會式株造製ーターベレエ本日

旭硝子株式會社沿革

一、創　立　明治四十年九月八日尼崎市に創立

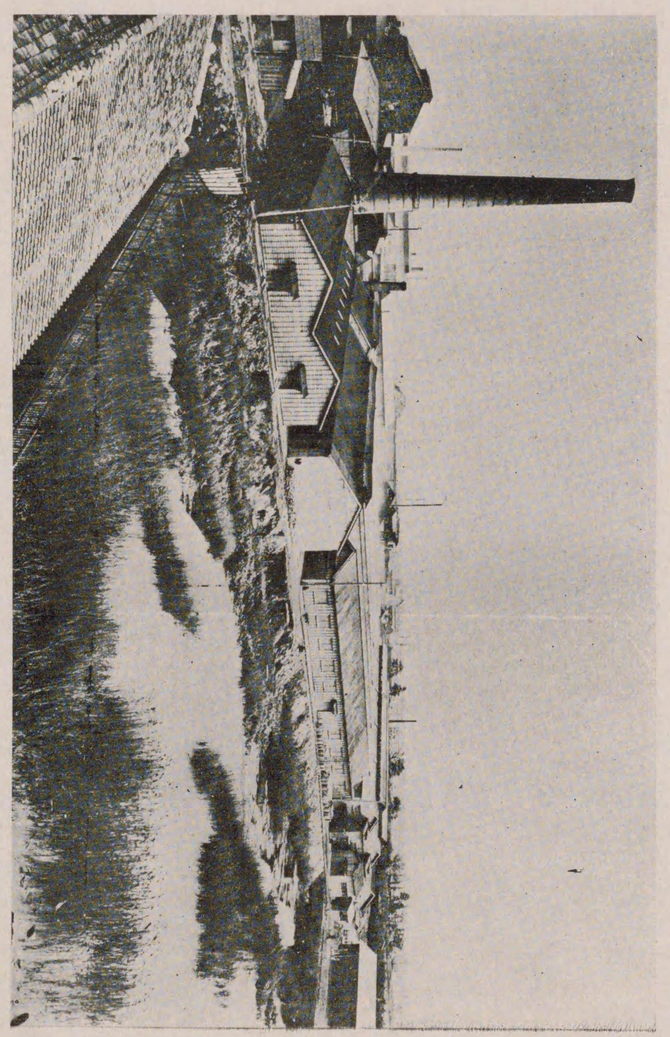
一、資本金　創立當時資本金壹百萬圓大正五年一月貳百萬圓大正七年六月五百萬圓大正九年五月壹千貳百五拾萬圓に增資す

一、事業の沿革　明治四十二年三月尼崎工場を竣工し同年十一月白耳義式手吹法により本邦最初の窓硝子製造を開始したるも斯業の性質極めて難事業にして內は製造技術の困難あり外は輸入品の壓迫ありて多年經營上の苦辛を嘗め多額の損失を蒙りたるも當社は之に堪え大正三年七月「ラツパース」式機械吹筒法の將來有利なるべきを見越して福岡縣戸畑市に該式に據る牧山工場を竣工し增產に努めたる處作業順調にして時偶々歐洲大戰勃發し東洋各地への白耳義製窓硝子供給杜絶したるに際合し當社は日本全國のみならず東洋各地へ輸出するの盛況を呈したり依て大正五年五月神奈川鶴見町に鶴見工場を同六年三月牧山第二工場を增設し以て內地需要を充し海外市場に供給する等業態著しく發展し爾來外國製窓硝子の輸入せらるるもの著しく少量に止まり窓硝子に就ては自給自足の實を擧ぐるに至れり

戰後內地の窓硝子需要增加と共に漸次輸出を減じ專ら日本國內に供給したるも大正九年の財界恐慌後白耳義手吹法による尼崎工場は作業を休止し牧山鶴見兩工場の施設を擴張して製造能力を增大し以て國內の需要を充しつゝありしも昭和二年六月更に休業中の尼崎工場を復活しフルコール式による最新式機械工場を建設することゝなり目下其の工事中なり

猶當社は大正五年尼崎工場に隣接して煉瓦工場を竣工し一般耐火煉瓦を製造し大正六年牧山工場に隣接して「アンモニア」式曹達灰製造法に據る曹達工場を竣工し我國化學工業の基礎工業たる曹達灰工業を創始し爾來曹達灰其他重曹工業藥品の製造に從事しつゝあり

上記諸事業の外當社は大正七年十二月東京市に研究機關たる試驗所を設置し各種化學工業の研究發明に盡力し其多年の研究に基き實際に工業經營に移したるものに補助肥料促肥素、各種塗料、旭ラツカーの諸事業ありて目下各々工場を設けて製造し之を販賣す



場工崎尼社會式株石硝旭

活版……と……印刷

納品迅速
価格廉底
製品優美

香蘭社印刷所
大阪市北區北扇町五七
扇町公園北門前
電話北八一五

日本橋梁株式會社

一　本店所在地　大阪市東淀川區南長柄濱通一丁目五
一　設立年月日　大正八年七月七日　但前身會社ハ大正六年十二月十二日
一　資本金　壹百萬圓也
一　製産能力　壹ヶ年壹萬五千噸
一　工場敷地　六千貳百三拾壹坪九三
一　建物坪數　貳千五坪七四
一　重役氏名

専務取締役	林	榮助
取締役	安野	譲
取締役技師長	武田	富吉
監査役	川合	喜太郎
監査役	岩井	英一郎
監査役	米田	鶴吉
相談後	岩井	勝次郎

一　技術員及事務員　五拾五名
一　從業職工　三百貳拾餘名

一、建物

事務所	木造、瓦葺スレート葺、二階建、一部煉瓦造	七十六坪貳合
製作工場	鐵骨及木造、スレート亞鉛浪板葺、平家建	三百五十七坪

鍛冶工場	鐵骨及木造、亞鉛板葺、平家建	四十八坪		
釘鍛工場	鐵骨、亞鉛板葺、平家建	三百六十八坪		
組立工場	鐵骨、亞鉛板葺、平家建	三百六十八坪		
機械工場	木造、亞鉛板葺、平家建	四十坪		
機關室	鐵骨、スレート葺、平家建	三十二坪		
原動機室	木造、亞鉛板葺、平家建	二十四坪		
組立工具室	同	八坪		
電氣工具室	同	八坪		
工具室	木造、瓦葺、平家建	十三坪五合		
工場監督室	同	十三坪五合		
變電室	鐵骨、亞鉛板葺、平家建	十三坪五合		
型取工場	木造、亞鉛板葺、平家建	十六坪		
材料置場	同	四十八坪		
食堂	同	九十六坪		
雜建物	同	十坪		
亞鉛鍍金工場	同	三十一坪五合		
風呂場	同	二百十六坪		
倉庫	同	二十二坪五合		
現寸工場	木造、亞鉛板葺、平家建	五十八坪		
		百十一坪八合		

一、原動力

三相交流電動機	一〇〇馬力	高壓	三、三〇〇V	壹臺
同	七五馬力	高壓	三、一五〇V	壹臺
同	五〇馬力	低壓	二二〇V	貳臺
同	三五馬力	同	同	壹臺
同	二八馬力	同	同	壹臺
同	二五馬力	同	同	壹臺
同	二〇馬力	同	同	貳臺
同	一二馬力半	同	同	壹臺
同	一〇馬力	同	同	壹臺
同	五馬力	同	同	壹臺
同	三馬力	同	同	壹臺
同	一馬力	同	同	壹臺

一、据附機械

種類	寸度又ハ能力	箇數
空氣壓搾機	二三五立方尺	壹
同	四六〇〃	壹
ポーテーブルコンプレツサー	五十立方呎	貳
レバータイプダブルパチングマシン	一吋	參

パンチング エンド アングル カッチングマシン …四分ノ三吋　壹
六呎ウオールラジアルドリル……一吋四分ノ三　六
アップライトドリル……一吋　貳
コールドソーイング マシン……十 二 吋　壹
同……三十二吋　壹
ジョーリベッター……シリンダー十二吋徑鋲一吋徑迄　四
同……八呎徑一吋四分ノ一　壹
ハンマーボイラーリベッター……シリンダー十二吋徑鋲一吋四分ノ一徑迄　貳
ポーテーブルエレクトリックドリル……四分一馬力一吋四分ノ一　拾四
リベッチングハンマー……一吋四分ノ一　五
チッピングハンマー
旋　盤……六呎、八呎及十二呎　五
平　削　盤……六　呎　參
風　車……六吋、十二吋　壹
ボ ン ブ　貳
ボルト螺旋機　壹
ベンディングローラー……十 二 呎　壹
プレートエッヂプレーナー……二十五呎　壹
プレートストレートナー……八 呎 巾　壹
ダブルエンドアングルシーヤ……八吋 八吋 一吋　壹

オーバーヘッドエレクトリッククレーン……長六十呎十噸　貳
同……四十呎三噸　壹
グラインダー……徑三呎及一呎　貳
ベルトハンマー
ジンクロー
エレクトリックウキンチ……二　噸　貳
同……五　噸　貳
亞鉛熔解盤及ビ熔解爐……長二十四呎、長十呎、長四呎　參
オバーヘッド、エレクトリック、クレーン……二　噸　壹
鐵材洗滌槽……長二十五呎　六
コルニッシユ、ボイラー……長 十 二 呎　壹
サンド、ブラスト　壹
ロータリー、プレーナアー……徑三十八吋　壹
歪取機械……壓力三百五十噸　壹

一、沿革

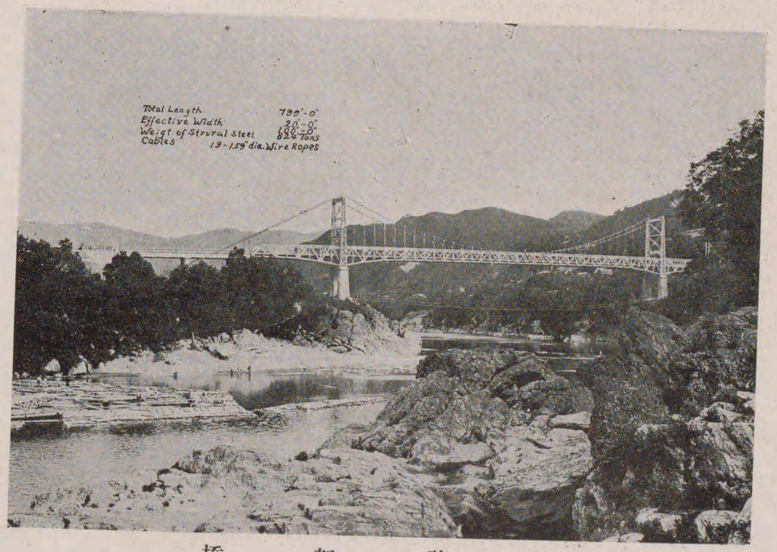
一、大正六年十二月十二日關場茂樹及小林藤之助ハ大阪市西區南境川小林鐵工場ノ營業並ニ權利義務ヲ繼承シテ日本橋梁建築合名會社ヲ設立ス　右大正六年十二月十八日登記

一、大正七年五月七日會社代表社員小林藤之助死亡ニ付前記合名會社ヲ解散ス　右大正七年五月九日登記

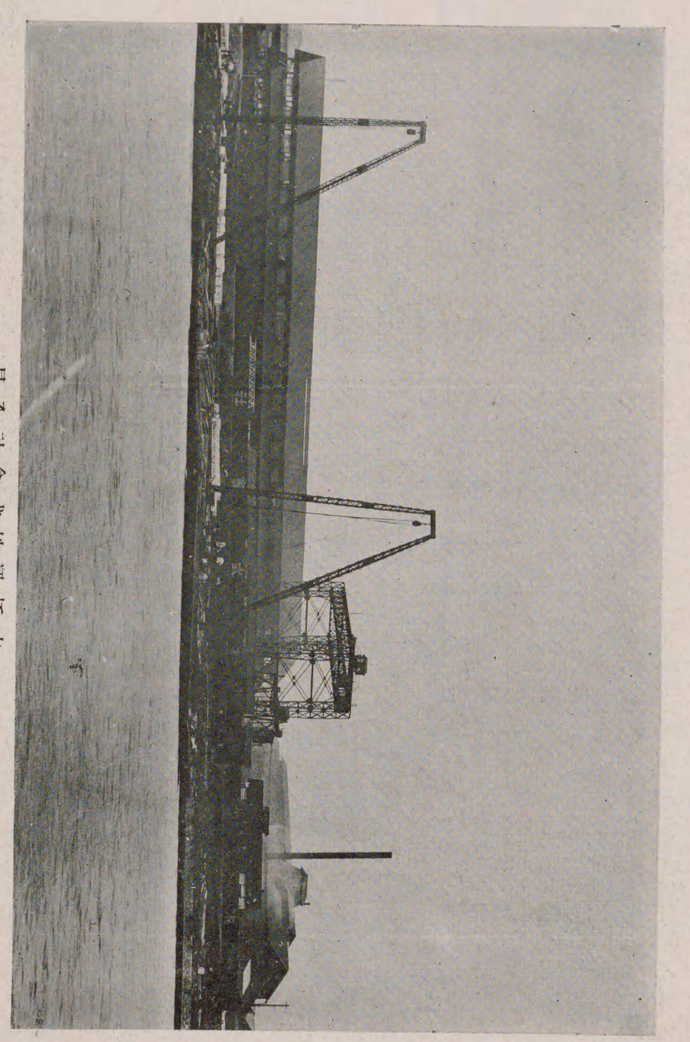
一、大正七年六月十五日北代成業及關場茂樹ハ日本建築合名會社ノ營業並ニ權利義務ヲ繼承シテ日本橋梁建築合資會社ヲ設立ス　右大正七年六月廿二日登記

一、大正八年七月七日日本橋梁建築合資會社ノ營業並ニ權利義務ヲ繼承シテ日本橋梁株式會社ヲ設立ス　右大正八年七月十六日登記

日本橋梁株式會社架橋工事



橋　　架　　社　　同



景全社會式株梁橋本日

營業品目

（板類）

銅、眞鍮、亞鉛
アルミニユーム
特許輕合金アルモデユール
其他各種合金

創業　明治二十六年

資本金　五百萬圓

一ヶ年製造最大能力　貳千五百萬斤

（加工部製品）

特許分銅屋根板
アルミニユーム各種器物
高級ストップバルブ

（型錄進呈）

重役

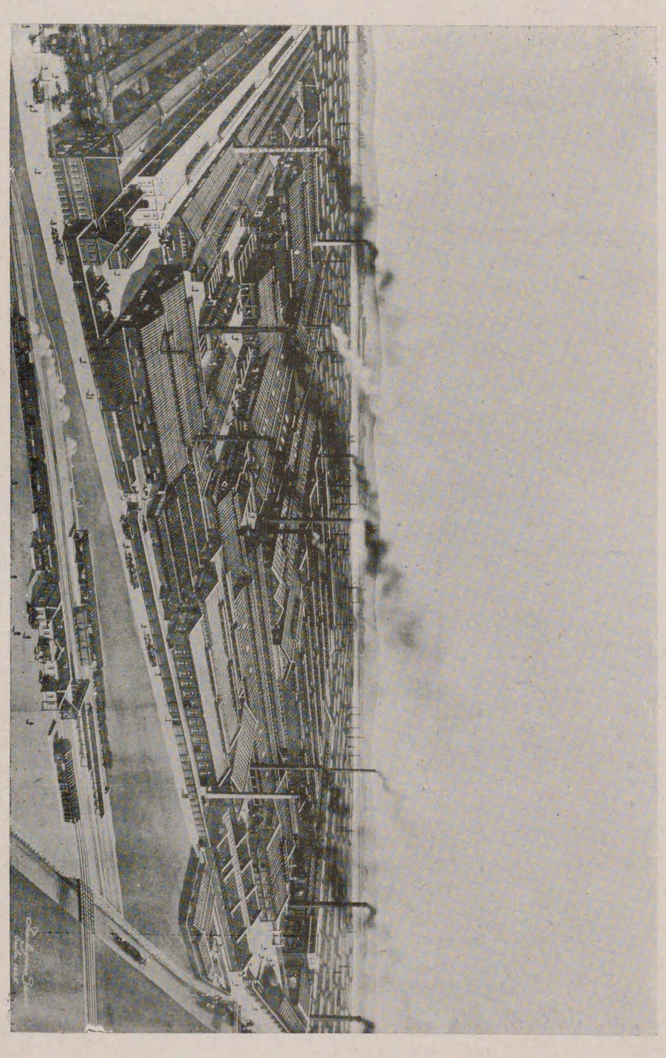
取締役社長　鈴木茂雄
取締役支配人　神戸正樹
同　工務部長　小出錠雄
同　吉田定七
同　阪根武兵衛
同　菅禮之助
同　山口喜三郎
監査役　野田吉兵衛
同　宮崎彌作
同　長谷川鐵太郎

海軍省指定工場

大阪電氣分銅株式會社

大阪市北區天神橋筋四丁目

電話堀川自四三一至四三六番



大阪電氣分銅株式會社及同工場

我邦に**ペイント**製造が創められてから相當の歳月を閲して居りますが之が製造技術の上には遺憾ながら改良進歩の跡を見出し得ないのであります。飜て歐米の斯業の有樣を見まするに不斷の科學的研究に基礎を置き優秀なる製產設備を以て品質の改善と能率の昂上とに努めて居りまして、堅牢**ペイント**の如きは最早特殊化せられたるやの感があり之に代つて卽用**ペイント**(Ready Mixed Paints)の時代を招來して居ります。又**ワニス**及び**エナメル**に至りますると其の製造技術の進歩は我に比し實に隔世の感がありまして、歐米機械工藝品の美觀は其の高級なる塗料の應用に由ると云ふも過言でないのであります。

弊社は前述の如き趨勢に鑑みまして微力ながら我國塗料工業界に一新期を劃する抱負を持ちまして工場には歐米最新式の高級機械を配備し三十餘年間米國一流の塗料會社の技師として斯界に名を知られたる技術者を聘して其の靈腕を振はしめ、之に加ふるに幾多苦心の末完成したる實驗室により原料の嚴撰製品の檢査を勵行致しまして、優秀にして低廉なる製品を以て需要家各位に奉仕し、併せて斯業に貢獻せんことを期するものであります。幸に大方各位の御援助により此翼望を達成致したいと存じます。

不二塗料株式會社
取締役社長　藤田政輔

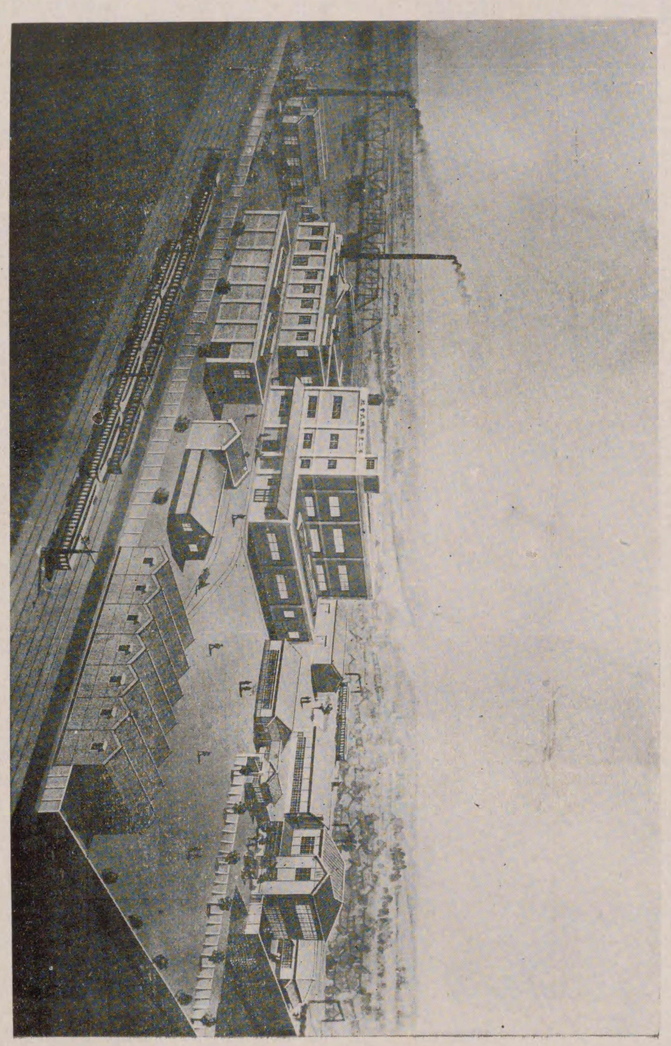
工場設備一般

ペイント工場は鐵骨鐵筋**コンクリート**造三階建で歐米最新式の高級機械を配備し原料から製品になるまで、主に機械力により科學的に製產能率の增進を計るを主眼とした設備を施してあります。

ワニス工場も亦鐵骨鐵筋**コンクリート**造半家建であつて**ワニス**類製法は固定式釜の舊慣を脫し移動式釜を應用し總て而かも其の製造容量は一釜一度の仕込が三百瓦倫以上の尨大なもので加熱中發生する分解瓦斯は、**フュームコントローラー**に依り之を淸淨し、併せて副產物を收集するの裝置にしてあります。又稀釋後淨油機を通つた**ワニス**類は貯藏室に貯藏せられ、此處には四季一定の溫度を保つ爲め保溫裝置を設けてあります。

精油工場も鐵骨鐵筋**コンクリート**造三階建であつて最新式の精油設備を裝置してあります。精製乾燥油の良否は塗料の品質に大に影響するもの故、此工場の設備には多大の注意を拂ひ原料油の精製に遺憾なきを期して居ります。

右諸設備の以外に油の貯藏庫があります。該庫内に區分して貯藏してある種々の油は多數の**パイプ**にて各工場に卿筒に依り送ることになつて居りまして、諸般施設の充實せるは實に我國に於ける最初の試みでありまして、密かに弊社の誇りとする處であります。



圓萬百壹金本資　　社會式株料塗二不　　度封萬千二額年產製

(景全場工崎川及社本)

創立及經歷

明治四十年四月一日合名會社大倉組皮革製造所、株式會社櫻組、東京製皮合資會社の三社を合同して當會社を創立す、前身會社は何れも明治初年の創業に係り古き歴史と幾多の經驗を有す、合同後直に其事業を繼承して陸海軍其他諸官衙の需要に應ずると同時に市中向皮革調革及革具等の製造に從事し順境裡に營業しつゝあり。

工場所在地

東京工場　東京市外千住町千住中組

大阪工場　大阪市浪速區船出町一丁目

上海工場　支那上海寶山縣潭子灣

尚支那天津に日支合辦の裕津製革公司を有す。

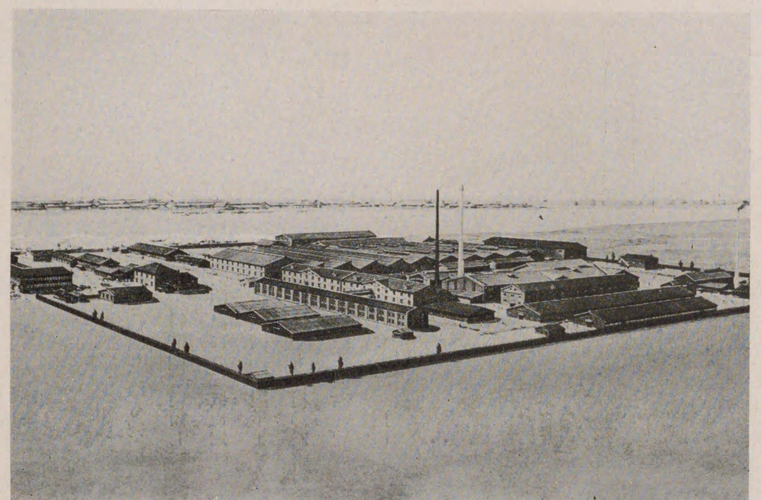
資本金　五百萬圓　（全額拂込濟）

役員

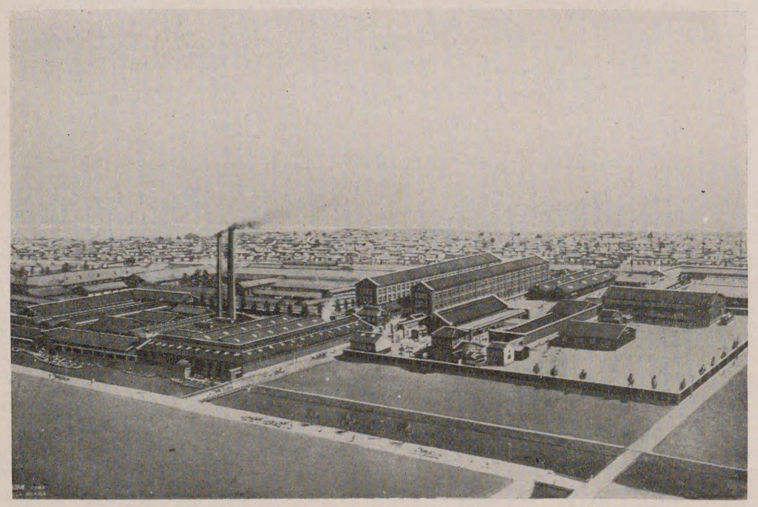
取締役會長	伊藤琢磨	
專務取締役	大倉喜七郎	男爵
取締役	西村直	
取締役	野口彌太雄	
取締役	三好三也	
取締役	岩崎寅作	
監査役	大澤亨	

大阪市浪速區船出町一丁目

日本皮革株式會社大阪支店



日本皮革株式會社　東京工場



同　上　大阪工場

概況

當社は本邦に於ける電球界を代表し、最も完備せる工場を有し、其品質の優良にして卓絶せることは到底他の追從を許さず、殊に其製品は總て百數十の特許權を使用して製作せるものゝみにして、特にサン瓦斯入電球、サン內面艶消電球の如きは、最近に於ける世界的發明品にして夙に定評あり、各地博覽會共進會等に於ても常に、最高賞を受領し殊に大正十五年電氣大博覽會出品の際は、總裁閑院宮殿下より名譽賞牌を親授せられたり。

曩年　大正天皇御西下の砌は畏くも侍從御差遣の光榮に浴し

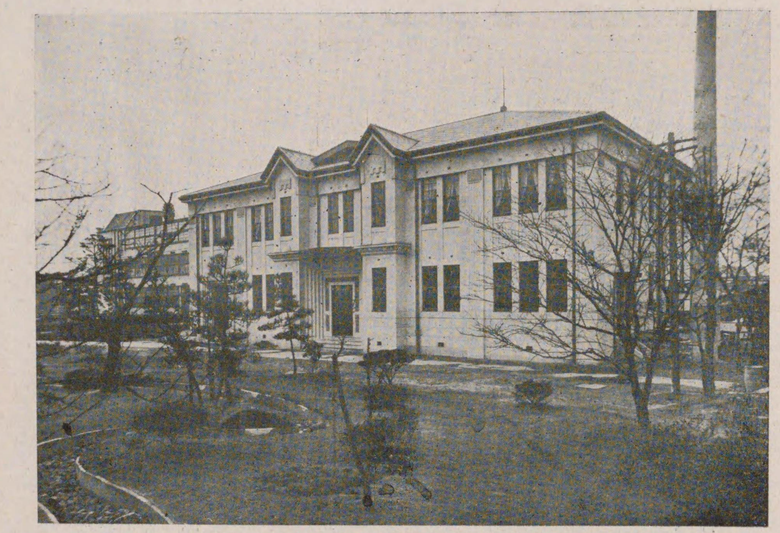
聖上陛下東宮として大阪行啓の際は製品台覽の光榮を辱し、大正八年五月には故北白川宮成久王殿下台臨親しく工場作業の實際に就き長時間御視察あらせられ、更に大正十五年三月伏見宮博恭王殿下には國產奬勵の御思召を以て特に御台臨の光榮を得たり。

SUN

大阪電球株式會社

大阪市西淀川區大仁町七〇

電話土佐堀
二二三三番
六六二〇番
一一八四番
一一二〇番



大阪電球株式會社事務所と工場の一部

創立　明治四十年二月

資本金　四百萬圓

營業品目　各種電燈球及附屬品製造販賣

年產額　各種電球一千萬箇

工場　面積八千三百七十六坪、建坪二千坪

重役

取締役社長	渡邊修	
專務取締役	田村貫一	
取締役	木村駒吉	
取締役	山口喜三郎	
取締役	ジエー、アール、ギヤリー	
取締役	大島弘義	
取締役	津守豐治	
監査役	星野行則	
監査役	土居剛吉	
監査役	郎オー、ブルスマン	

同社は現取締役社長鮎川義介氏が夙に本邦鑄物界の幼稚なるを慨し、その改良を企圖して歐米就中米大陸にて盛んに使用せらるゝ黑心可鍛鑄鐵の研究に就て腐心する事多年、其間親しく彼地を視察する事二度、明治四十三年六月地を福岡縣戸畑市に相して戸畑鑄物株式會社を創立し、同四十五年二月第一期工事の完成と共に營業を開始し本邦黑心可鍛鑄鐵製造の元祖として其製品を世上に提供するに至つた。

而して同社は明治四十五年には資本金を倍額の六十萬圓に、大正二年には百萬圓に、大正九年七月創立十周年を記念として二百萬圓に增資し、大正十五年には姉妹會社たる福岡縣若松市帝國鑄物株式會社及び大阪市港區株式會社木津川製作所を合併すると共に本社を東京に移し、從來の戸畑鑄物株式會社、帝國鑄物株式會社及株式會社木津川製作所を夫々戸畑工場、若松工場、木津川工場、と改稱し今や世界有數の鑄物會社として知らるゝに至つた。

飜つて是れを創業當時に見るに、當初三井、貝島、藤田の諸家と誘り僅々三十萬圓の資本金を以て創始したるものが十八年間に增資すること四回、それに伴うて業績愈擧り、其間海軍省、鐵道省其他鐵道電力電機、造船、製紙、製鋼、製糖、紡績、**セメント**、瓦斯等の大會社大工場にして用命を受けざるはなく、「戸畑」の名は精良鑄物の代名詞として斯界に名聲を博するに至つた。

殊に近時農、漁當業者間に喧傳される**トバタ**發動機及び**トバタ**揚水**ポンプ**は、國產奬勵輸入防遏の精神に基き苦心研究を重ね來つた優良品であつて、大正十五年二月農林省に於ける發動機の比較審査には凡ゆる船來品を凌駕して最高位に入選し小型發動機の王位を占め延いて同省指定工場たる名譽を贏ち得るに至つた。

其他前記舊帝國鑄物株式會社即ち現在の若松工場は本邦の各種**ロール**類が概ね外國品なるに鑑み大正六年創立以來苦心經營の素志漸く顯はれて今や東洋隨一の**ロール**並に大型鑄物工場として聲價年と共に高く又焦株式會社木津川製作所即ち現今の木津川工場は我國稀有の鐵管繼手類專門工場として是れ亦成績頗る良く、今や內地總需要高の八割を供給し更に進んで海外に輸出するの盛況である。

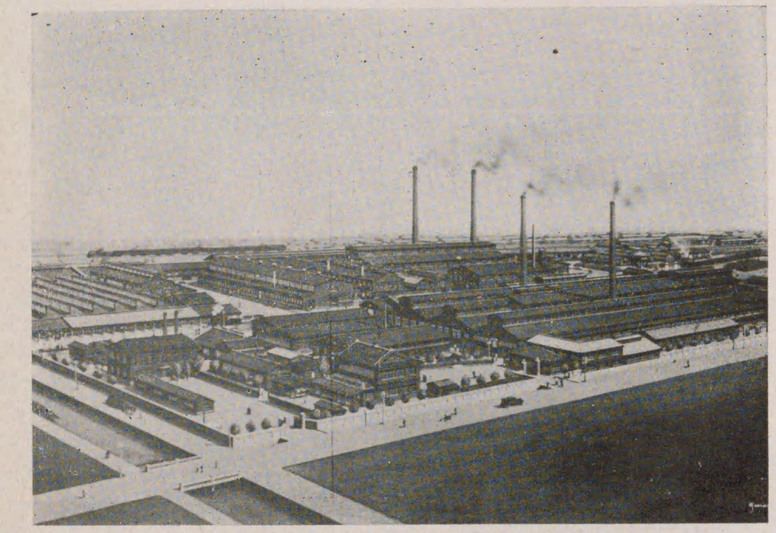
製品種目

○戸畑工場　黑心可鍛鑄鐵、**セミスチール**及特種鑄物、鑄鋼品、銑鐵鑄物合金鑄物白銑**ボール**、諸機械仕上及組立、乾式濕式亞鉛鍍金、**トバタ**陸用並に船用石油發動機、**トバタ**揚水**ポンプ**

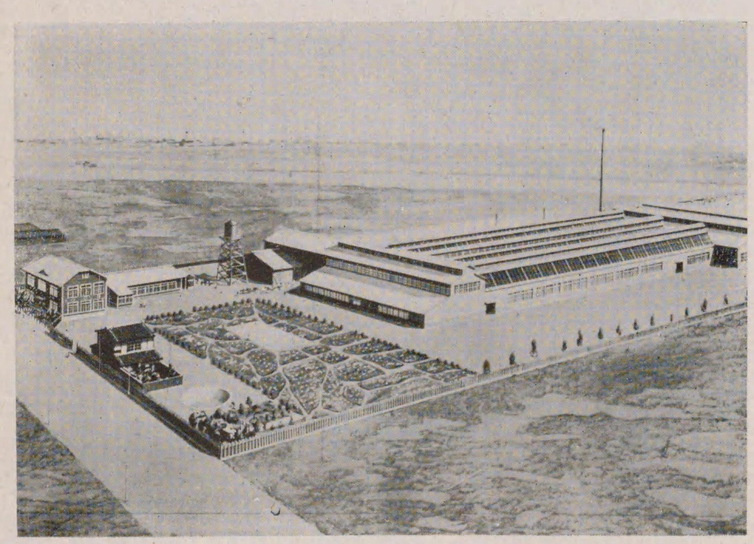
○若松工場　**チルドロール**及**サンドロール**（製鐵、伸鋼、製紙、製粉、機械**ゴム**、印刷**インキ**用各種）**インゴットモールド**（製鋼用並に合金用各種）製紙用諸機械、**セメント**製造用及鑛山用諸機械其他各種附屬機械、大型鑄物並に**バーラチックカストアイオン**製高級鑄物、船舶修繕

○木津川工場　各種鐵管繼手（低壓用、百封度保險付、高壓用）**バルブハンドル**類、**グリースカップ**類

創立	明治四十三年六月
資本金	五百萬圓
社名	戸畑鑄物株式會社
本社	東京市麹町區八重洲町
社長	鮎川義介氏
工場所在地	戸畑市、若松市、大阪市
營業所所在地	東京市、大阪市、名古屋市、戸畑市、大連市



戸畑鑄物株式會社　戸畑工場



同　上　木津川工場

當店の創業は遠く明治四年にして爾來五十有餘年間一日の如く事業を經營し寫眞器材料並ニ藥品製造販賣の先驅者及其輸入の開拓者として一般に認められ且自ら其責に任じ日に月に發展を計り以て今日歐米先進國に於ける著名の製造會社にして弊店の特約に非ざるもの無之是等の諸會社より斷へず精撰優良の品を輸入し二十世紀の寫眞界に嶄新精巧の器械材料を供給して毫も缺ぐる所無きに至らしめたるは弊店の顧みて窃に誇りとする所に御座候へ共斯くの如き隆盛を致せしもの是偏に各位永年の御高庇に因るものにして弊店一統厚く拜鳴謝候大戰後經濟界の大打擊は未だ安定するに至らず原料の價格又は爲替相場に至るまで變動極りなく從つて輸入品の原價一定せず吾々貿易業者の最も困難を感ずる所に御座候併乍平素の御鴻恩に酬ゆるため出來得る限りの勉強と誠意を以て御高需に應じ可申候間舊に倍し御用命被仰付度奉恃願候（沿革及概況問合せに對し同店よりの回答文を其儘掲載す）

寫眞機械直輸出入商

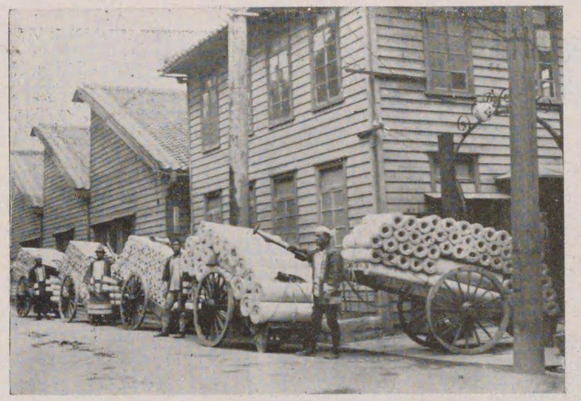
淺沼商會大阪支店

大阪市南區順慶町四丁目

營業課目

寫眞機械及材料
寫眞應用印刷機械
同　材料
印刷機械及材料
活動寫眞機械及材料
幻燈機械及材料
X光線機械及材料
乾板フイルム現像
印畫作製
機械修理

寫場暗室
無料開放
高級技師在店

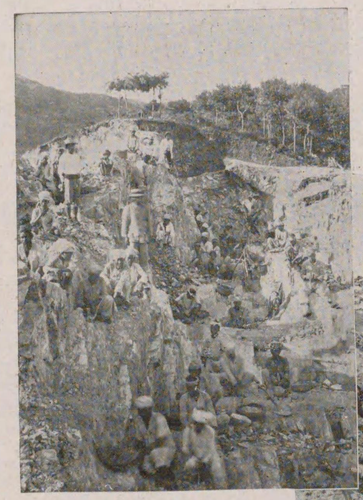


大阪支店工場の一部

本邦に於ける石綿の工業的利用の濫觴は詳ならず、明治二十二三年の交、河原某石綿を以て保溫材の製造を開始せりと云ふ。然れども其工業的に稍見るべきものあるに至りたるは日清戰役當時の事に屬し、明治二十九年五月日本アスベスト株式會社の創立を見るに至れり、是れ實に石綿工業の會社的組織の嚆矢なりとす。日清戰役後艦船の增加に伴ひ石綿の需要も頓に增加し函來各處に此業起れり。（早稻田大學出版部發行曾我杢祐著耐震耐火的建築土木原料土石と其利用拔萃）

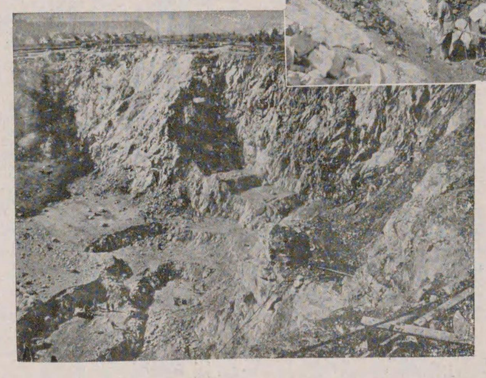
營業部	東京市京橋區南鍋町一丁目七番地 電話銀座 {1756番 4536番
營業部	大阪市西區靱南通四丁目五番地 電話長土佐堀 {739番 2021番
本社工場	東京府品川町大字北品川宿五三〇番地 電話特長高輪 432番
支店工場	大阪市此花區下福島五丁目一八番地 電話土佐堀 4869番
出張所	福岡市橋口町六四番地
同	長崎市榎津町二〇番地
同	名古屋市南區熱田白鳥町一四番地
採掘所	關東州金州董家溝會和尙屯 採掘事務所
同	朝鮮忠淸南道洪城郡廣川面龜項里
代理店	神戶市海岸通三丁目（日濠館）萬成商會
同	大倉商事株式會社本支店各地出張所

朝鮮鑛區



金州鑛區

加奈陀鑛區



帝國海軍指定工場　（明治二十九年五月創立）

日本アスベスト株式會社大阪支店

大阪市西區靱南通四丁目五番地

大阪工場　大阪市此花區下福島五丁目十八番地

日米板硝子株式會社

本　社　大阪市北區中之島貳丁目貳拾番地江商ビルディング四階
工　場　福岡縣遠賀郡島郷村大字二島千七百七拾八番地
販賣店　大阪市北區中之島貳丁目貳拾番地江商ビルディング四階(本社内)
　　東京市麹町區永樂町壹丁目壹番地丸ノ内ビルディング七階七九〇號
　　門司市清滝町壹丁目九百貳番地大陸ビルディング三階參拾四號

當會社は大正七年拾壹月住友合資會社及旭硝子株式會社等を中心とし資本金參百萬圓(拂込濟)を以て成立し同八年地を若松市外二島に卜して工場建設に着手大正拾年參月全部の事業を開始せり製造法は米人コールボン氏の發明に係る所謂コールボン式製造法即ち自働連續板狀伸延製造法に依り並板硝子の外本邦にて始めて厚板硝子(正一分厚マシン板正二分厚の各透明品並に其加工品)を製造し現今にては年産四拾餘萬函に達せり當社の特色にして主力を傾注せる厚板硝子の用途は主として和洋高級建築窓、學校、病院、工場窓及工場天窓に用ひ其他船舶、汽車、電車、自動車窓、陳列棚、テーブルトップ、濕室用硝子等頗廣汎にして内外國に販路を有し品質優良なる故を以て名譽賞、金賞及銀賞を受くる事四回に及べり。

一、業績及特徴

歐洲戰亂後本邦化學工業は長足の進歩を遂げたりと雖も板硝子の製造方法に至りては未だ舊套の域を脫せず圓筒吹機械製造法に依るものありと雖も其の製品は市場に所謂並板硝子(又は並一分と稱す一平方呎目方十六オンスあり約六厘内外の厚さを有す)のみにして正一分板硝子(一平方呎の目方二十四オンスあり正味厚さ一分)以上の厚物に至りては全部之れを輸入品に俟つ狀態なりき此時に當り當社は特許コーボン式自働連續板狀伸延製造法を米國より齎し主として正一分以上の高級厚板硝子の製造に着手し本邦板硝子工業に一新紀元を與へたり。

本機は米人コールボン氏が實に二十有餘年の星霜と貳百餘萬弗の研究費を投じて漸く完成したるものにして殆ど人工を用ひず機械の作業に依り自働且つ連續的に平面板を伸延するものなれば幅九十吋にして其長さに於て限りなく、又熱度及び機械運轉速度の加減に依り厚薄自由の板硝子を連續製造し得べく從て其の品質優良整一なるのみならず價格も從前の約半價に低價せしめ得たるを以て市場に歡迎せられ殆んど輸入防遏すると共に急速に厚板硝子の需要を喚起し會社の業務も大に進展するに至れり。

本機製品重なる特徴の二三を記すれば

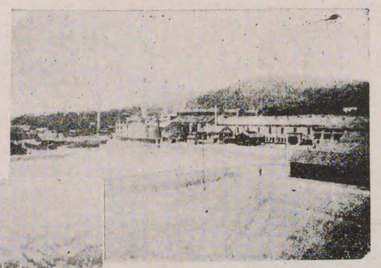
一、當會社製品は熔爐より連續的に機械力に依り伸延され熱度を調節する二百尺の冷却室を通過して製造さるゝものなれば熱度の急變に依り生ずる品質の缺點を絶對に防止す。

二、少しも人工を用ひず同一連續的の工程を以て一粍以上十粍迄幅九十吋長さ無限の板硝子を熱度及速度の加減に依り任意に製造す。

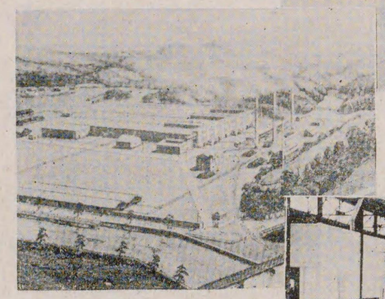
三、製品は反なく嚴格なる平面にして且厚さは絶對に整等なり。

工場及製品用途の一例

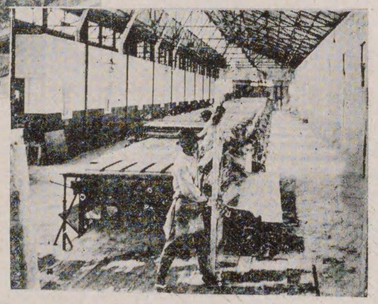
(本邦唯一ノ厚板製造工場)
(鐵道省指定工場)



日米板硝子株式會社二島工場

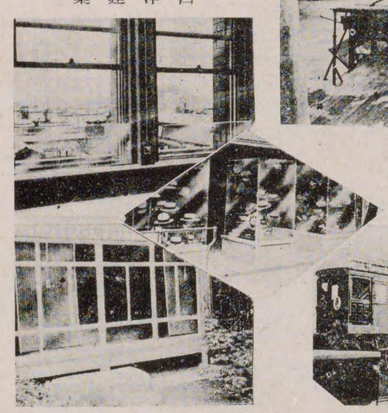


二島工場全景

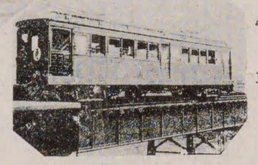


工場内の一部

西洋建築



ショウウインド



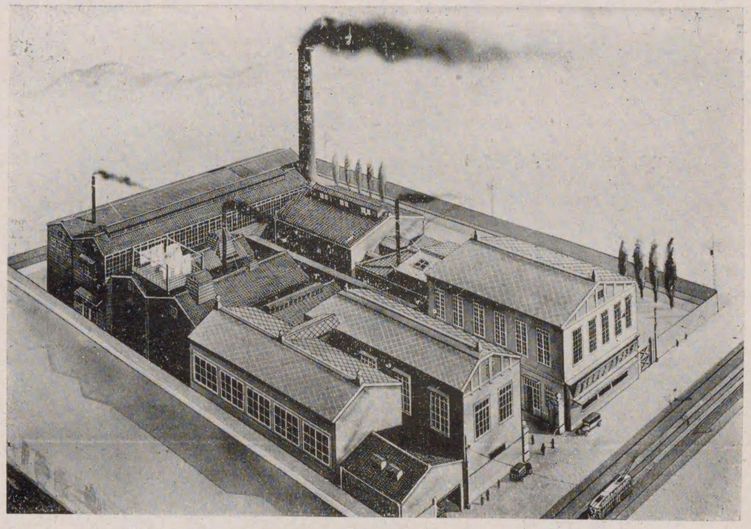
電車

製品の特色

弊社は世界的特許たる米國コールボン式機械により厚薄各種の板硝子特に二十四オンス以上の厚板を製造す

本機の特徴により製品は板面平滑厚み均等反り歪みなく質強靭なり從つて切斷嵌込等容易にして破損率極めて僅少なり

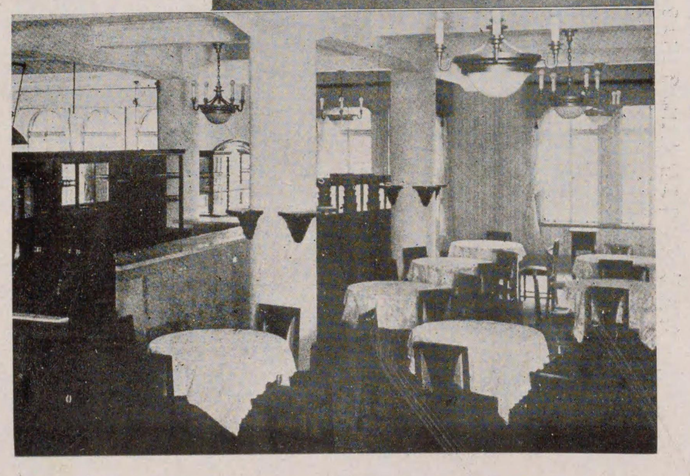
殊に二十四オンス品(正一分板)は十六オンス品(並板)に比し三倍の強度を有し頗る德用なり



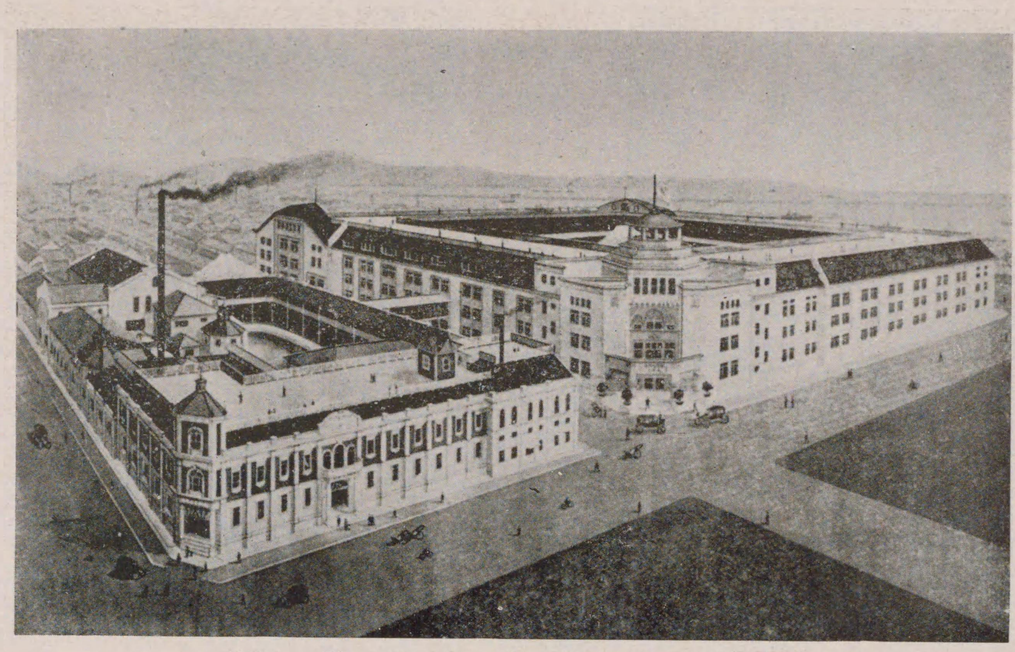
（町上樋區北）　場工品料食萬灘

（一ヒーコトルモ）品製社會式株酒麥本日大

（載揭加追めたの考參）



大阪名所の一つであり又芝居の本場として知られて居る、道頓堀の一角に文化大建築物の異彩を放てる**丸万食料品店**の全景（上）同食堂（下）



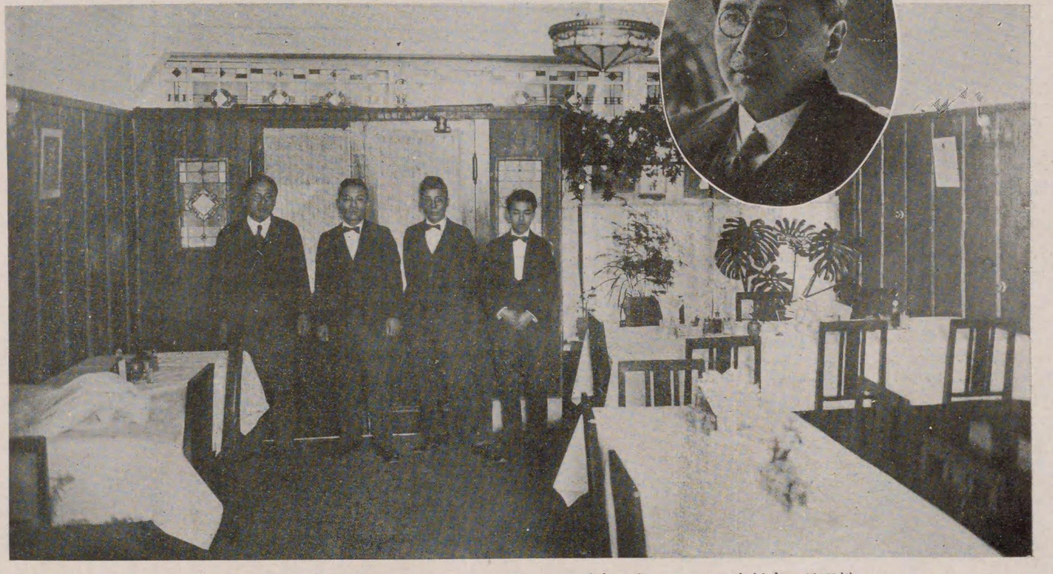
大阪名所として天下に知られたる　築港大潮湯　の全景

館内には娯樂施設・食堂の完備其他の設備遺憾なく整へり

經營主

東井宜明氏

食堂改善の先驅者東井氏が經營する　純然たる文化食堂　ハクバランチ



料理長　木村友三氏　白馬ランチ　（大每本社横　市電櫻橋下車）

位　置　大阪市港區西市岡町貳丁目拾番地　電話西三四九〇・四八〇（市電築港線夕凪橋北入）

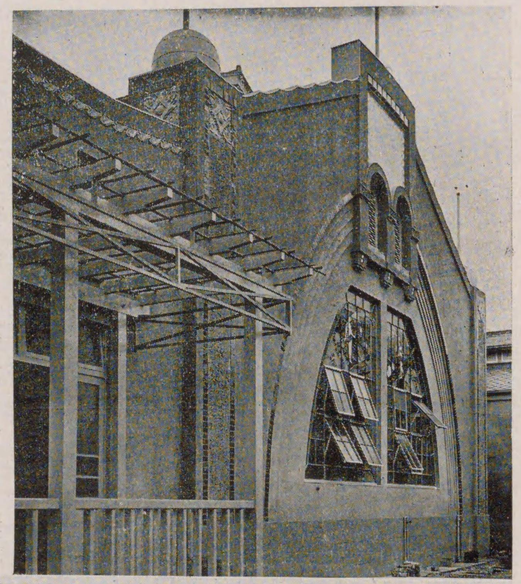
面　積　壹萬貳千坪

設　備　桂座（鐵骨コンクリート、三階、大阪屈指ノ大觀物場）明光館、文化座、北極館、野外演技場、大温泉、大休憩所、大飛行塔、動物舍、小供遊戲器械

市岡パラダイスは西大阪の一大民衆娯樂場にして、市岡土地株式會社の直營にかゝわり諸般の設備整ひ、優秀映畵封切上映。高級萬歲、諸珍藝大會。北極館のアイス、スケーチングホールは東洋唯一の設備にて、四季氷結壹尺餘、大温泉は設備完全にして、千人風呂、土耳古風呂、燐鐵鑛泉、人參實母散藥湯あり、野外演技場の如きは他にその類を見ず、其他吾妻家、大瀑布、辨天池等ありて、四時自然の風趣を味ひ得べく又、大飛行塔、動物舍、運動機等の小兒遊戲の設備あり、優に一日の清遊に適す、殊に紅塵萬丈の都下に於て家族的にも、團體懇親會等の會合には最も適當なり。

入場料は入浴料共　大人　參拾錢　小人　拾五錢

民衆的大娯樂場　**市岡パラダイス**



大温泉（上）　桂座（下）

大阪府指定

大阪理髪專修學校

大阪市東區小橋東之町四〇番地

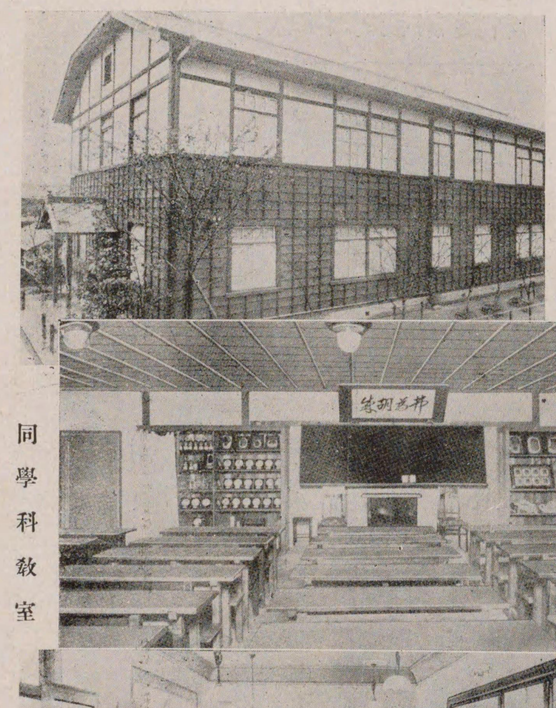
本校は一般理髪（結髪を含む）従業者の教養並に向上を圖る可く、大阪府理髪營業組合聯合會が其の事業として設立せるものにして、大正十年四月大阪市醫師會事務所の一部を借りて假校舍と し開校せり、時恰も我大阪府に試驗制を實施してより二ケ年と六ケ月にして全國他に試驗制の實施せられたる府縣一も無く理髪の教養は短期の講習に限られ長期に亘り正則に教授せること無く爲めに開校當時是が教科程を定むるに非常の苦心を要せり。

大阪府に於ても是が設立に對し贊意を表し教師を銓衡推薦せられ教科書を定め教程其の緒に著き回を重ねて出す卒業生の成績優秀なるにより大正十二年四月大阪府より無試驗檢定と指定せらるる其後校舍を新築し設備をとゝのへ學術技藝に人格品性に完備せる理髪師及結髪師の養成を目的として現今の學制に改め近く文部省認可に因る職業學校として理髪師並に結髪師の社會的位置の向上を圖らんとするものなり。

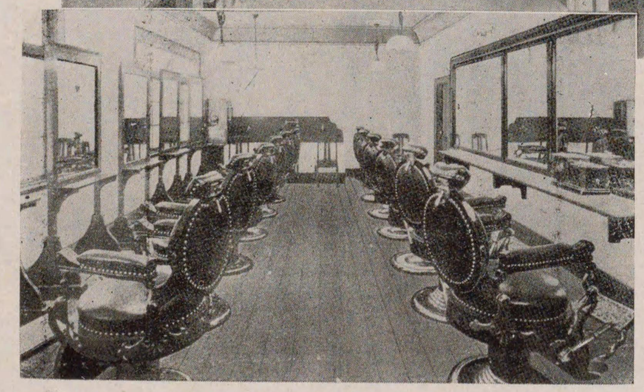
本校の卒業生は無試驗營業の特典あり

本科二學期にたれば就職口を紹介す、故に六ケ月以後は學資を要せず通學することが出來る

大阪理髪專修學校々舍



同學科教室



同實科教室

大阪理髪專修學校結髪科

入學資格は滿十五年以上の者で尋常小學校卒業程度の實力ある仕事の出來る者

卒業生は無試驗で營業が出來ます　女子に對し必要な學科と技術を授けて實際營業上役に立つ結髪師の養成が目的で特に夜間教授としましたのは晝間相當收入を有する講師が其の收入を捨てゝ薄給な教師として就職もせず又其の教師達の得る收入に匹適する程俸給が支辨出來ませんが故に夜間にしましたので夜間ですと當大阪府聯合會所屬の結髪師中から適任者が自由に選擇出來るからです授業時間は午後六時より十時迄で髪の結へる者は技術の試驗をして入學せしめ毎週二回だけ通學すればよろしい又髪が結へぬ人は毎日技術を教へます卒業生は實際營業してもお客が來る樣に充分獨特の方法で教へるのでありますす滿十五年以上の女子で尋常小學校を卒業した者か同等以上の實力あると認めた者は毎年一月四月七月十月の四回入學を許します

技術の出來る者で毎週二回より登校せぬ者は聯合會所屬組合內從業員に限り授業料を金三圓に減額す

大阪理髪界第一位の稱ある神本松治氏經營の神本理髪店及同氏の略歷である、氏は播州大鹽町の出身、明治卅壹年大阪に來り左記の場所に於て理髪業開店爾來克苦勉勵顧客本位の店として當市一流紳士の愛顧を受け年々得意の信用を增して現在の地位に達す、氏は客の數に重きを置かず其技能と上流の客を大切に扱ふ事に苦心したとの事である。又至つて溫厚なる人格者であつて是等依つて以て今日氏の事業を確守するの所以である、同氏の經營の中王たるものは本店及大阪ビルデイング內の調髪室である、其內本店の建築は寫眞に示す如く美しいと云ふよりも其落着いた感じの良いそして重みのある所に該計者の苦心を察する事が出來る、是は當時住友の旧高工學士が英國より歸朝の土産設計として特に同店主の爲に其技を擬したものである。同店を出でし者五百餘名其內店を持ち營業せる者二十數名是等皆同氏の指導に依るもの、其技能優秀は勿論氏の人格化を受けて仕事に勉勵する者ばかりだそうである、氏の趣味は美術と働く事とのみ、眞に幸福の人である、大阪市東區北濱二丁目に自宅と並んで本店あり。

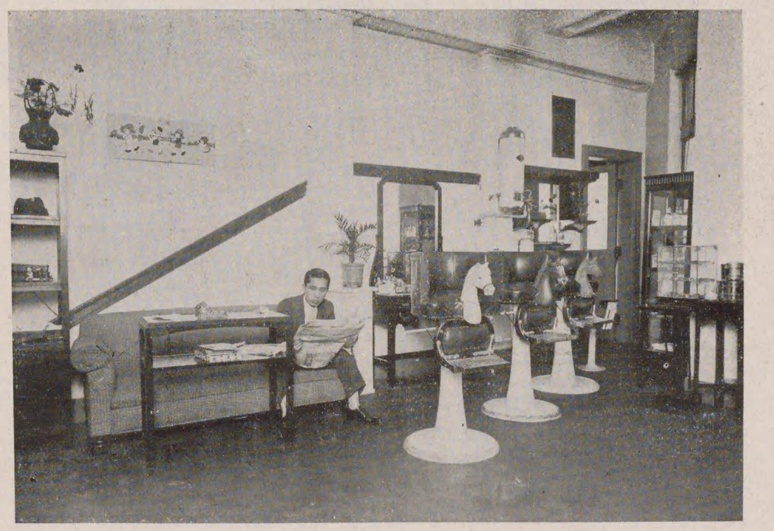
神本理髪店全景（上）

同店内部就業の實況（下）

大阪理髪組合副取締
大阪府理髪檢定委員
大阪理髪專修學校長
神本松治氏

室髪調ルビ大の營經氏同

白木屋四階理髪部（堀切氏經營）



同上　子供部（同上）

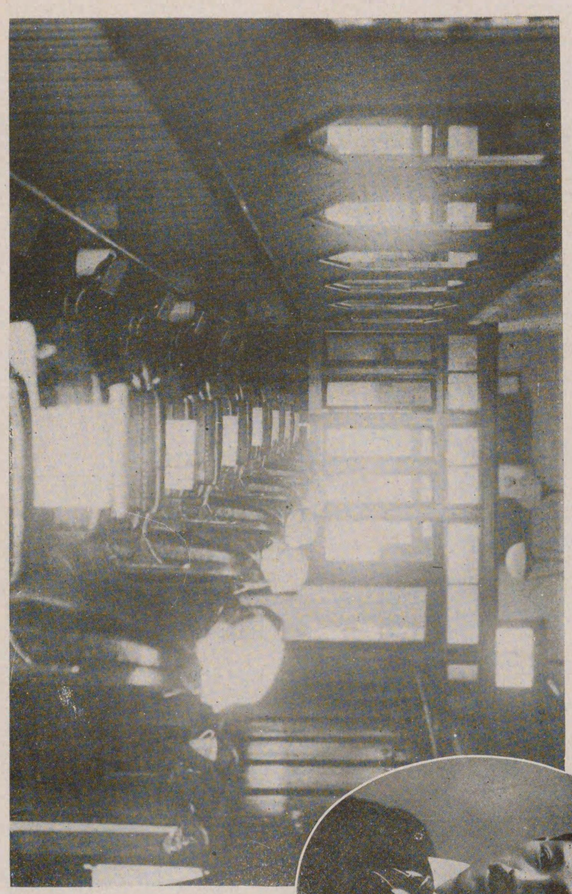
堀切七藏氏

米國コーケン理髪器具會社大阪理事教師

同氏は千葉縣の人、明治廿七年生れ、性頗る快活にして奮闘的なり、少年の頃より斯業に名を成さんと横濱に出で暫時彼地に於て修業、大正二年來阪、翌三年大阪技友會より撰出せられ、視察修業の爲上海、香港、シンガポール、ジヤワ、ペコシヤン、を經て同五年カルカツタ、ボルネオ、サンダカン、米領マニラ、等を巡り同年末歸朝、直に東區南久太郎町に開業、續いて三品取引所構内、天王寺大道、同國分町に營業所を設置して業運の發展を計れり、氏の技術優秀以て逐日客筋向上して其數を增し今日の盛業に至る、其後奬められて白木屋四階の理髪部（附子供理髪部）の經營をなし豫期以上の業績を納めつゝあり、因に氏は大阪理髪專修學校教師外同組合評議員、理髪試驗委員等の名譽職に有り、尚極めて親孝行の人と聞く、研究心強く既に多數の發明をなせし事あり將來大に氏の發展を期せらる。

部一の室髪調品三内の營經氏同

大阪市東區北濱四丁目に於て、著名一流の稱あるモーラ理髪館は長谷川三二氏の經營するところにして氏は明治二十年十二月兵庫縣花田村一本松に生る、幼少の頃より敏才と奮闘の資に富み稍長ずるに及び業欲止み難く意を決して、大阪の人となり理髪業の將來改善を目的とし惠心斯業に貢獻すること久しく、遂に宿志成りて現今の經營に入る、先に同店は其前營業者中野恒吉氏の所有する所たりしが、其後氏が京都に轉ずるに及び、後繼者たる長谷川氏が營業全部を擧げて所有するに至つたのである、而して今日の盛業を見る、氏室に着實の人常に勤儉の道を說きて得意たり、門下として出でし者既に百名に餘ると聞く、氏が鄕關を出でて二十五年其奮闘漸く報ひられて、うたゝ感慨に打たれるものあらん、趣味豊かにして溫泉巡り魚釣りを愛すと聞けり、因に氏は大阪理髪專修學校教師を始め其他同組合役員等多くの名譽職にある。



部一の內室館髪理ラーモ

館主 長谷川三二氏

堂島ビルデイング地階に在りて盛業を見つゝある堂ビル調髪室經營者、井上元治氏は、岡山縣眞庭郡久世町の人、幼年にして敏明たるを知られ鄕學を終へて志望制し難く大阪に出づ、始め實業界方面に將來の雄飛を期せんとせしも、中途大に考ふる所あり、卽ち大阪に於ける理髪業の發達未だ至らずとなし、爾來斯業に從事して、一意斯界に名を成さんと、日夜孜々として怠らず、今日の隆昌を見る、先に氏は大阪に於ける、斯業の權威、大阪理髪株式會社の役員として、其發展に相當の貢献を成せしと聞く、實に氏が多年奮闘努力今日をなせしは、以て氏の豪快實行的の資に外ならず、我大阪市に於ける斯業紹介に方りて氏を擧ぐるは其當を得たるものと信ず。

氏治元上井　者營經　室髪調ルビ堂

古金理髪店

古金氏は岡山縣勝山町の人、性溫厚にして勤勉力行斯界の一角に陣取りて急がずたゆまず悠々業務の發展に努力しつゝあり、店舗は市電櫻橋停留所前

館主　佐々木豐氏

寫眞及其附帶事業一般

佐々木寫眞館

現代文化の齎らす若人の歡樂は還り行く文明の刺戟と趣味に於ける時代の要求に依りて、日進月歩その進出を盛んにして止まる所を知らず、之れを以て見るも活社會に喘ぐ人々は其繁激なる活動の裏面に必ず娯樂又は慰安に依つて、一日の勞れを慰せんとする事實が窺がはれる、卽ちこの要求に酬ゆるの最も適當なるは蓋しカフエーの夕べであらう、茲に我大阪市内に盛業を見つゝある、其代表的なものを二三紹介して市内カフエー氣分の概況を述べる。

市内に於て第一指を屈するはカフエーナショナルをそれとす、同店は市内六ケ所に第一より第六まで六箇所の營業所を持ち、之れを總轄支配する淺越長松氏の經營にして明治廿七年未だ我國に西洋料理なるもの丶普及せざりし頃の開業である、茲に聊か淺越氏の爲めに述ぶるに、氏は明治十五年奈良縣磯城郡に生る、幼少の頃より奮闘心に富み業欲止み難く稍々長じて東京に出で專心西洋料理の研究に從事す、曾々現大阪ホテルの前身自由亭と稱へし時代東京より始めて招聘せられし料理人は實に此淺越氏であつた、而して其料理部に勤務して後氏の調理上の手腕は一般の認むるところとなり大に氏が多年克苦勉勵の賜として得意たりしと聞く、後辭してビヤホールを設け生ビールの販賣をなし以て大阪に於けるビヤホール最古の歴史を造る。時遷りて大正六年現在の場所にカフエーを營み、精選せる料理と顧客本位の勉強振りにより爾後逐日業運隆盛を閲して今日の發展を見るに至る。淺越氏寔に資性沈着良く多年の勞苦に克ちて大阪に於ける斯界に其雄をなすは實に偶然にあらざるなり氏の趣味中魚釣りは實に至妙と言ふべく其妙技に至つては天狗連中群を抜けりと。

ナショナルカフエー
營業所在地及各責任者

1	西區本田交叉點前	電西三六二九	支配人(總經營主)	淺越長松
2	西區花園橋電車道西南へ入	電西五六〇九	支配人	吉田新之丞
3	西區松島高砂町一丁目	電西一七六三	同	淺越太一
4	西區大正橋山口銀行南へ入		同	福井廣太郎
5	西區新町南通五丁目	電西一七六四	同	淺越三郎
6	東區松屋町内本町角	電東三〇四三	同	淺越一卯

總支配人(經營主)
淺越長松氏

第一ナショナルカフエー

第六ナショナルカフエー

支配人　淺越一卯氏

第三ナショナルカフエー

支配人　淺越太一氏

オアシス喫茶店

（右より二人目　經營者　加藤志起藏氏）

さゝやかナガラ船場西横堀ニ『上品ナ喫茶店』トシテ又『感ジノ良イ落付ク而白イ店』ダト御噂ヲ戴ク樣ニナリマシテ、商店實社銀行ノ方々ヲ初メ新聞社畫家音樂家方々ノ御集會場ヤ小宴場ニマデ御利用下サイマス事ハ弊店ノ深ク感謝致シテ居ル次第デス。

葉子　貞子
清子　滿里子
澄子　美矢子
八重子　百合子
政子君子

クラブ美身ゼリー

皮膚の營養美身料として四季を通じて愛用せられて居ります。その少量を手のひらにうけて、お顏やお襟によくすりこまるれば、忽ち皮膚は嫩やかに美しくなり又完全に荒れを豫防いたします。

クラブ化粧水

日焦け、あれ、汗疹を防ぎ皮膚のたるみを引きしめ、地肌を整へ、きめを細かにしていき〳〵とした色艶を添へます。紳士方の髯剃りや洗顏後の荒れ止めに、御婦人方の御化粧下や白粉の溶き水に最も理想的な美身料であります。

クラブ乳液

極めて容易に氣孔に吸收せられ皮膚の奥深く透入りますから單に地肌を滑らかに美しくするばかりでなく、皮膚に營養を與へ、またつけた跡はサラリとして肌を爽かにし、日焦寒風、霜雪又は寒氣中に充滿する塵埃中の刺戟に對して皮膚を保護するに最も有效であります。

クラブ美身クリーム

本品の品質効果は、遙に歐米品を凌駕し、如何なる人々の皮膚に用ひられても至極安全で、殊に日焦止め、荒止めとしての効力最も著しく、又御婦人方の白粉下紳士の髯剃後の美身料としても、非常な好評を賜つて居る逸品であります。

大阪北部の歓楽境、美人許は北區曾根崎町にあり、其の名に美ず如く美人連の集團である、合せて凡そ二十名の彼女等は比較的高尚、接客の感じも亦よし、階上日本服、洋服、ネネ子、かよ子、文子、文子等は比較的高尚、接客の感じも亦よし、階下テーブル、日く葉子、

經營主　八木徳松氏

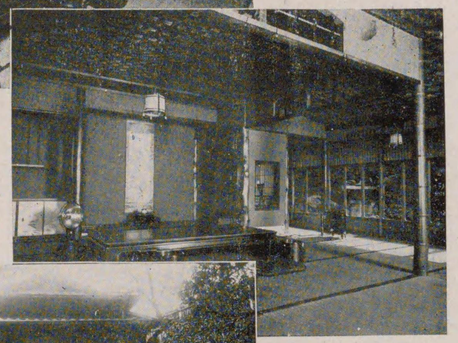
（通橋齋心）　堂食橋齋心祉會式株

谷川恒次郎氏の計に全員整然として業務に就き其業績逐日隆昌にて頗る高評を博しつゝある心齋橋食堂は株式會祉組織にて取締役祉長として大阪第一の繁華地帯心齋橋にありて非常なる料理と勉強主義を徹底し今日の盛業を見る。

大阪名代割烹店電氣旅館

天王寺公園噴泉浴場直營の電氣旅館は、同浴場に隣接せる六百餘坪の大庭園を通じて、建坪三百坪の純日本式二階建大正七年開業以來殆んど連日滿員、善美を盡くした趣向と設備、洗練されたる料理の美味等、以て其の盛況振が窺はれる、幽邃閑雅數奇を凝らした庭苑、館内間毎の構造頗ぶる珍奇、粋な四疊半から、十疊敷の客室は階下を四季の草花、階上を鳥の名に呼び分けて總計廿五室、殊に地下隧道を突き抜けた巖頭には、百合と名付けた風雅な茶室あり、鮎飛び河鹿鳴く溪流に面した丘上には、雪月花に因める珍座敷あるなど、各室毎に變つた心地のよい特色が現はれて居る、宴會場は藝術的優美な舞臺付百疊敷の大廣間、實に理想的の大宴會場である、其他當館特獨の氣分と情緒、清透な内湯の爽快等……大阪市中他に求められぬ唯一の割烹店である。

電氣旅館
菊の間



電氣旅館
竹の間

電氣旅館の
庭園

電氣旅館全景

天王寺公園　ラヂウム溫泉

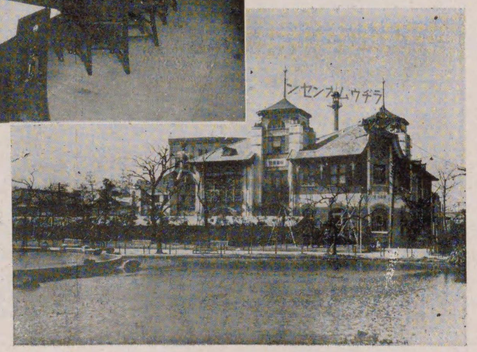
南大阪の歡樂境、新世界の一角に壯麗異彩を放てる、セセッション式三層樓專賣特許二重大浴槽の大建築こそ、大阪名所として千人風呂で名高い、噴泉浴場株式會社經營のラヂウム溫泉である。

同社は大正二年六月資本金貳拾万圓を以て創立、爾來年を閱する既に十五年有餘、業績は逐次發展して今や其の名聲津々浦々に到る迄喧傳され、平均一日の入浴者壹万人を下らざる狀況、斯かる殷盛なる現狀に鑑み、更に擴張大發展を期す可く、昭和二年二月參拾万圓增資の下に、極めて時勢に適應せる近世式趣向を凝らせる大殿堂を建設、同三年初春元旦花々しく開館、其の建築の宏壯優美、內容の娛樂機關の充實等、眞に天下に誇るに足るべく、愈々東洋一のラヂウム溫泉たる眞價を如實に顯はすに到れり、而して其の規模の廣大なる溫泉大演藝場、屋上運動場、大遊戲室、直營食堂の設備、果た又、文化的最新式の試みたる年中泳げる男女溫水大プール（全長廿五米突）の新設等、實に心裡快感を禁じ能はざると共に、斯くの如く名實共に備はつた、民衆的大娛樂場の實現は實に大大阪が有する誇りの一つである。

餘興場

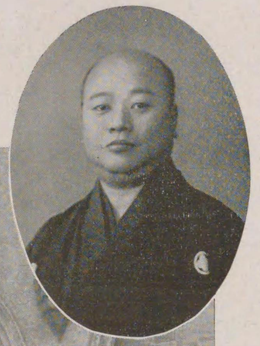
場內廣間

食堂



ラヂウム溫泉

大阪市西區新町南通一丁目に本店を置き、南區宗右衞門町に西明陽軒南支店、西區南堀江北通二丁目に西明陽軒堀江支店を設置し純歐風料理、家族室を特長として一般人氣の焦點にある、西明陽軒は明治四十二年四月現店主辻本千太郎氏の創立せしに係り、同店は料理部の完備と料理人の優秀なる腕前に加ふるに食堂部員に至るまで清潔本位を旨とし併而各室の完備は卽ち家族本位を標榜する如く家族式にコンデンスされて居る、爲に氣分に於ても又食事の感じに於ても實に落着いた氣持がして一般評判頗る良く、經營主辻本氏の工夫寔に見る處あり、食事は營養を支ふるに足ると言へば言へない事もあるまいが、恐らく斯かる料理店にて食事を取る人々の多くは、營養を扶けて其れに伴ふ娯樂を悅ぶと云ふやうな目的があろうと思はれる、卽ち此目的に對しては其需にふさわしく設備万端行屆いた西明陽軒が大阪第一の食堂である、かゝる意味或は結果からであろう、同店の繁盛は逐日其業績を擧げだん〳〵と擴張の必要に迫られ、昭和三年五月南區宗右衞門町に支店を新設せり、同支店の將來も本店並に他の支店と共に經營主辻本千太郎氏及支配人服部武夫氏の飛躍に依り大に期待する所あらん。同店の概況序上の如し。



西明陽軒主　辻本千太郎氏

西明陽軒及其從業員（堀江）

西明陽軒南支店（開店の日）

若葉薫ほる初夏、南地宗右衛門町のあたりは其街特有の落着ある中にも亦、何となく見る物聞くもの生き〳〵と感ぜられる、こゝに新装全くなりて開店せる、西明陽軒南支店は今後の隆盛増々大なるものあらんと期せらる、又場所柄斯かる、重賓便利にして感じ第一主義の営業が一般の人々に迎へられない譯もなし、即ち辻本氏の着眼以て當れりと言ふべし。

室族家間本日き良る頗判評

西明陽軒料理部員（新町）

西明陽軒食堂部員（新町）

純歐風料理を熟練せる料理人により、調理せられ清楚な、而も落付ある室内に於て、清潔なる服装を整へた給仕人に運ばれ、同伴者樂しく家族的に食事をする事が出來るところに家族室の特長を見る

創業者　鈴木つま子女史

四季を通して喜ばるる贈物　弊店はすべて直輸入の品ばかりを提供いたしますから純良品をひかくてきお安くさしあげることができます。オリエンタルホテル、ミカド本店など一流のレストラントの御用命をうけて居るばかりでなく日本酒のごときわるいアルコール分があり ませんから日本酒のがいを感ぜらるゝ人々のため 醫師方や藥店等にとくに愛用せられてをります。

主なる取扱品

ボルドーブドー酒
モンバジラツク
佛國ポートワイン
ブルゴンブドー酒
シヤンペン
コンニヤツク

日佛の親善は熟してきました。日佛貿易のはつてんはわが國貿易増進上重要の一事であります。かれにブドー酒があり、われに絹があります。リオンの市場にわが絹をさかんに送らんにはかの國産を輸入せねばなりません。單に輸入防止を口にする者の中にはその一を知つて二を解しないものがあります。

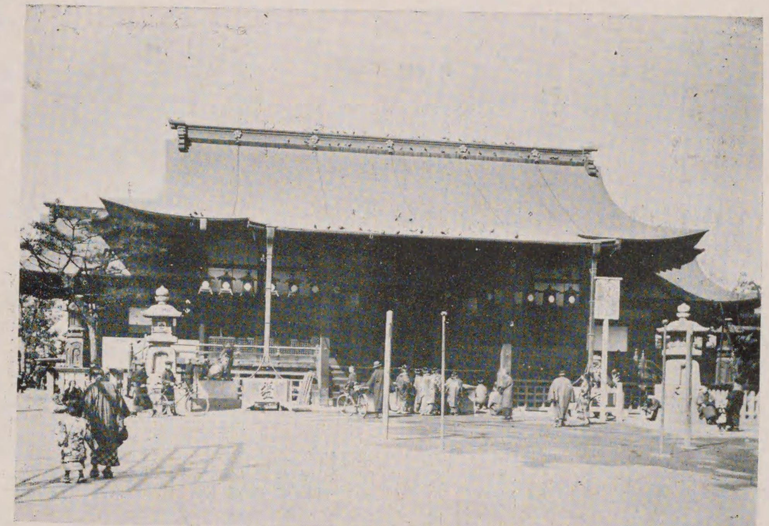
おほく輸入しおほく輸出してその結果の對照指數が輸出超過を見るやうにすることが貿易の國家的眞義であります。

芳醇なるブドー酒を味ひ佛國を知り日佛の貿易はつてんをたすけられんことを希望いたします。

（モンバジラツク）

日　佛　商　會

兵庫縣御影町篠坪　（電話御影一五六四）



天滿宮（北區天滿）

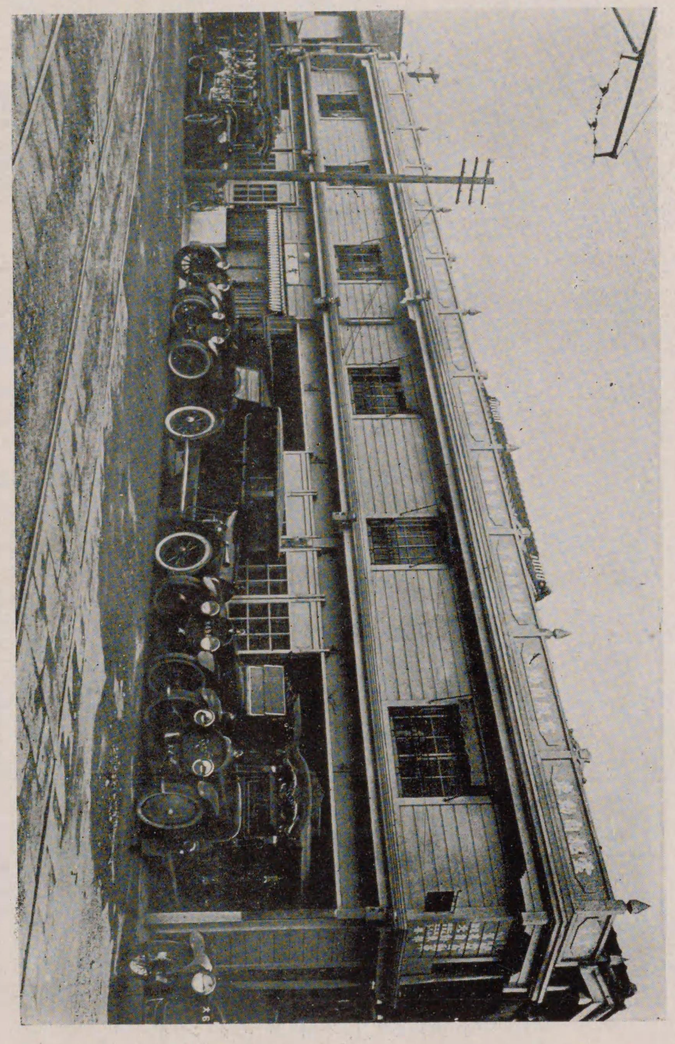
吾天滿宮は天暦のむかし鎭座ありしより千年の星霜をへて赫々たる神威の日に新たなることは世人のしるところ也年中奉仕の祭儀多きがなかに夏祭は鉾流の神事と稱し古來祭日に天滿川に鉾を流しそのとゞまるところを御たび所として假屋を造り船渡御のありしを元和年中囃喉場に御旅所を定めそのゝち戎島にうつし明治四年松島を神幸の地としてさらに行宮を創建するに至れりこの神事は六月廿五日なりしを以て名越の御禊とも夏秡とも名づけ明治五年改暦の後七月廿五日を祭日となして通俗に天神祭と稱するに至れり彼その沿革を畧記していさゝか參考に供すと云爾

天滿宮社司しるす

歴史ある斯界の老舗

式事請負業
最高級
雜儀用自動車
開祖

駕友
本店
電話堀川（35）三九九一〇番
電話堀川（35）三九九一〇番



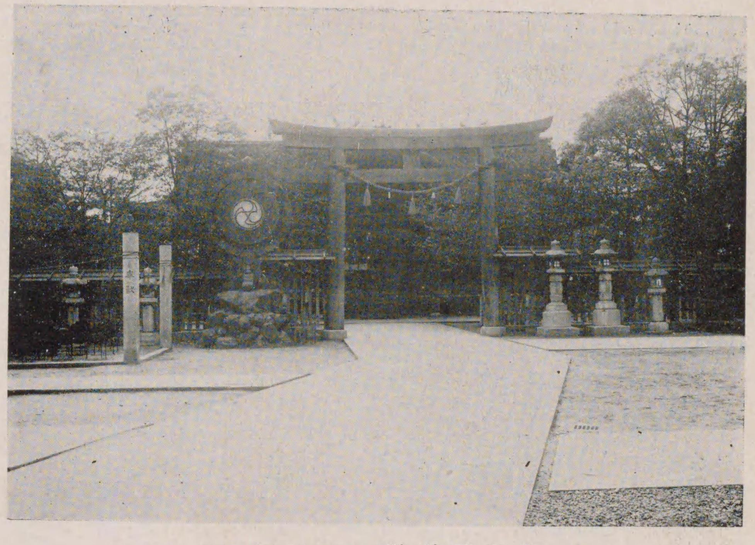
（地番一廿町廣末區北市阪大）　景全店本友駕

官幣大社住吉神社（住吉）

藤田邸　庭園の一（追加）

天理教本部（大和天理）

アングロスイス工場（追加）



生國魂神社（天王寺區生玉町）

大黒
粟おこし
福おこし

大阪名所……と……大阪名物

伊吹堂病院

外科

一、整形外科
一、外傷外科
一、内臓外科
其他外科一般
一、X光線科

院長　大村義信

大阪市東區東雲町二丁目二〇四
大玉阪造
伊吹堂病院
電話東三八五七番

入院隨意

川合信男氏

職業的自覺

第一生命保險相互株式會社
大阪支部　川合信男

今回畏友森岡市藏君が主幹せられて、大大阪書報の發刊を見ることは、私の親友としての君の企てであるがためのみならず、汎く吾等の大大阪が滿天下に紹介せられ、意義深き事に對し、愛市觀念よりして、この擧に敬祝の意を表するのである。

同君がこの難事業であるところの大書報を、いま目出度く何の支障なく發刊せられたるは、同君が日頃誠實と謙讓の人であり、そして老練なる事業家であらうけれど、またこの壯擧の敢行までの、その意氣と奮鬪振りにもよるところ多大で、常に外交の途にある私の大いに啓發せしめられるところである。

私がいまこの大書報の貴重なる紙面を與へられて、私の淺薄な感想ではあるが述ぶるの機會を得たるを深く光榮とする次第である。

今や我國が內治外交は申すに及ばず、精神的方面にしても物質的方面にしても危機に瀕しつゝある秋であることは何人も首肯せしめられるであらう。この重大なる時に際會して、一社會人としてこれが救濟策の根本的に考量しなければならない義務を感じるのである。

私が常に遺憾に思つて居ますことは社會の人心があまりに多く物質的に流れすぎて、我利々々主義の弊害に陷つてゐることである。政治家と言はず、教育家にしろ、宗教家にしても、其他國家社會を善導すべき地位立場にゐる人々さへ我利々々主義、利己主義に、流れ名聞利慾に走りすぎて、その間何等の節操がなく、金錢の爲めとか、名譽地位を得るためとかに對しては、手段方法を撰ばず、道德の軌範を脫して、往々人格までも賣らんとする不德漢の多い事は唯歎くの外はない。

國家社會の如き有機體にあつては、それを形造る部分たる個人は、各國家社會への貢獻のために與へられたる使命天職があるもので

相互にその天職に忠實であり、これによつて自己を生かすと共に他をも生かす事に努めなければならない。その天職を全うするためには誠實であらねばならぬ事は言を俟たぬが、政治家は政治家として、國民の福利增進を計るべくよき政を攝るの天職にありながら、現今では、それを忘却して自己の名聞利慾に走り、自黨の擴大に專心し、教育家は教育家で、健全なる第二國民の養成に務めなければならないにも不拘、自らの榮達のためには、その本分を忘れはてゝると言ふ有樣で、その他萬般の職業に從業してゐる者がすべてその天職を忘れ、自己の地位職業を利用して自らのために努め、人間としての道を踏み誤つてゐるものが澤山にあることは、深く悲しむべき現象である。

特に現代實業方面に關與してゐる人々のその精神に至つては、語るに忍びざるものさへある。これ等の人々は營利を目的とすると言ふ理由に隱れて、利害の打算よりして道德的罪惡を眞の罪惡ではないやうに曲解して、得々と不正なる業に從事してゐるものが多いので、これ等の人々は法文に觸れなければ、どんな罪惡を犯してもよいと言ふ考へらしい、これは全く眞の宗教的信念の缺けてゐる結果であると、私は考へるのである。

我國民は小學校より大學に至るまで修身教育が授けられてゐながら、何等そんな特別の修身教育を受けない歐米人よりも道德的に低級であるのは全く宗教的信念の缺けてゐる結果と思はるゝので、彼等歐米人は生れ落ちて以來家庭的に宗教教育を施され人間以上の力を見出して、實生活に反省の美德を養成してゐるのであるが、吾國民には之れを缺くものが多い、人生は道德的でまた宗教的であらねばならぬと、私は思ふ。

事業家の心、卽ち宗教家の心でなくてはならん。宗教家にして事業家の心を取入れることの出來ないものがあれば、それは眞の宗教家ではなく、人間の實際生活を全く離れて宗教の存在すべきものではない。又宗教家の心になり得ない事業家がありとすれば、それは社會生活を營む上での敵である。事業とは不善を爲す意味ではないので、若し不善を敢へてなさなければ事業の存續が困難であれば、そうした事業は潔く棄てるが當然である。

茲に申すまでもなく保險は社會人の共存共榮を根本としての福利增進を計る事業であるから、これが勸誘に從事するものは、實に宗

教家の精神を以つて進まねばならないのである、然るに自己の利慾にのみ心をくだきて敢へて不善をなして省みざるものゝ多きをみるは事業の性質上實に歎かわしいことである。私達も人間である以上身分相應の生活を維持する必要があり、且つ後顧の憂を除去するための蓄積は必然的の義務であるが、金を得るために、その事業の純眞に傷をつくるやうな不善を敢へてするは、斷じて採らない途であると、私は深く信ずるのである。

故に其職にある吾人は、前述の如く事業家の精神、即ち宗教家の精神、宗教家の心、即ち事業家の心と言ふ方針でその職に精進すべきものであると思ふ。

この意味からして、私は現在の職業殊に第一生命保險相互會社を撰んで、過去五年間これに從事してゐるのである。第一生命は他の株式組織の會社と異り、共存共榮を徹底的に實行し得て、被保險者即保險者、保險者、即被保險者で、その間第三者に利益の壟斷を許さず、一も被保險者の利益、二も被保險者の利益として、會社の利益は、すべて被保險者へ戻り得る組織は、まことに生命保險事業としての共存共榮の眞精神と、最少の出費の下に最大の効果を得る經濟の原則とを、徹底的に實行し得てゐる會社で、そのモツトーとして掲げてある我社の主義と理想は即ち

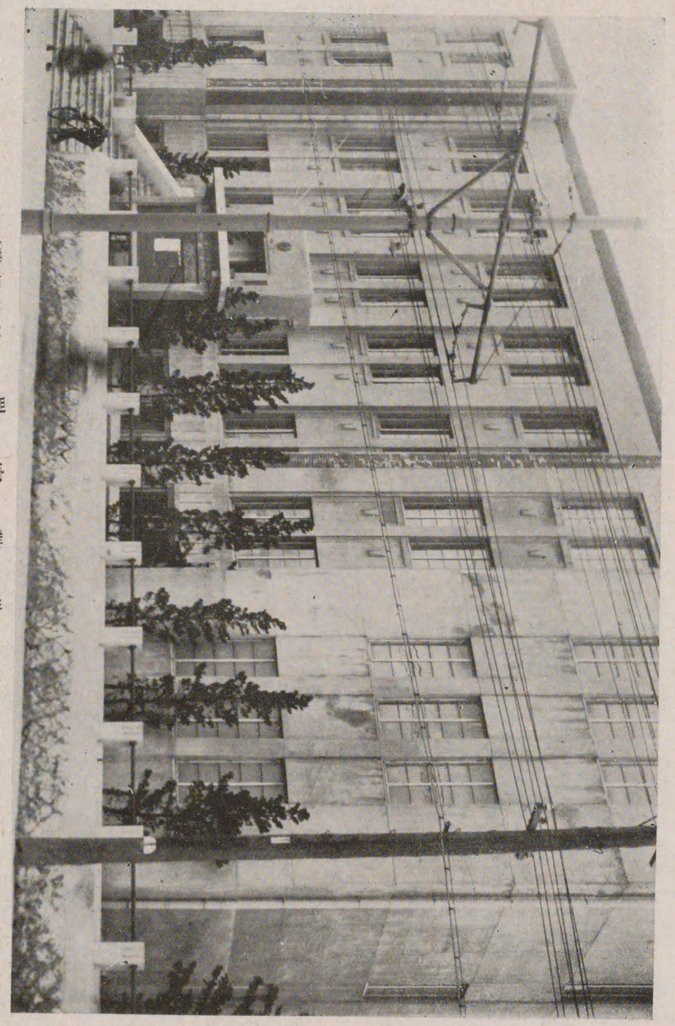
A、非射利主義　B、會員本位

C、徐々に急がん　D、最良の會社

（曰く最大の會社たらんとするにあらずして常に最良の會社たらんとするにあり）

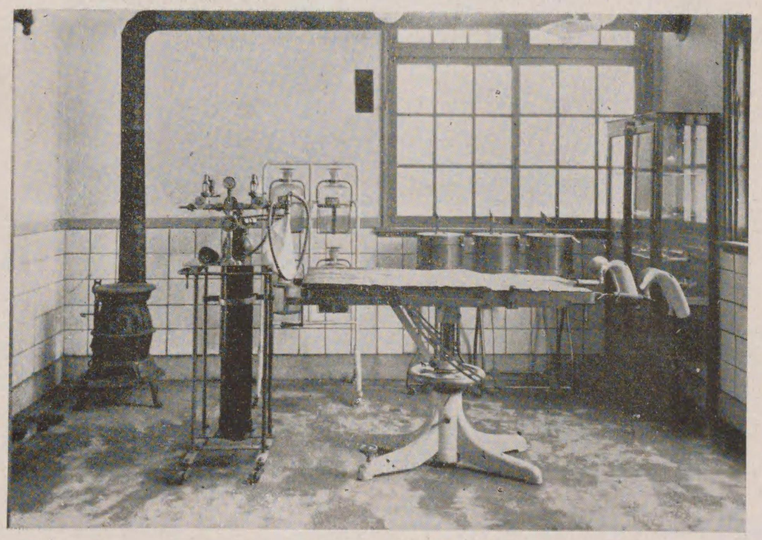
であつて、私の信念から活動し得る會社は恐らく、我國現在の生命保險會社中、この第一生命だけだといふことをこゝに述ぶるとともにその會社に職を奉ずることを私は、まことに光榮且つ感謝してゐる次第である。

この自他ともに利あらしめる信念こそ、あらゆる職業に共通の根本精神で、今日の社會問題を解決する精神的の根據たるべきを固く信ずるものである。



（載揭加追）　署　察　警　造　玉

職業紹介所（追加掲載）



弘齊病院手術室（追加）

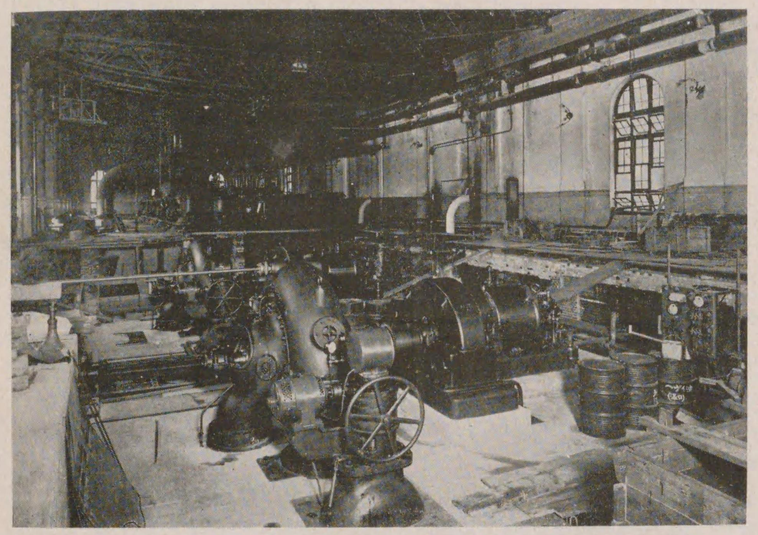
大阪市全景の一部（追加）

（原稿遅延の爲め此處に特掲）

早川源一郎氏

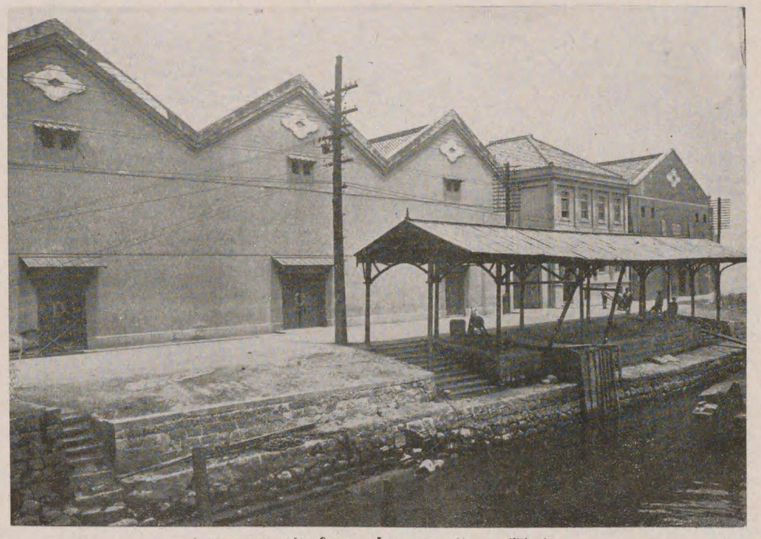
我國海產物界に名聲嘖々たる早川源一郎氏は明治十六年東京市に生る資性豪放にして細心なる事も又稀に見る人、先代よりの業に育ちて商才に富み商機一度び氏の頭腦を煩す時は其觀察神の如く機敏にして、以て斯界一般より敬せらるゝ所以。

尙氏は趣味豊かにして就中遊裡に通じ、政治方面にも相當飛躍せらるゝと聞く。



市水道課吸上喞筒　（追加）

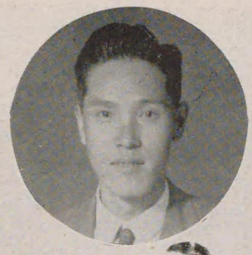
安原病院の病室　（追加）



大阪に於ける古き倉庫の一例
（倉庫　住友）

中の島公園　（追加掲載）

營業の方式頗る新式── 新調よりの修繕に至るまで非常に親切
裁斷は必ず店主自らこれを行ひ── 洋服の生命たるスタイルに於て亦申分なし
價格底廉に驚く　**中村洋服店**　（カネキシ）　凡て現金主義
大阪市北區曾根崎町公園北口



店主
中村安太郎氏

奈良公園　（神鹿の群れ）

本書著者蜂谷經一氏が米國生活中無名の大使として同國活動寫眞大家にして
氏の親友チヤーレー・チヤツプリン氏と大ニコニコの日米親善ぶり。

後藤子爵序文
蜂谷經一氏著

亞米利加の旅

東京市神田區表神保町二番地
發行所 研文館
發賣所 東京 東京堂
東京 東海堂
大阪 柳原書店
大阪 三笠屋食料品店

本社は右著書を廣く普及して我國民一般が眞の米國及其國情に對す理解の度を進めしめんため茲に紹介す

卷中盡く大平洋の彼岸を彷彿す
左に其目次を列記して紹介の辭に替ゆ

△神戸よさらば
△遠州灘の夜
△大平洋の朝日
△桐の小箱
△洋上の悲劇
△平和な海の年末
△沙港に着く
△禁酒國の酒の味
△シアトル見物
△邦人の商店巡禮
△タコマの軍人
△タコマの『パクチ』
△晩香坡へ
△邦人の製材所
△車中で知つた金髪の美人
△米國の岡山(ポートランド)
△林檎の山
△オレゴンの景勝
△ハーデー翁の舊居
△桑港へ
△汽車を渡す船
△嬉しい練習艦隊
△葡萄のフレスノ
△映畫の都羅府
△早川雪洲夫妻を訪ねる
△チヤップリン君に會ふの記
△ある密入國者の話
△飛行機からみた羅府
△淋しい邦人の生活
△コロラドの曠野
△快い旅館と融通のきく汽車
△病的興奮の都(シカゴ)
△通信販賣の元祖
△二つの喜劇
△ストックヤードの屠場
△ナイヤガラの瀑布
△紐育に入る
△『イエス』の祟り
△大紐育の鳥瞰
△ルーズベルトの墓
△夜のブロードウエー
△中央公園の夕べ
△百貨店で感じたことゞも
△自由の女神
△一弗の時計
△警見のワシントン
△ロッキーと螢
△十九人の女房
△桑港飛び歩る記
△桑港のある夜
△桑港よ左樣なら
△ホノルヽの一日
△ヘンリーの母の幻
△横山將軍物語
△水を飲め
△カフエテリヤのこと
△巧みな宣傳
△自動車の話
△自動車と公德
△消防自動車と市民
△死者への禮
△略語とシヤツプ
△私刑
△弗の至上主義
△裏の裏
△惡の世界第一
△米國婦人の美點
△手荷物並みのこども
△ある笑ひ話
△嬉しい新聞と手紙
△土產物を選ぶには
△『その前夜』物語
△横濱からニューヨークまで
△船の選擇
△シアルトルより
ニユーヨーク
△サンフランシスコから
ニユーヨーク

〔餘聞錄〕

(亞米利加の旅 定價壹圓八拾錢)

羊の歩み發行所
京都市下京區壬生川通五條下
振替大阪一四八四五
同朋舍出版部

中井玄道先生秘藏の寫眞(世上あまり知られざるもの)
日露講和談判の際小村全權公使が「コツソリ」と米國に上陸されたのもたれさ影撮めたの念記と人知の迎出際
(中央座せるは小村侯・左より三人目は現マスターオブアーツ谷川義男氏の米國大學生時代)

マスターオブアーツ
谷川義男氏著
(大東海上重役)

羊の歩み

定價三圓八十錢

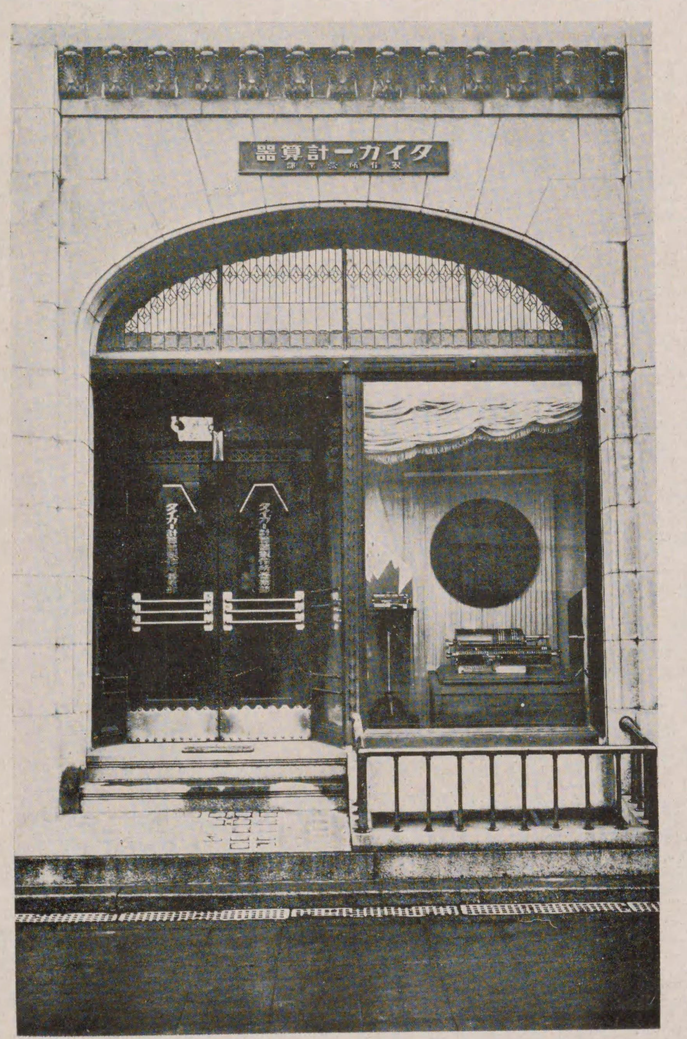
本社は右著書を弘く普及の目的にて茲に其目次概要を紹介す

目次

第一編
○歐米に於ける慈善事業の根本主義
○慈善と社會改良
○米國に於ける不良少年感化事業
○ヘンダーソン博士を悼む
○倫敦のアウトキヤスト
○宗教家と社會事業
○末とほりたる慈善
○社會改造と親鸞主義
○小河博士を悼む
第二編
○オイケンの倫理宗教觀
○エリオット博士の『將來の宗教』
○雄辯の心理學的研究
○英語研究の道德的價値
○ウイリアム・ゼームス博士逝く
○倫理より宗教へ
第三編
○人生の理想と宗教
○性の問題と宗教
○迷信と正信
○家庭の宗教的感化
○現代生活と宗教
○亞米利加の宗教
○現實動
○奇蹟と預言
○智識の相對性
第四編
○日の國と星の國の婦人
○酒と煙草
○歐米諸國と酒
○米國禁酒令の社會的効果
○公德なき社會
○犧牲の本源
○克己と人間の本性
○震災の道德的意義
○現代の世相に對する佛教徒の責任
第五編
○永劫の權威
○大なる自覺
○二十九歲
○他力教と道德
○無倦の大悲
○我等は生死の凡夫かは
○たゞ念佛のみぞまことにておはします
○忘れられたる恩海
○自己省察
○親鸞教徒の使命
○自己の醜き姿を凝視して
○親鸞聖人に復れ
○流行の親鸞を排す
○不動の信念
○親鸞教の特徴
第六編
○歐洲旅行日記
○十月十九日
○聖跡順禮記
○平戸所見
○帝都の燒跡を見て
○三朝溫泉より
第七編
○私の祖母
○居を移すの記
○待ちぼけを喰ふ記
○大正三年
○舊友綿林君を憶ふ
○愛兒を失ふて
○米國を悔悟せしめよ
○放送器の前に立ちて

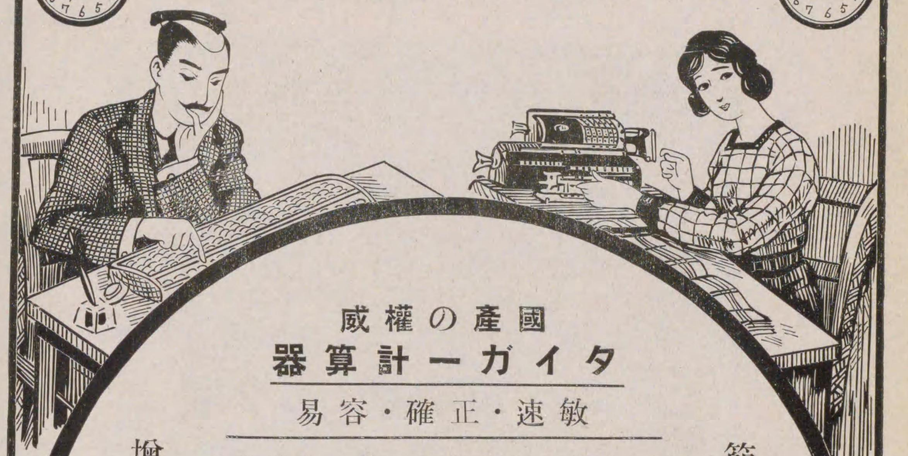
り狩ゴチイの知恩一の事行中年線沿軌大

景全橋棧大港築



タイガー計算器製作所大阪營業部

計算事務の機械化



國產の權威

タイガー計算器

敏速・正確・容易

節約！ 腦力・時間・經費

計算事務の敏速と正確とを期し能率の增進と經費の節約を圖るには『時代に適應して常に是が改善の工夫を凝らし、煩瑣を除き、簡易に就き努めて機械の應用を圖り、執務に興趣を感ぜしめ、頭腦の疲勞を除去する方法を講ずる事』即ち計算事務の機械化を最良の策なりとす。

タイガー計算器は單に指頭の運動により加減乘除の複雜なる大數字の計算を熟練を要せず迅速正確容易に計了し八乃至十數倍の能率を發揮し而も頭腦の努力と疲勞極めて少く愉快に執務し得らるゝを以て近時益々增加の傾向ある腦の過勞に因る健康上の障害を減減し得。（說明書贈呈）

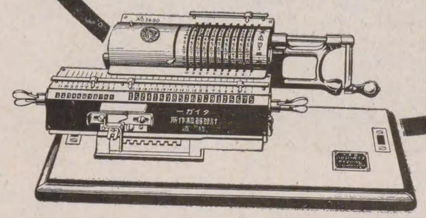
增進！ 健康・能率・利益

製造發賣元

タイガー計算器製作所

大阪營業部・大阪市西區京町堀上通一丁目
電話土佐堀二四五三・四七七四・六九四六・六九五四
振貯大阪五〇四三三

東京營業部・東京市京橋區北槇町十
電話京橋(五六)六五五〇番・振貯東京六九九九四



日本人は日本品を愛せよ！